



Anniversary 1966 - 2015

一般社団法人 島田青年会議所

50 周年記念誌

Junior Chamber International Shimada



伝承

～古き良き時代を想い、新たなる時代を築く～

Anniversary 1966-2015

一般社団法人 島田青年会議所
50周年記念誌

Junior Chamber International Shimada



JCI Creed

The Creed of Junior Chamber International

We Believe:

That faith in God gives meaning
and purpose to human life;
that the brotherhood of man
transcends the sovereignty of nations;
That economic justice can best be won
by free men through free enterprise;
That government should be of laws
rather than of men;
That earth's great treasure lies
in human personality; and
That service to humanity is the best
work of life.

我々はかく信じる：

「信仰は人生に意義と目的を与え人類の同胞愛は国家の主権を超越し
正しい経済の発展は自由経済社会を通じて最も良く達成され
政治は人によって左右されず法によって運営されるべきものであり
人間の個性はこの世の至宝であり人類への奉仕が人生最善の仕事である」

JCI Mission

To provide development opportunities
that empower young people to create positive change

青年が積極的な変革を創造し開拓するために、能動的に活動できる機会を提供する。

JCI Vision

To be the leading global network of young active citizens.

青年の行動的・市民活動を支援する国際的なネットワークをもつ先導的機関となる。

JC宣言

日本の青年会議所は
混沌という未知の可能性を切り拓き
個人の自立性と社会の公共性が
生き生きと協和する確かな時代を築くために
率先して行動することを宣言する

綱 領

われわれJAYCEEは
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じうする者相集い力を合わせ
青年としての英知と勇気と情熱をもって
明るい豊かな社会を築き上げよう



ご挨拶

1966年5月20日「JCの若さで創ろう明るい未来」のスローガンを掲げ、静岡青年会議所、藤枝青年会議所をスポンサーに仰ぎ、社団法人日本青年会議所より323番目の青年会議所として認証を受け発足しました。以来、先輩諸兄の汗と涙の結晶その全てを現在まで受け継ぎ、50年という年月を重ねて参りました。そして、この節目を迎えるにあたり、今日まで一般社団法人島田青年会議所の活動が続けることができたのは、偏に地域住民の皆様、各地会員会議所理事長をはじめとするメンバーの皆様、敬愛してやまない先輩諸兄の皆様方のご理解、ご支援、ご指導があったからこそその賜物と深く感謝申し上げます。

青年会議所のメンバーは40歳までという限られた時間の中で、地域の青年としての大きな責任を自覚し、我々の住むこのまちを夢と希望に満ち溢れた未来へ導く地域のリーダーとして日々邁進しております。

より良き明日を目指して今日の犠牲を払うことを厭わず、尊い時間を地域の成長を考えて活動していく中で自分自身の成長に繋がっていきます。そして自身の成長が組織発展に、発展した組織から生み出される尊き志で地域の成長へと繋がり、ひいては日本を元気にしていくことができると我々は信じております。

本年度、50周年を迎えるにあたり「伝承～古き良き時代を想い、新たな時代を築く～」というスローガンを掲げ、脈々と受け継がれてきた先輩諸兄の想いを胸に抱き、愛する地域、家族、仲間のため、しっかりと前を見つめ更なる高みを目指し、青年らしく堂々と臆することなくメンバー一丸となり進んで参りました。今一度、原点に戻り、古き良き時代を想い、新たな時代を築き青年が青年らしく、あるものをよりよく能動的に変革して、5年、10年後も地域のリーダーとなるべく活動していくことをお誓いし、引き続き一般社団法人島田青年会議所にご指導、ご鞭撻をいただきますよう心よりお願い申し上げます。



祝 辞



島田市長
染谷 絹代

一般社団法人島田青年会議所が創立50周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

一般社団法人島田青年会議所は、昭和41年の結成以来、同じ志を持たれた若者が結集し、経済・産業の振興はもとより、明るく豊かな地域社会の実現に向けて積極的なまちづくり活動を展開され、地域の発展に多大な貢献をいただいておりますことに深く感謝申し上げますとともに、その熱意に心から敬意を表します。

人口減少社会、少子高齢化社会を迎え、地方創生への取り組みが急務とされている今、地域課題に的確に対応し、持続・発展可能なまちづくりを進めるためにも、市民や各種団体、企業などが積極的に参画する「協働のまちづくり」が必要となっています。

本年、島田市は新市誕生10周年の節目の年を迎えておりますが、この新市誕生10周年を契機に、市民協働の歩みを加速させるまちづくりを実践する取り組みとして、様々な記念事業が市内各所において実施されています。

また、ゆめ・みらい百人会議の開催をはじめ、自治基本条例の制定に向けた市民会議の開催など、市民の皆様が自主的に参画できる機会を拡充し、今後も市民と行政が果たすべき役割を共有しながら、一体となってまちづくりを推進してまいります。

これからのまちづくりには、「シンク・グローバル、アクト・ローカル」が不可欠であると考えています。グローバルな視野で考え、地域から行動を起こすことで、島田市にしかできないことを実現する。新しい価値を発見し、これまでにない連携の仕組みを創出し、地域密着の価値を知ることによって、協働のまちづくりは達成されると確信しています。

そのためには、貴団体の持つ若い力、情熱と行動力は、このような取り組みに対してだけでなく、本市のさらなる発展と市民生活の向上に向けた大きな推進力となりますので、今後ともお力添えを賜りますようお願いいたします。

結びに、創立50周年を契機として、一般社団法人島田青年会議所が組織力と行動力をさらに発揮され、地域社会の発展の原動力として、引き続き、大いに貢献されますこと期待しつつ、会員各位のますますのご健勝、ご活躍をお祈りし、お祝いの言葉といたします。



川根本町長
鈴木 敏夫

島田青年会議所の創立50周年誠におめでとうございます。

ちょうど10年前、当時本川根町長だった私は創立40周年の記念誌に寄稿させていただきました。

本川根町はその後中川根町と合併し、現在の川根本町が誕生しましたが、今年10周年の節目を迎えております。

この節目の年に、新たな町の長として創立50周年の記念誌に再び寄稿させていただけることに、深い感慨を感じます。

10年前となる2005年を思い返せば、平成の大合併による新たな市町の枠組みが作られていく中、日本の人口が初めて自然減少となった年でもあり、そこから始まった大きな流れが、昨今の社会に様々な影響を及ぼし始めた変化の年でもありました。

このような流れの中でも活力を失わず、地域を支え続けてきてくれたのが青年会議所の皆様をはじめとした地域を愛する思いと情熱にあふれた若い力であり、これからも地域社会を守る頼もしい存在であると思います。

年齢を問わず、多くの仲間たちとの経験によって作られる人と人との絆は、何物にも代えがたいとても貴重なものであると考えますが、それを育てる場所として活動をしてきた青年会議所の存在はとても重要な役割を果たしており、50年という歴史を重ねてきた事がそれを証明しております。

これから始まっていく地方創生という新しい流れの中で、青年会議所がこれからも生み出してゆく多くの人材とその絆が、地域をさらに元気づける大きな原動力になると信じ、お祝いの言葉とさせていただきます。



第22代理事長
島田青年会議所
シニアクラブ会長
鈴木 國近

島田JCの広報紙のタイトルは《先駆》です。JCソングより拝借して命名したと伺っております。私達は《青年としての英知と勇気と情熱をもって明るい豊かな社会を築きあげよう》という綱領の基、様々な活動をしてまいりました。20周年の記念事業で行われた《人間架橋》は、谷口橋の大渋滞解消のため《新橋架橋》へと大きなインパクトを与えました。現在の島田大橋の地で人と人が手をつなぎ、大井川に人の橋を架けた大事業でした。また昭和62年には静岡県空港候補地に現在の《富士山静岡空港》が《島田南》の名で、50を超す候補地の一つとして指名されました。最後は当地と浅羽沖と小笠山の3ヶ所に絞られ、熾烈な誘致合戦の後、同年12月に我々の地に決定いたしました。島田JCが市や商工会議所と連携し、県下隈なくPRし、県庁や霞が関へ何回も陳情を行った成果でした。今日、空港を利用する度に当時の事が思い起こされます。

ところで、私は24歳から16年間JCに在籍していました。この間、LOMの理事長、日本JCでは研修委員長や同議長に出向し、数多くの経験を行うことができました。大学生時に父親が早世した私は、学業と稼業の二足のわらじを履きそのまま社会人になりました。他人の飯を食う機会がなかった私にとって《JC》での体験は、社会人としての《自己形成》に大変有意義でした。同級生が活躍するブロック大会で「あ、俺も!」との気づき、或いは「俺がやらねば誰がやる」等、40才の頃までに得た《行動規範》の多くは《JC》由来です。いずれも《本気で》《真剣に》《自らが積極的に取り組む》ことの重要性を体感いたしました。それらの経験が自分自身の会社経営や、地域社会への関わり方に活かされている事は、枚挙に遑がありません。

50年の島田青年会議所には、延べ350人を超すそれぞれのJCへの思いがあります。その一つずつが、明日の故郷発展の《礎》になると思います。先輩から後輩へ毎年引継がれる《JC》は、次の世代へ常に《創造をうながし続ける》まさに《先駆ける》素晴らしい集団です。50周年を節目として、未来に向かい更なる精進を期待いたします。



公益社団法人
日本青年会議所
第64代 会頭

柴田 剛介

平素より、公益社団法人日本青年会議所に多大なるご理解とご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。また、一般社団法人島田青年会議所創立50周年記念式典が開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

さて、昨年はアベノミクス効果の影響を受け、日本経済が再び力を取り戻す年となりました。また集团的自衛権の行使容認の閣議決定など、歴史的に大きな節目を迎えた年でもあります。本年4月の統一地方選挙では与党の圧勝で終わり、これまでの経済戦略や地方創生などの国家方針が再び強く支持されました。このように国家が示す方向により期待が膨らむ本年だからこそ、我々青年は、どのように地域に山積する課題と向き合うのか、現実を直視する勇気が求められています。地域が慢性的な不況のまま殺伐とした地域へと成り下がるのか、それとも先駆者として課題を乗り越え、再興を遂げた地域として脚光を浴びるのか、これは一概に政治家や官僚の裁量や責任ではなく、我々青年の肩にかかっています。

本年、日本青年会議所では『文化と文明が生み出す「底知れぬ力」による日本再興』を基本理念として活動を進めております。日本は高度文明社会の中で、古来の文化を守り、時には独創的な文化を創り出す、そんな「底知れぬ力」を持った万世一系世界最古の自然国家であります。そこに我々青年の斬新な発想力が加われば必ずや日本は地域から再興できると信じてやみません。

結びとなりますが、島田青年会議所の更なるご発展と磯田理事長をはじめとするメンバーの皆様のご多幸とご健勝を心よりご祈念申し上げ、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

祝 辞



公益社団法人
日本青年会議所
東海地区協議会
会長

杉澤 教人

一般社団法人島田青年会議所創立50周年を心よりお祝い申し上げますとともに、創始の精神を忘れることなくこれまでの歴史を築いてこられた先輩諸兄、現役メンバーのご尽力に心より敬意を表します。また、平素より地区協議会の運動に格別のご理解とご高配を賜り厚く感謝申し上げます。

貴青年会議所は1966年に全国323番目のLOMとして設立され、常に先進的なJC運動を広く展開し地域の発展に貢献されてきました。本年は磯田辰哉理事長のリーダーシップのもと、「伝承～古き良き時代を想い、新たな時代を築く～」をスローガンに、先人たちが築いてきた歴史や伝統を継承し、時代や社会情勢に合わせた運動を展開されています。大井川の美しい流れのように、皆様が誇りある日本人として地域やご縁の大切さを自覚し、活力ある地域の創造に向け邁進されますことを心よりご期待申し上げます。

さて東海地区協議会は、42年目を迎えるJC青年の船「とうかい号」や地区事業集大成の場である東海フォーラムを中心に、時代を切り拓く先駆者として、地域愛溢れる東海を実現し、日本を再興すべく邁進して参ります。この国のため、この国の未来を担う子供たちのために、共に地域を変革して参りましょう。

結びに、貴青年会議所が今後も明るい豊かな社会の実現のため、奉仕・修練・友情の三信条のもと地域を変革し、多くの優秀なリーダーをご輩出されることをご祈念申し上げ、お祝いの言葉とします。



公益社団法人
日本青年会議所
東海地区
静岡ブロック協議会
会長

藤田 尚徳

一般社団法人島田青年会議所創立50周年の佳節を心よりお慶び申し上げます。また、平素より公益社団法人日本青年会議所東海地区静岡ブロック協議会2015年度の運動・活動に多大なるご協力を賜り、衷心より感謝申し上げます。この度創立50周年を迎えるにあたり、現役メンバーの皆様に於かれましては、先輩諸兄の想いや、自らの担いを改めて心に刻む大きな契機となったのではないのでしょうか。

さて、本年度貴青年会議所に於かれましては、磯田辰哉理事長の掲げたスローガン「伝承～古き良き時代を想い、新たな時代を築く～」のもと、地域社会や先輩諸兄への感謝を胸に、力強く2015年度の事業を展開されていることと確信しております。地域を輝かせるためには会員の成長が不可欠であるという信念を基軸とし、研修事業の展開、会員の増強、更には会員同士の交流に注力することにより盤石な組織基盤の構築に努められており、まさに新しい時代を創るには最も必須な要素が醸成されております。今後これらの活動が確実に実を結び、力強く地域の未来を担われていかれますことを心よりご期待申し上げます。

結びに、静岡ブロック協議会も本年度掲げる「情熱を燃やし今挑め、静岡の未来は現代の努力で決まる」というスローガンのもと、共に力強く歩み続けることをお約束いたします。そして、貴青年会議所が地域から必要とされ仲間に関わり続ける組織であり続け、更なる発展に向けた素晴らしい一年となりますことをご祈念申し上げ、創立50周年のお祝いのご挨拶とさせていただきます。



一般社団法人
藤枝青年会議所
理事長

笠原 大輔

一般社団法人島田青年会議所創立50周年にあたり、スポンサーJCを代表して心からお喜び申し上げます。

貴青年会議所が、1966年に全国で323番目の青年会議所として発足して以来、50周年という歳月が経過しました。この間、数多くの先輩方から受け継がれてきた伝統と情熱、そして行動力をもって、地域社会の発展のために率先してJC活動を展開し、これまでの歴史を築いてこられたことに深く敬意を表します。

一般社団法人島田青年会議所の皆様におかれましては、磯田辰哉理事長が掲げられたスローガン「伝承～古き良き時代を想い、新たなる時代を築く～」のもと、地域の未来のため、次の5年10年へと文字通り新たなる時代を築き、進化を遂げて頂けるものと存じます。

我々一般社団法人藤枝青年会議所も志を同じくする仲間として、また、同じ静岡県中部地域の発展を担う同志として共に切磋琢磨し、貴青年会議所と手を携えて地域社会の明るい未来の実現に向け邁進していく所存です。

最後になりますが、一般社団法人島田青年会議所の益々のご発展とご活躍を祈念し、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

50年の軌跡

1966年～2004年 歴代理事長紹介

1966年 ～昭和41年～

日本 JC スローガン
JCの若さで創ろう明るい未来

初代理事長
川崎 泰司



役員及び委員会

理事長	川崎 泰司	総務委員会委員長	奥川 修司
副理事長	柴田 保雄	奉仕委員会委員長	川崎 秋司
副理事長	太田圭一郎	修練委員会委員長	長谷川 淳
副理事長	清水 崇吉	会員委員会委員長	千原 昭典
事務局長	八木 岑生	監事	柴田 正弘
監事	天野 恵右	監事	酒井 中利

主な事業

- 島田JC創立
- じやがいもくらぶ発足



1967年 ～昭和42年～

日本 JC スローガン
JCの勇気で築こう正しい社会

第2代理事長
川崎 泰司

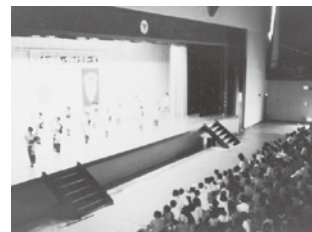


役員及び委員会

理事長	川崎 泰司	総務委員会委員長	八木 岑生
副理事長	佐藤 潔	広報委員会委員長	古田 幸男
副理事長	千原 昭典	社会福祉委員会委員長	太田圭一郎
副理事長	沖 眞太郎	教育青少年委員会委員長	石川 博
専務理事	八木 岑生	修練委員会委員長	柴田 正弘
監事	加藤 太郎	会員委員会委員長	柳川 秀
監事	吉原 正		

主な事業

- 定款・諸規定の研究
- 児童・小学生による図画展や鼓笛発表会
- 自衛隊一日体験入隊



1966

2月 ●全日空機羽田沖で墜落
3月 ●カナタ航空機が羽田で着陸失敗
3月 ●BOAC機富士山上空で空中分解
11月 ●全日空YS-11機、松山で事故

1967

4月 ●美濃部元吉、革新都知事の誕生
6月 ●中東戦争発生
10月 ●佐藤首相訪米で反日共系学生デモ隊と警察隊が衝突
11月 ●日米首脳会談、小笠原諸島返還発表

1968年 ~昭和43年~

日本 JC スローガン

日本の正しい行手しめせ Jaycee

第3代理事長

佐藤 潔



役員及び委員会

理事長 佐藤 潔	総務委員会委員長 穴水 洋
直前理事長 川崎 泰司	広報委員会委員長 町 錠一
副理事長 加藤 太郎	CD委員会委員長 駒形 昌利
副理事長 柴田 正弘	教育青少年委員会委員長 大石 明司
副理事長 柳川 秀	LD委員会委員長 天野喜三郎
監事 芦田 勝造	会員委員会委員長 酒井 中利
監事 太田圭一郎	

主な事業

- 第1回模擬市議会
- 自衛隊体験入隊
- 教育論文大会
- 県じゃががいもゴルフ大会主管



1969年 ~昭和44年~

日本 JC スローガン

JCの総意でしめせ日本の姿勢

第4代理事長

加藤 太郎



役員及び委員会

理事長 加藤 太郎	総務委員会委員長 柳川 秀
直前理事長 佐藤 潔	広報委員会委員長 八木 岑生
副理事長 天野喜三郎	社会奉仕委員会委員長 井上 勝彦
副理事長 太田 修平	社会開発委員会委員長 駒形 昌利
副理事長 大石 明司	教育青少年問題委員会委員長 大石 明司
監事 石川 博	指導力開発委員会委員長 沖 眞太郎
監事 吉原 正	会員委員会委員長 下島浩一郎

主な事業

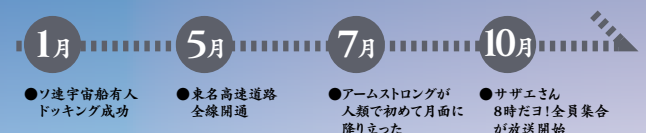
- 交通安全対策への協力奉仕
- 第1回社会開発アンケート実施
- JC作文コンクール
- 幼稚園・小学校児童画展開催



1968



1969



50年の軌跡

1966年～2004年 歴代理事長紹介

1970年 ～昭和45年～

日本 JC スローガン
豊かな心 厳しい自覚 貫け 社会の正義

第5代理事長
大石 明司



役員及び委員会

理事長	大石 明司	総務委員会委員長	天野喜三郎
直前理事長	加藤 太郎	広報委員会委員長	孕石 善朗
副理事長	森下 利雄	社会開発委員会委員長	太田圭一郎
副理事長	柴田 正弘	教育青少年問題委員会委員長	井上 勝彦
副理事長	穴水 洋	経済活動委員会委員長	下島浩一郎
監事	町 鋭一	指導力開発委員会委員長	柴田 保雄
監事	大石勝之亮	会員委員会委員長	奥川 修司
		社会開発室(特別委員会)室長	加藤 太郎

主な事業

- 島田JCニュース発行
- 新聞記者との座談会
- 経営セミナー開催
- 経済講演会



1971年 ～昭和46年～

日本 JC スローガン
豊かな心 厳しい自覚
築こうアジアの連帯感

第6代理事長
柴田 正弘



役員及び委員会

理事長	柴田 正弘	総務委員会委員長	奥川 修司
直前理事長	大石 明司	広報委員会委員長	村田佐久二
副理事長	穴水 洋	社会開発委員会委員長	中山 俊八
副理事長	石川 博	青少年問題委員会委員長	大石勝之亮
副理事長	沖 眞太郎	経済活動委員会委員長	柴田 弘一
副理事長	太田圭一郎	指導力開発委員会委員長	孕石 善朗
監事	町 鋭一	会員委員会委員長	天野 恵右
監事	宮村 希衛		

主な事業

- PTA役員と座談会
- LIAの普及
- 第1回市民会議開催
- 経済講演会



1970

- 3月 ●日本万国博覧会 大阪千里で開催
- 7月 ●東京杉並の高校生 光化学スモッグで 倒れる
- 10月 ●首都圏最後の 蒸気機関車D51 さよなら運転
- 11月 ●三島由紀夫が 自衛隊に乱入し 制服自殺

1971

- 2月 ●成田空港公司 第一次強制代執行
- 6月 ●沖縄返還協定調印
- 7月 ●岩手県平石上空で 全日空機と 自衛隊機が衝突
- 10月 ●NHKが全時間の 総合テレビ番組を カラー化

1972年 ~昭和47年~

島田 JC スローガン
「参加、行動、実践」
明日を先取りする島田 JC

第7代理事長
石川 博



役員及び委員会

理事長	石川 博	総務委員会委員長	太田主一郎
直前理事長	柴田 正弘	広報委員会委員長	山田 金夫
副理事長	天野 恵右	社会開発委員会委員長	中山 俊八
副理事長	奥川 修司	青少年問題委員会委員長	村田佐久二
副理事長	駒形 昌利	経済活動委員会委員長	大石勝之亮
副理事長	孕石 善朗	会員委員会委員長	柴田 弘一
監事	落合 一清	開発企画室室長	沖 眞太郎
監事	品川 瑞彦		

主な事業

- 第1回 JC杯争奪少年サッカー大会
- 地域開発促進市民討論会
- 街路灯の設置運動討論会
- 中学・高校生作文コンクール



1973年 ~昭和48年~

島田 JC スローガン
共に築こう明るい郷土

第8代理事長
駒形 昌利



役員及び委員会

理事長	駒形 昌利	総務委員会委員長	北川 浩三
直前理事長	石川 博	広報委員会委員長	柴田 弘一
副理事長	沖 眞太郎	社会開発委員会委員長	品川 瑞彦
副理事長	村田佐久二	青少年開発委員会委員長	渋谷 忍
副理事長	中山 俊八	経済活動委員会委員長	松永今朝二
副理事長	落合 一清	指導力開発委員会委員長	大澤 勲夫
監事	井上 晴彦	会員委員会委員長	山田 金夫
監事	薬科 晴氏	開発企画室室長	大石 明司

主な事業

- 小学校教頭との話し合い
- 高校新卒者就職後の追跡調査
- 市民集会2,000人集会開催
- 交通安全レター作戦



1972

- | | | | |
|------------------------|------------------------|----------------|--------------------------|
| 1月 | 2月 | 5月 | 9月 |
| ●グアム島密林内で元日本兵横井庄一さんを発見 | ●第11回冬季五輪が札幌で開幕 35カ国参加 | ●沖縄施政権返還 沖縄県発足 | ●日中両国首相 共同声明に調印 国交が樹立される |

1973

- | | | | |
|-----------------|----------|---------------|------------------|
| 1月 | 4月 | 10月 | 10月 |
| ●ベトナムと平和協定 発表調印 | ●巨匠ピカソ死去 | ●江崎玲於奈氏にノーベル賞 | ●第4次中東戦争 オイルショック |

50年の軌跡

1966年～2004年 歴代理事長紹介

1974年 ～昭和49年～

島田 JC スローガン
〈まち〉にみどりといこいの場を

第9代理事長
村田佐久二



役員及び委員会

理事長	村田佐久二	総務委員会委員長	大澤 勲夫
直前理事長	駒形 昌利	広報委員会委員長	塚本 将博
副理事長	井上 勝彦	社会開発委員会委員長	八木 和夫
副理事長	奥川 修司	青少年開発委員会委員長	鈴木 徹
副理事長	北川 浩三	経済活動委員会委員長	藪崎 竜馬
副理事長	松永今朝二	指導力開発委員会委員長	塚本 昭一
監事	大池 好正	会員委員会委員長	渋谷 忍
監事	柴田 正弘	創立10周年準備特別委員会委員長	太田圭一郎

主な事業

- 10周年記念事業準備
- JCスクール開催
- 緑化推進協議会結成
- 奥様デー開催



1975年 ～昭和50年～

島田 JC スローガン
ふるさとのまちづくり
“みんなで新しいまちの心を拓き育もう”

第10代理事長
松永今朝二



役員及び委員会

理事長	松永今朝二	総務委員会委員長	塚本 将博
直前理事長	村田佐久二	広報委員会委員長	山城 貞夫
副理事長	品川 瑞彦	社会開発委員会委員長	立林 健一
副理事長	中山 俊八	青少年開発委員会委員長	八木 和夫
副理事長	鈴木 徹	経済活動委員会委員長	塚本 昭一
監事	石川 博	指導力開発委員会委員長	大池 好正
監事	太田圭一郎	会員委員会委員長	鈴木 幸雄
		事務局局長	浜村 耿夫

主な事業

- 創立10周年記念事業
- 川上哲治野球教室
- 島田・金谷の発展を考える会議
- 中央公園にて記念植樹祭



1974

- 3月 ●ルパン島で救出された元日本兵 小野田寛郎さん帰国
- 7月 ●七夕豪雨。静岡、神奈川に被害
- 10月 ●佐藤前首相にノーベル平和賞
- 10月 ●巨人軍 長島選手引退

1975

- 3月 ●新幹線 岡山ー博多間開通
- 4月 ●ベトナム戦争終結
- 5月 ●エリザベス女王 ご来訪
- 7月 ●沖縄海洋博開催

1976年 ~昭和51年~

島田 JC スローガン

活気あるまちづくり “明日への理念
明日への行動・地域に友情の輪を”

第11代理事長

沖 眞太郎



役員及び委員会

理事長	沖 眞太郎	総務委員会委員長	櫻井 新策
直前理事長	松永今朝二	青少年開発委員会委員長	鈴木 聡
副理事長	中山 俊八	広報委員会委員長	大石 秩秀
副理事長	立林 健一	経済活動委員会委員長	品川 瑞彦
副理事長	大石勝之亮	社会開発委員会委員長	渋谷 忍
副理事長	鈴木 幸雄	指導力開発委員会委員長	松下富美男
監事	駒形 昌利	会員委員会委員長	大石 和好
監事	山城 貞夫	事務局	北川 浩三

主な事業

- 静岡ブロック会員大会主管
- 大井川地域の将来の勉強会
- 交通安全運動レターカード作戦
- 小・中学校作文コンクール



1977年 ~昭和52年~

島田 JC スローガン

“自覚と行動”連帯を求めて

第12代理事長

中山 俊八



役員及び委員会

理事長	中山 俊八	総務委員会委員長	大石 和好
直前理事長	沖 眞太郎	広報委員会委員長	松下富美男
副理事長	櫻井 新策	社会開発委員会委員長	鈴木 徹
副理事長	八木 和夫	青少年開発委員会委員長	坂原哲次郎
副理事長	北川 浩三	指導力開発委員会委員長	塚本 将博
副理事長	藪崎 竜馬	総務開発委員会委員長	大石勝之亮
監事	孕石 善朗	会員開発委員会委員長	大石 秩秀
監事	駒形 昌利		

主な事業

- CDアンケートの実施
- 減速経済下における中小企業経営の勉強会
- 記者クラブとの懇親会
- LOMメンバーの家庭訪問



1976

- 3月 ● 政府経済水城 200 カイリを 条件つきで認める
- 7月 ● ロッキード事件で 田中角栄逮捕
- 9月 ● 中国、毛沢東死去
- 9月 ● ソ連戦闘機ミグ25 函館空港に強行着陸

1977

- 1月 ● ロッキード事件 公開開始
- 5月 ● 領海12 カイリ、 漁業水城200 カイリ 暫定措置法成立
- 9月 ● 王貞治756号 (世界新記録) ホームラン
- 12月 ● 立川基地返還さる

50年の軌跡

1966年～2004年 歴代理事長紹介

1978年 ～昭和53年～

島田 JC スローガン
鍛えよう心 燃やそう情熱

第13代理事長
北川 浩三

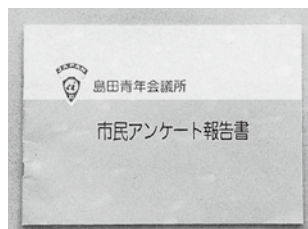


役員及び委員会

理事長	北川 浩三	総務委員会委員長	塚本 将博
直前理事長	中山 俊八	広報委員会委員長	増田 峰男
副理事長	八木 和夫	会員開発委員会委員長	鈴木 國近
副理事長	坂原哲次郎	社会開発委員会委員長	鈴木 聡
副理事長	鈴木 徹	青少年開発委員会委員長	浜村 耿夫
副理事長	孕石 善朗	経営開発委員会委員長	九島 作好
監事	藪崎 竜馬	指導力開発委員会委員長	河村 元
監事	大澤 勲夫		

主な事業

- ソフトボール中部大会主管
- CDアンケートの分析 報告書の作成
- 経営開発セミナー



1979年 ～昭和54年～

島田 JC スローガン
知・情・意の調和で未来を拓こう

第14代理事長
孕石 善朗



役員及び委員会

理事長	孕石 善朗	総務委員会委員長	増田 峰男
直前理事長	北川 浩三	広報委員会委員長	大石 秩秀
副理事長	大澤 勲夫	会員開発委員会委員長	秋山 晴美
副理事長	大石勝之亮	社会開発委員会委員長	川端祥治郎
副理事長	山本 憲司	青少年開発委員会委員長	鈴木 國近
専務理事	浜村 耿夫	経営開発委員会委員長	大石 和好
監事	柴田 弘一	指導力開発委員会委員長	山本 勝美
監事	渋谷 忍		

主な事業

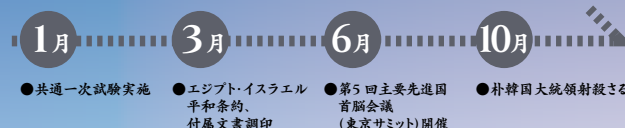
- 献血推進協議会の設立
- プロジェクトチーム（長期改策チーム）結成
- 元大関北葉山の講演
- ブロックソフトボール大会島田で行われる



1978



1979



1980年 ~昭和55年~

島田 JC スローガン
 厳しい自覚で 勇気みなぎる行動を

第15代理事長
 渋谷 忍



役員及び委員会

理事長 渋谷 忍	総務委員会委員長 石川 信明
直前理事長 孕石 善朗	広報委員会委員長 大鐘祥太郎
副理事長 大石 和好	会員開発委員会委員長 鈴木 徹
副理事長 大石 秩秀	青少年開発委員会委員長 塚本 将博
副理事長 桜井憲三郎	社会開発委員会委員長 川端祥治郎
副理事長 山本 憲司	指導力開発委員会委員長 大川 鉄男
監事 中村 俊八	経営開発委員会委員長 横山 和由
監事 八木 和夫	15周年実行特別委員会委員長 北川 浩三

主な事業

- 創立15周年記念事業 (鯉の放流)
- LOM内弁論大会
- JCサマースクール
- テーブルマナー勉強会



1981年 ~昭和56年~

島田 JC スローガン
 広げよう JAYCEE の輪
 あらわそう JC のころ

第16代理事長
 八木 和夫



役員及び委員会

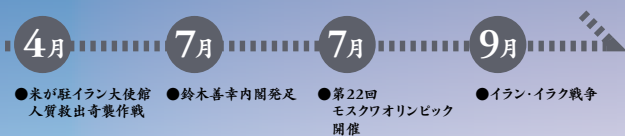
理事長 八木 和夫	会員拡大委員会委員長 浜村 耿夫
直前理事長 渋谷 忍	総務委員会委員長 木村 英雄
副理事長 増田 峰男	広報委員会委員長 和田 静雄
副理事長 鈴木 徹	会員開発委員会委員長 大鐘祥太郎
副理事長 鈴木 聰	青少年開発委員会委員長 小塩 勝久
副理事長 塚本 将博	社会開発委員会委員長 大池 好正
監事 中山 俊八	指導力開発委員会委員長 石川 信明
監事 大石勝之亮	経営開発委員会委員長 萩原寛一郎

主な事業

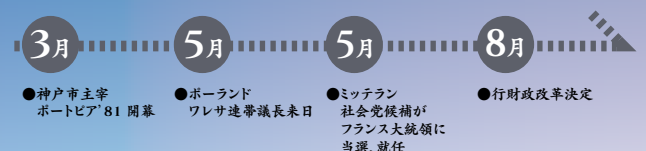
- 地域づくりとJC (30年後の島田・金谷)
- サマーキャンプ
- 会員スポーツ大会
- 経営開発セミナー



1980



1981



50年の軌跡

1966年～2004年 歴代理事長紹介

1982年 ～昭和57年～

島田 JC スローガン

綿密な計画、果敢な行動
冷静な反省、素直な感謝



第17代理事長

鈴木 聡

役員及び委員会

理事長 鈴木 聡
直前理事長 八木 和夫
副理事長 小塩 勝久
副理事長 薬科 晴氏
副理事長 大石 秩秀
副理事長 大石 和好
監事 孕石 善朗
監事 大澤 勲夫

総務委員会委員長 増田 峰男
社会開発委員会委員長 九島 作好
広報委員会委員長 木村 英雄
会員委員会委員長 浅野 蒸治
経営開発委員会委員長 川端 祥治郎
指導力開発委員会委員長 山本 憲司
青少年問題委員会委員長 桜井 憲三郎
教育開発委員会委員長 富岡 知生
和田 静雄

主な事業

- 島田・金谷マスタープランづくり
- ニューLIA講座
- 経営開発セミナー
- 子供の日家族大運動会



1983年 ～昭和58年～

島田 JC スローガン

高めようJC 精神
広げよう地域との交流



第18代理事長

藁科 晴氏

役員及び委員会

理事長 藁科 晴氏
直前理事長 鈴木 聡
副理事長 桜井 憲三郎
副理事長 大石 和好
副理事長 鈴木 徹
副理事長 川端 祥治郎
監事 中山 俊八
監事 落合 一清

総務委員会委員長 大池 好正
例会担当委員会委員長 山本 憲司
社会開発委員会委員長 杉本 良勝
広報委員会委員長 浅野 蒸治
指導力開発委員会委員長 池谷 俊昭
経営開発委員会委員長 長谷川 圭司
会員開発委員会委員長 鈴木 國近
青少年問題委員会委員長 櫻井 誠
教育開発委員会委員長 岡村 良一

主な事業

- SLと激歩
- 長嶋茂雄の少年野球教室
- ウォッチ・ザ・議会
- 北方領土返還リレーマラソン



1982

2月

●日航機羽田空港着陸直前に墜落

4月

●500円硬貨発行

6月

●東北新幹線開業

11月

●ブレジネフ・ソ連共産党書記長死去。後任アンドロポフ

1983

6月

●参院議員選挙に初の比例代表制導入

9月

●大韓航空機がサハリン沖で墜落される

10月

●ロッキード丸紅ルート公判で田中元首相有罪

11月

●レーガン米大統領来日

1984年 ~昭和59年~

島田 JC スローガン
 広げよう JC の輪
 起そう創造への行動

第19代理事長
鈴木 徹



役員及び委員会

理事長 鈴木 徹
 直前理事長 薬科 晴氏
 副理事長 杉本 良勝
 副理事長 鈴木 國近
 副理事長 横山 和由
 20周年準備室長 大池 好正
 専務理事 増田 峰男
 監事 萩原寛一郎
 監事 小塩 勝久

総務委員会委員長 大島 至了
 例会担当委員会委員長 伊藤 一成
 社会開発委員会委員長 大川 剛史
 青少年問題委員会委員長 白井 一昭
 教育開発委員会委員長 池谷 俊昭
 広報委員会委員長 野中 辰美
 会員開発委員会委員長 河原崎 学
 指導力開発委員会委員長 櫻井 誠
 経営開発委員会委員長 秋山 晴美
 20周年特別準備委員会委員長 大池 好正
 会員拡大特別委員会委員長 山本 憲司

主な事業

- 模擬市議会開催
- 榛南JC設立
- 青少年自然教室、中学生生活体験発表会
- 自衛隊体験入隊



1985年 ~昭和60年~

島田 JC スローガン
 今ぞ 20 歳
 築こう 明るい心豊かな社会を

第20代理事長
桜井憲三郎



役員及び委員会

理事長 桜井憲三郎
 直前理事長 鈴木 徹
 副理事長 横山 和由
 副理事長 大島 至了
 副理事長 大石 秩秀
 20周年実行委員会 山本 憲司
 専務理事 野中 辰美
 監事 小塩 勝久
 監事 大石 和好

総務委員会委員長 浅野 蒸治
 例会担当委員会委員長 河原崎 学
 社会開発委員会委員長 河村 元成
 青少年問題委員会委員長 伊藤 一成
 教育開発委員会委員長 増田 峰男
 指導力開発委員会委員長 秋山 晴美
 経営開発委員会委員長 大川 剛史
 広報委員会委員長 白井 一昭
 会員開発委員会委員長 鈴木 昭司
 会員拡大特別委員会委員長 塚本 伸一
 20周年実行委員会委員長 山本 憲司

主な事業

- 創立20周年記念事業「人間架橋とふれあい広場」「ふれあいステージ」
- 教育開発「あんなよい子がなぜ」平井信義教授による講演
- テレビ寺子屋開催される



1984



1985



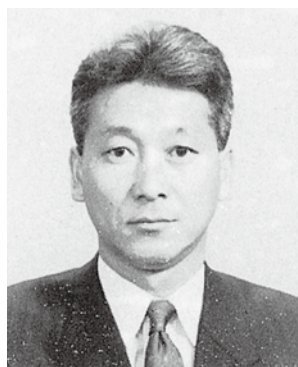
50年の軌跡

1966年～2004年 歴代理事長紹介

1986年 ～昭和61年～

島田 JC スローガン
基本の確認 チャレンジ 21

第21代理事長
川端祥治郎



役員及び委員会

理事長	川端祥治郎	総務委員会委員長	柴田 一範
直前理事長	桜井憲三郎	社会開発委員会委員長	岡田 和広
副理事長	櫻井 誠	市民会議推進特別委員会委員長	池田 雅彦
副理事長	山本 憲司	指導力開発委員会委員長	平口 義之助
副理事長	加藤 友吉	経営開発委員会委員長	深見 章博
副理事長	鈴木 國近	青少年開発委員会委員長	太田 秩秀
副理事長	濱村 耿夫	教育開発委員会委員長	大石 純生
専務理事	浅野 蒸治	広報委員会委員長	鷺坂 水野
監事	大石 和好	会員開発委員会委員長	鈴木 昭司
監事	萩原寛一郎	社団法人設立特別委員会委員長	

主な事業

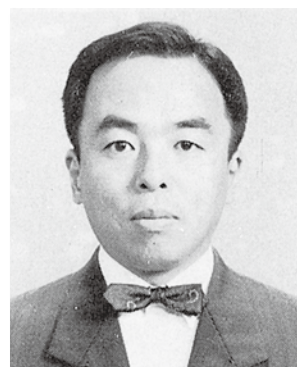
- 社団法人化設立記念式典
- 中部7首長サミット
- 第1回「わんぱく合宿」開催
- ふれあい広場



1987年 ～昭和62年～

島田 JC スローガン
明るく 仲よく 根気よく!!

第22代理事長
鈴木 國近



役員及び委員会

理事長	鈴木 國近	総務委員会委員長	宮坂 明
直前理事長	川端祥治郎	例会担当委員会委員長	平口 義之助
副理事長	水野 雅彦	会員拡大委員会委員長	深見 章之助
副理事長	池田 一晴	広報委員会委員長	岡田 和広
副理事長	白井 山崎	魅力あるまちづくり委員会委員長	大鐘 祥太郎
副理事長	増田 峰好	青少年・教育委員会委員長	鷺坂 純生
監事	大池 好正	指導力開発委員会委員長	太田 博康
監事	大島 至博	経営開発委員会委員長	竹島 総一郎
専務理事	村田 恵司	会員開発委員会委員長	柴田 一範
	山本 隆重		
	(武田 秀子)		

主な事業

- 静岡空港誘致運動
- まちづくりシンポジウム「まちづくりは人づくり」
- いにしへの島田宿
- ふれあい広場



1986

- | | | | |
|-----------------------|---------------|----------------|---------|
| 1月 | 4月 | 9月 | 11月 |
| ● 米宇宙連絡船「チャレンジャー」空中爆発 | ● チェルノブイリ原発事故 | ● 土井たか子、初の女性党首 | ● 三原山噴火 |

1987

- | | | | |
|----------|----------|---------------------|------------------|
| 3月 | 10月 | 10月 | 12月 |
| ● 国鉄、民営化 | ● 竹下内閣発足 | ● 利根川教授ノーベル医学生理学賞受賞 | ● 米ソ首脳INF全廃条約に調印 |

1988年 ~昭和63年~

島田 JC スローガン

磨こう わが心
育もう わが地域

第23代理事長

横山 和由



役員及び委員会

理事長 横山 和由
直前理事長 鈴木 國近
筆頭副理事長 宮坂 明
副理事長 大鐘 祥太郎
副理事長 秋山 晴美
副理事長 鈴木 昭司
副理事長 百井 一昭
監事 川端 祥治郎
監事 浅野 蒸治
専務理事 高橋 渡
事務局長 石川 信明

総務委員会委員長 木村 英雄
例会担当委員会委員長 天野 卓次
広報委員会委員長 大石 忠史
魅力あるまちづくり委員会委員長 大川 剛史
政治問題委員会委員長 北川 正澄
青少年開発委員会委員長 太田 政昭
教育開発委員会委員長 池田 益朗
会員開発委員会委員長 山本 隆重
指導力開発委員会委員長 柳川 洋一郎
経営開発委員会委員長 浜野 健司

主な事業

- まちづくりシンポジウム「みんなで語ろう静岡空港」「まちづくりと空港」
- 第1回 JC杯争奪少年野球大会
- 指導力体験 富士登山
- 明日の金谷を考える会議



1989年 ~平成元年~

島田 JC スローガン

参加・行動・実践 いま飛躍^{とび}たとう
われらの進歩自由^{ゆめ}夢を行動に!!

第24代理事長

白井 一昭



役員及び委員会

理事長 白井 一昭
直前理事長 横山 和由
筆頭副理事長 鷺坂 純生
副理事長 平口 義之
副理事長 大川 剛史
副理事長 竹島 総一郎
副理事長 深見 章之助
専務理事 岡田 和広
監事 鈴木 國近
監事 加藤 友吉
事務局長 富岡 知生

総務委員会委員長 柳川 洋一郎
例会担当委員会委員長 山本 隆重
広報委員会委員長 高橋 渡
魅力あるまちづくり委員会委員長 太田 政昭
政治政策委員会委員長 大石 忠史
地域交流委員会委員長 太田 芳伸
青少年開発委員会委員長 池田 益朗
教育開発委員会委員長 小林 廣光
会員開発委員会委員長 浜野 健司
指導力開発委員会委員長 太田 博康
経営開発委員会委員長 谷口 輝雄

主な事業

- 東京例会「大井川流域 IN TOKYO」
- ランチェスター戦略勉強会「歴史に学ぶ指導力」
- 「行政あれこれQ&A集」発行



1988

3月

●上海列車、衝突事故 ●瀬戸大橋開通

4月

6月

●リクルート疑惑発覚

9月

●ソウルオリンピック開催

1989

1月

●天皇陛下崩御

1月

●新年号、平成となる

4月

●消費税導入

6月

●宇野内閣発足

50年の軌跡

1966年～2004年 歴代理事長紹介

1990年

～平成2年～

島田 JC スローガン

新たな JC・誇れる地域を！

第25代理事長

鷺坂 純生



役員及び委員会

理事長	鷺坂 純生	渉外委員会委員長	小林 廣光
直前理事長	白井 一昭	総務委員会委員長	太田 博康
副理事長	岡田 和広	広報委員会委員長	暮林 堅樹
副理事長	竹島 総一郎	青少年教育委員会委員長	安原 孝由
副理事長	大鐘 祥太郎	まちづくり委員会委員長	三宅 馨
副理事長	谷口 輝雄	地域交流委員会委員長	北川 正澄
副理事長	太田 芳伸	例会担当委員会委員長	落合 睦美
専務理事	平口 義之	会員開発委員会委員長	杉本 隆夫
監事	横山 和由	経営開発委員会委員長	柴田 一範
監事	加藤 友吉	指導力開発委員会委員長	池ヶ谷 真澄
		25周年記念特別室長	富永 正博

主な事業

- 創立25周年記念事業
- バラのまちづくり運動
- 金谷町子供達の提言
- 洋上スクール



1991年

～平成3年～

島田 JC スローガン

さらなる飛躍
みなおそう我まちJC

第26代理事長

平口 義之



役員及び委員会

理事長	平口 義之	事務局 局長	川島 大造
直前理事長	鷺坂 純生	総務委員会委員長	柴田 一範
筆頭副理事長	山本 隆重	まちづくり委員会委員長	暮林 堅樹
副理事長	太田 政昭	地域開発委員会委員長	北河 豊孝
副理事長	柳川 洋一郎	広報委員会委員長	園田 達郎
副理事長	北川 正澄	青少年教育開発委員会委員長	杉本 隆夫
副理事長	高橋 渡	指導力開発委員会委員長	三宅 馨
専務理事	落合 睦美	経営開発委員会委員長	池ヶ谷 真澄
監事	大石 忠史	新会員研修委員会委員長	安原 孝由
監事	鈴木 昭司	会員交流委員会委員長	

主な事業

- 人材雇用セミナー
- 金谷童子沢アスレチック建設
- バラの普及活動
- 第20回 JC杯争奪少年サッカー大会



1990

3月

- ゴルパチャップ
初代大統領に就任

6月

- 礼宮文仁親王、
川端紀子さん
結婚の儀
「秋篠宮家」創設

10月

- 東西ドイツ統合

12月

- 日本人初の
宇宙飛行士
秋山豊寛氏
ソユーズ乗船

1991

1月

- 湾岸戦争に突入

4月

- オレンジ、牛肉
市場自由化

5月

- 長崎雲仙普賢岳
火砕流発生

8月

- 景気拡大57ヶ月、
戦後最大の
「いざなぎ景気」に並ぶ

1992年

～平成4年～

島田 JC スローガン

島田発 地球

今 躍動の時がやって来た

第27代理事長

山本 隆重



役員及び委員会

理事長 山本 隆重
直前理事長 平口 義之
筆頭副理事長 太田 政昭
副理事長 柳川 洋一郎
副理事長 谷口 輝雄
副理事長 高橋 渡
副理事長 小林 廣光
専務理事 太田 芳伸
監事 鷺坂 純生
監事 鈴木 昭司

総務委員会委員長 北河 豊孝
地球祭特別委員会委員長 五藤 泰弘
指導力開発委員会委員長 加藤 太二
長期政策委員会委員長 園田 穰
地域開発委員会委員長 長谷川 広豆
広報委員会委員長 太田 博康
青少年教育開発委員会委員長 落合 直人
会員交流委員会委員長 星野 匡伸
拡大研修委員会委員長 川島 大造
事務局局長 飯田 忠史

主な事業

- 地球祭
- 臨空都市宣言
- 外国人との懇談会
- シリーズ講演「地元経営者に学ぶ」



1993年

～平成5年～

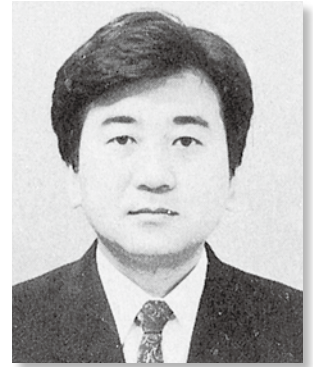
島田 JC スローガン

未来を見据えて

踏み出そう変革の第一歩

第28代理事長

北川 正澄



役員及び委員会

理事長 北川 正澄
直前理事長 山本 隆重
筆頭副理事長 三宅 馨
副理事長 池ヶ谷 真澄
副理事長 五藤 泰弘
副理事長 安原 孝由
副理事長 谷口 輝雄
専務理事 加藤 太二
監事 柴田 一範
監事 太田 芳伸

例会担当委員会委員長 暮林 堅樹
地域交流委員会委員長 川島 大造
長期政策委員会委員長 長谷川 広豆
指導力開発委員会委員長 牧野 高彦
経営開発委員会委員長 星野 匡伸
広報委員会委員長 落合 直人
総務委員会委員長 河村 茂詞
会員拡大委員会委員長 成岡 浩志
青少年教育開発委員会委員長 飯田 忠史
事務局局長 田中 幸裕

主な事業

- 毛利衛氏の公開例会
- 島田市・金谷町の外国人用ガイドマップ作成
- ねぶた風ジャンボ機の製作
- 第1回 ミニバスケットボール大会



1992

1月

●貴花田
史上最年少優勝
19 才 5 ヶ月

2月

●アルベールビル
冬季オリンピック
開催

7月

●ロサンゼルス
オリンピック開催

9月

●毛利さん
スペースシャトル
「エンデバー」
11日間の宇宙旅行

1993

3月

●モザンビークに
PKOとして
自衛隊派遣決定

6月

●皇太子殿下、
雅子さまのご成婚

7月

●北海道南西沖地震
(死者、行方不明者は
239 人)

12月

●コメ市場部分開放が決定

50年の軌跡

1966年～2004年 歴代理事長紹介

1994年

～平成6年～

島田 JC スローガン

あした 明日に向けて 輝け我らが個性

第29代理事長

高橋 渡



役員及び委員会

理事長 高橋 渡
直前理事長 北川 正澄
筆頭副理事長 柳川 洋一郎
副理事長 北河 豊孝
副理事長 幕林 堅樹
副理事長 池ヶ谷 真澄
副理事長 三宅 馨
専務理事 河村 茂詞
監事 山本 隆重
監事 安原 孝由

総務委員会委員長 栗田 貞男
例会担当委員会委員長 尾下 武彦
まちづくり委員会委員長 飯田 忠史
空港活用委員会委員長 成岡 浩志
広報委員会委員長 多治見 則之
青少年教育開発委員会委員長 園田 穰
指導力開発委員会委員長 山田 主悦
拡大研修委員会委員長 牧野 高彦
会員交流委員会委員長 田中 幸裕
トーク委員会委員長 板野 悟郎
事務局局長 渡辺 義郎

主な事業

- 市民で語る静岡空港勉強会
「そこが知りたい静岡空港」
- 島田大橋開通記念イベント「ウォークラリー」
- 「川から見たまちづくり」



1995年

～平成7年～

島田 JC スローガン

いらい 会員一如 実現しよう
豊かな個性ある地域を

第30代理事長

五藤 泰弘



役員及び委員会

理事長 五藤 泰弘
直前理事長 高橋 渡
筆頭副理事長 谷口 輝雄
副理事長 加藤 太二
副理事長 尾下 武彦
副理事長 落合 直人
副理事長 長谷川 広豆
専務理事 多治見 則之
30周年特別委員長 落合 睦美
監事 柳川 洋一郎
監事 北川 正澄

総務委員会委員長 中林 功徳
社会開発委員会委員長 山田 主悦
広報委員会委員長 星野 匡伸
青少年教育開発委員会委員長 小杉 利浩
会員開発委員会委員長 栗田 貞男
事務局局長 川島 大造
30周年特別委員会第1委員長 板野 悟
30周年特別委員会第2委員長 飛野 暁彦
30周年特別委員会第3委員長 渡辺 義郎

主な事業

- 創立30周年記念事業
- 第10回「わんぱく合宿」



1994

4月

● 羽田内閣の誕生

4月

● 価格破壊の動きが活発化する

8月

● コメ市場開放反対の全農が
コメ輸入業務への
参入の検討を発表

10月

● 釧路で震度6の
北海道東方沖を
震源とするM7.9の
地震発生

1995

1月

● 阪神大震災

2月

● 野茂大リーグ入り

3月

● オウム真理教
地下鉄サリン事件

4月

● 1ドル79円に急騰

1996年

～平成8年～

島田 JC スローガン

磨け Jaycee! 光れ我が地域!
真の地球市民を目指して

第31代理事長

加藤 太二



役員及び委員会

理事長 加藤 太二
直前理事長 五藤 泰弘
筆頭副理事長 飯田 忠史
副理事長 成岡 浩志
副理事長 田中 幸裕
副理事長 河村 茂詞
副理事長 暮林 堅樹
専務理事 長谷川 広豆
監事 高橋 渡
監事 北河 豊孝

総務委員会委員長 曾根 豊久
会員開発委員会委員長 加藤 清
社会開発委員会委員長 中林 功德
青少年教育開発委員会委員長 星野 匡伸
拡大研修委員会委員長 小杉 利浩
ブロック準備第1委員会委員長 中野 博美
ブロック準備第2委員会委員長 飛野 暁彦
社会開発委員会委員長 鈴木 朗
まちづくり委員会委員長 駒形 文隆
事務局局長 櫻井 敬久

主な事業

- 講師例会「今、何がこの地域に必要なか?」
講師 レシャード・カレット先生
- 地引き網
- 髷祭り、川どめ祭り



1997年

～平成9年～

島田 JC スローガン

見直そう JC の精神 輝け! 団結の行動
めざせ! 活力ある地域

第32代理事長

暮林 堅樹



役員及び委員会

理事長 暮林 堅樹
直前理事長 加藤 太二
筆頭副理事長 成岡 浩志
副理事長 渡辺 義郎
副理事長 曾根 豊久
副理事長 田中 幸裕
副理事長 多治見 則之
専務理事 櫻井 敬久
監事 河村 茂詞
監事 五藤 泰弘

総務・渉外委員会委員長 駒形 康寿
社会開発委員会委員長 松浦 富雄
研修委員会委員長 太田 晴也
青少年教育開発委員会委員長 板野 悟
広報拡大委員会委員長 小松 幸哉
会員開発委員会委員長 三村 秀雄
例会担当委員会委員長 駒形 文隆
事務局局長 佐藤 透
ブロック第1委員会委員長 塚本 聡
ブロック第2委員会委員長 牧田 充夫

主な事業

- 夜間耐寒競歩
- 第12回わんぱく合宿
- 髷祭り参加
- 第30回ブロック会員大会



1996

5月

● サッカー2002年W杯、
日韓共同開催決定

6月

● 米の販売自由化

7月

● 大阪府堺市で
O(オー)157大量感染

12月

● ベルで
日本大使公邸
人質事件

1997

1月

● 日本海でロシアの
タンカーが沈没し
重油流出

4月

● 消費税5%に
引き上げ

8月

● 英国の
ダイアナ元皇太子妃が
交通事故死

9月

● マザー・テレサ死去

50年の軌跡

1966年～2004年 歴代理事長紹介

1998年 ～平成10年～

島田 JC スローガン
みんなでつくろう
人を!地域を!そして未来を!

第33代理事長
成岡 浩志



役員及び委員会

理事長	成岡 浩志	広域まちづくり委員会委員長	池田 豊
直前理事長	暮林 堅樹	情報循環推進会議委員会副議長	菅沼 一茂
筆頭副理事長	長谷川 広豆	広報委員会委員長	駒形 康寿
副理事長	加藤 太二	青少年指導力委員会委員長	太田 晴也
副理事長	佐藤 透	福祉事業研究委員会委員長	板野 悟
副理事長	牧田 充夫	C・O・D委員会委員長	八木 孝之
副理事長	多治見則之	市民活動推進応援委員会委員長	酒井 昌浩
専務理事	塚本 聡	同志拡大委員会委員長	三村 秀雄
監事	中野 博美	例会担当委員会委員長	小杉 利浩
監事	中林 功徳	総務委員会委員長	濱田 行二
		事務局局長	森下 真琴

主な事業

- まちづくりアンケート
- 合同例会ディベート大会
- 防災マニュアル作成
- PK合戦



1999年 ～平成11年～

島田 JC スローガン
夢を描き 行動を起こし
創りあげよう 真の市民社会

第34代理事長
多治見則之



役員及び委員会

理事長	多治見則之	総務委員会委員長	小杉 利浩
直前理事長	成岡 浩志	社会開発委員会委員長	岡村 修
筆頭副理事長	牧田 充夫	会員開発委員会委員長	市川 充宏
副理事長	曾根 豊久	広報委員会委員長	寺尾 昇人
副理事長	駒形 文隆	研修委員会委員長	雨夜 光広
副理事長	櫻井 敬久	例会担当委員会委員長	落合 由隆
副理事長	星野 匡伸	青少年教育開発委員会委員長	森下 真琴
専務理事	池田 豊	JCづくり実践会議議長	中野 博美
監事	暮林 堅樹	事務局局長	村岡 真生
監事	加藤 太二		

主な事業

- 地域まちづくりキャラバン隊
- 地域ネットワーク会議
- 第14回わんぱく合宿



1998

- | | | | |
|-----------------|---------------------------------------|-----------|----------------------------------|
| 2月 | 2月 | 7月 | 7月 |
| ●郵便番号
7ヶケに変更 | ●第18回
冬季オリンピック
長野大会開催
(～22日) | ●香港が中国に返還 | ●和歌山市で
毒物カレー事件。
4人死亡、42人入院 |

1999

- | | | | |
|---------------------------|---|--------------------------------|-----------------------------------|
| 2月 | 3月 | 4月 | 5月 |
| ●ドコモ
iモードサービスが
スタート | ●北大西洋条約機構軍が
ユーゴスラビア全域の
軍事施設などを
国連決議なしで空爆 | ●男女差別を禁じた
改正男女雇用機会
均等法施行 | ●和歌山市の毒物カレー
事件と保険金詐欺事件
の初公判 |

2000年 ~平成12年~

島田 JC スローガン

ニューミレニアムへの挑戦
まちづくり！ひとづくり！

第35代理事長
塚本 聡



役員及び委員会

理事長 塚本 聡
直前理事長 多治見 則之
筆頭副理事長 櫻井 敬久
副理事長 曾根 豊久
副理事長 市川 充宏
副理事長 森下 真琴
副理事長 中野 博美
専務理事 雨夜 光広
監事 星野 匡伸
監事 佐藤 透
特別顧問 加藤 太二

35周年特別室室長 寺尾 昇人
35周年実行委員会委員長 三村 秀雄
35周年推進委員会委員長 澤脇 文博
総務委員会委員長 落合 由隆
渉外委員会委員長 岡村 修
会員開発ネットワーク委員会委員長 山城 雅史
環境・教育運動推進委員会委員長 井上 吉勝
パートナーシップまちづくり委員会委員長 村松 健之
ビジョン21委員会委員長 村岡 真生
財務委員会委員長 森下 隆利
事務局局長 太田 晴也

主な事業

- 例会「話し方教室」講師 水野涼子アナウンサー
- 環境問題公開例会
- 第15回わんぱく合宿
- 35周年記念式典・環境教育フォーラム



2001年 ~平成13年~

島田 JC スローガン

断固たる決意と確固たる信念をもって
踏み出そう 新しい一歩を

第36代理事長
池田 豊



役員及び委員会

理事長 池田 豊
直前理事長 塚本 聡
筆頭副理事長 市川 充宏
副理事長 三村 秀雄
副理事長 寺尾 昇人
副理事長 落合 由隆
副理事長 井上 吉勝
専務理事 澤脇 文博
監事 駒形 文隆
監事 森下 真琴

会員拡大委員会委員長 松野 雅樹
総務広報委員会委員長 中村 敬彦
広域まちづくり委員会委員長 森下 隆利
フレンドシップ例会担当委員会委員長 増野 昌徳
トレーニング例会担当委員会委員長 村松 健之
青少年教育開発委員会委員長 小林 律昭
人間力開発委員会委員長 貞石 昌則
事務局局長 薬科 太祐

主な事業

- 講師例会「キャッシュフローについて」
- 公開例会「子供のころがみえますか？」
- 公開例会「大井川の環境保全と流域連携」
- 第16回わんぱく合宿



2000

6月

- ハノーバ万博がドイツで開幕

7月

- ゴルフのタイガー・ウッズが全英オープンに優勝。
史上最年少(24歳)でのグランドスラム達成

9月

- シドニーオリンピック開幕
柔道の田村亮子念願の金メダル
高橋尚子がオリンピック最高記録で金メダルを獲得

10月

- 筑波大学名誉教授の白川英樹にノーベル化学賞を贈られる

2001

1月

- 3千年紀・21世紀が始まる

5月

- 日本語版を含む13の非英語版ウィキペディアが発足。
以後多言語化される

9月

- アメリカ同時多発テロ事件:4機の航空機ハイジャックによる。米国に対する大規模同時多発テロ事件が発生

12月

- 日本の皇室にて愛子内親王誕生

50年の軌跡

1966年～2004年 歴代理事長紹介

2002年 ～平成14年～

島田 JC スローガン
創ろう未来! 繋ごう心!
現代に生きる JC として

第37代理事長
櫻井 敬久



役員及び委員会

理事長 櫻井 敬久	総務渉外委員会委員長 永井 宏騎
直前理事長 池田 豊	まちづくり推進委員会委員長 小林 律昭
筆頭副理事長 雨夜 光広	地域活性化委員会委員長 植田 春克
副理事長 村岡 真生	青少年育成委員会委員長 佐藤 克美
副理事長 寺尾 昇人	メンバー拡大委員会委員長 河原崎 茂則
副理事長 中村 敬彦	ひとづくり委員会委員長 曾根 靖之
副理事長 村松 健之	例会担当委員会委員長 増田 直樹
専務理事 薬科 太祐	事務局局長 増野 昌徳
監事 塚本 聡	
監事 井上 吉勝	

主な事業

- ISO 例会「顧客満足度 100%を目指して・意識改革」
- 中部 7JC 合同例会「新しい需要創造とビジネスチャンス」講師 都築幹彦氏
- 講師例会「地震 かけがえない命を守るために-阪神淡路大震災にみる思いやりの心-」
- 公開例会「おかしな時代のまともな子育て論」講師 はやし浩司氏



2003年 ～平成15年～

島田 JC スローガン
SHIMADA JC Innovation
輝くみらいへ 元気発信!

第38代理事長
市川 充宏



役員及び委員会

理事長 市川 充宏	会員拡大委員会委員長 浦野 圭史
直前理事長 櫻井 敬久	みらい創造委員会委員長 大池 茂
筆頭副理事長 薬科 太祐	人間力開発委員会委員長 脇坂 政秀
副理事長 落合 由隆	例会担当委員会委員長 曾根 靖之
副理事長 澤脇 丈博	会員サービス委員会委員長 田中 信也
副理事長 小林 律昭	オンリーワンのまちづくり委員会委員長 河原崎 茂則
副理事長 佐藤 克美	総務広報委員会委員長 小寺 敬二
専務理事 増田 直樹	事務局局長 村本真太郎
出向理事 雨夜 光広	
監事 池田 豊	
監事 中村 敬彦	

主な事業

- まちづくり例会「皆で考えようこのまちの今、未来」
- 商売繁盛例会 100%例会達成
- 第18回わんぱく合宿
- 指導力開発例会 「食」例会



2002

- | | | | |
|---|-------------|---------------------------------|-------------------------|
| 5月 | 6月 | 9月 | 12月 |
| ● 2002 FIFA ワールドカップ開幕
初の日韓共催で日本ベスト16 | ● 日本全国で部分日食 | ● 史上初の日朝首脳会談、金総書記「拉致」認め、被害者5人帰国 | ● H-IIA ロケット4号機が打ち上げられる |

2003

- | | | | |
|---------------------------|---|-------------------|---------------------------|
| 1月 | 2月 | 4月 | 10月 |
| ● 北朝鮮が核拡散防止条約 (NPT) 脱退を宣言 | ● アメリカ航空宇宙局、スペースシャトル・コロンビア号、帰還のため大気圏突入後、テキサス州上空で空中分解、墜落 | ● 六本木ヒルズがグランドオープン | ● 東海道新幹線の東京駅～新横浜駅間に品川駅が開業 |

2004年 ~平成16年~

島田 JC スローガン

楽しく!そして力強く!
今、JC が進化するとき!!



第39代理事長

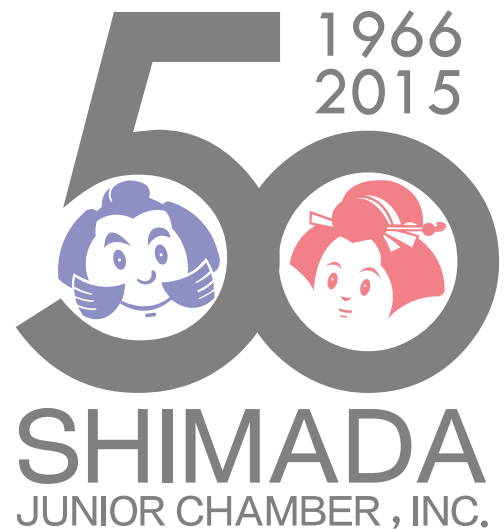
藁科 太祐

役員及び委員会

理事長	藁科 太祐	地域活性化委員会委員長	大石 聡
直前理事長	市川 充宏	青少年育成委員会委員長	小寺 敬二
筆頭副理事長	小林 律昭	研修委員会委員長	浦野 圭史
副理事長	佐藤 克美	会員開発委員会委員長	諸田 昌人
副理事長	森下 隆利	総務委員会委員長	村本 真太郎
副理事長	増野 昌徳	40周年準備委員会委員長	平田 司
副理事長	河原崎 茂則	事務局 局長	脇坂 政秀
専務理事	田中 信也		
出向特別理事	澤脇 丈博		
監事	落合 由隆		
監事	寺尾 昇人		

主な事業

- 公開例会 講演「信は力なり」講師:山口良治氏
- 地域活性化例会「まちとまち 人と人 ころをつなぐ オンリーワンのまちづくり」
- 人間力開発例会(座禅)
- 意識向上例会 講師:新井勇氏



2004

- 8月 ●アテネオリンピック開幕
アテネ五輪で金メダル
史上最多タイの16個。
総数は史上最高
- 10月 ●「新潟県中越地震」
発生。新潟県で震度7
の地震が発生し、
さらに断続的に震度6級
の余震が襲う
死者68名
- 11月 ●バリーグの新規参入
球団として東北楽天
ゴールデンイーグルス参入
新規参入でのプロ野球
球団誕生は1954年に
バリーグに加盟した
高橋ユニオンズ以来50年ぶり
- 12月 ●国内で79年ぶりに
鳥インフルエンザの
感染が公式に
確認される

50年の軌跡

2005年～2014年 歴代理事長紹介

2005年 ～平成17年～

島田 JC スローガン

本気で価値ある汗を流し

40年の歴史とともに

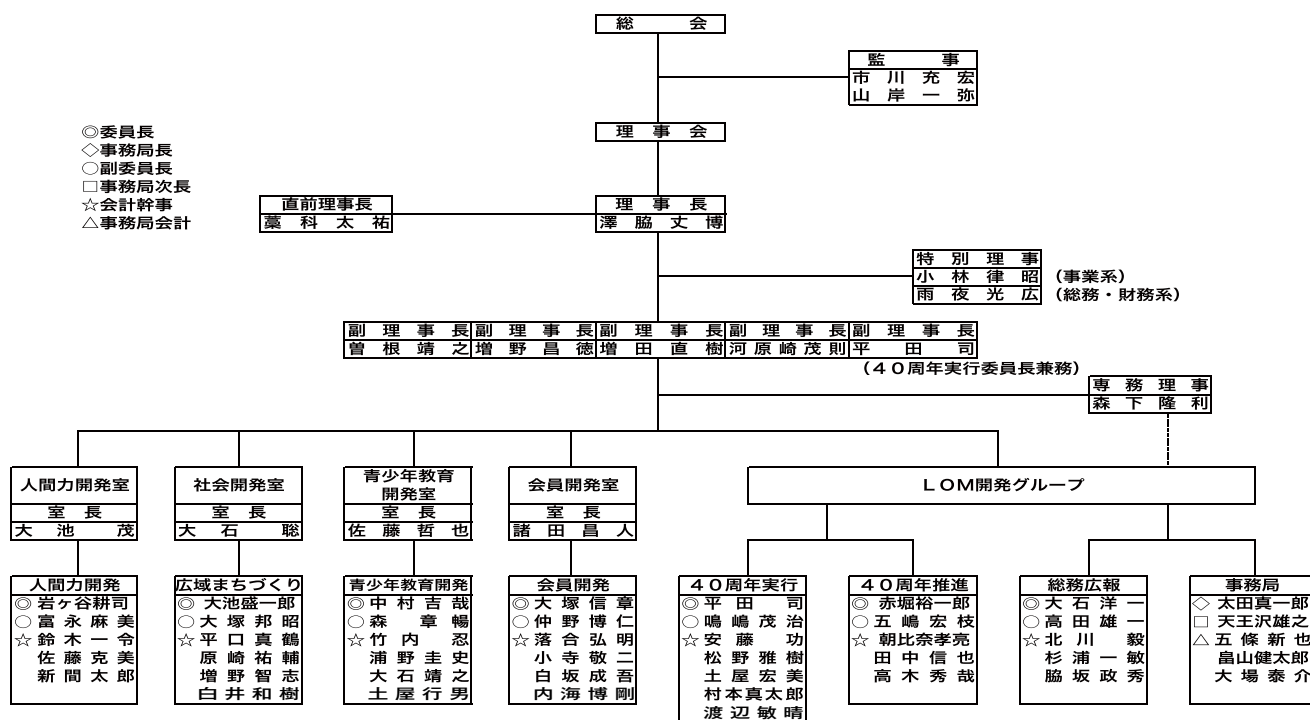
今、新たなるときを築き上げよう！

第40代理事長

澤脇 丈博



この年の組織図



この年の出向者

公益社団法人 日本青年会議所

道徳心創造委員会 委員 薬科 太祐

東海地区協議会

東海フォーラム委員会 委員 大塚 邦昭

とうかい号支援委員会 委員 増野 昌徳

東海GTS委員会 スクール生 市川 充宏

東海GTS委員会 スクール生 河原崎 茂則

東海地区静岡ブロック協議会

24 LOMネットワーク委員会 委員 鈴木 一令

しずおか絆委員会 委員 増田 直樹

元気なまち創造委員会 委員 田中 信也

チャレンジしずおか委員会 委員 村本 真太郎

アカデミー委員会 委員 大場 泰介

アカデミー委員会 委員 畠山 健太郎

とうかい号支援委員会 委員 増野 昌徳

4 LOMまちづくり会議

4 LOMまちづくり会議 委員 大石 聡

4 LOMまちづくり会議 委員 大池 盛一郎

2005

1月

●第81回箱根駅伝は駒澤大学が
総合優勝(平成初)の4連覇達成

2月

●中部国際空港(セントレア)が
愛知県常滑市沖合に開港

3月

●2005年
日本国際博覧会(愛知万博)
「愛・地球博」開幕

4月

●静岡市が全国14番目の
政令指定都市に移行

5月

●日本プロ野球史上初の
セ・パ交流戦が開催

6月

●茨城県水海道市の養鶏場で
国内初のH5N2型の
鳥インフルエンザが検出される

創立40周年記念式典・事業

『つくろう 僕らの手で! つなごう 煌めく 未来へ!』を事業テーマに、550名を超える多くのご参列のもと事業が執り行われました。プラザロコにてセレモニーを行い、大井川鐵道のSLにて川根本町(旧:本川根町)向うなど、事業を通じご参加いただいた皆様には活動地域の良さを知っていただける事業となりました。



6月 創立40周年記念・新島田市合併記念事業 普通救命大講習会 ～新島田市の温かい心はここに～

一般市民と青年会議所メンバーが指導員、普及員に教えていただき、そしてその中で地域の輪をつくることができました。「人をおもいやるころ」と「地域の絆」という点、「市民サービス」という点で非常に有意義な事業となりました。

わんぱく合宿

～自然環境保全・再生と地域に根ざす
循環型社会に関する事業～

わんぱく合宿に「自然環境保全・再生と地域に根ざす循環型社会に関する事業」の要素を加え事業を行いました。



9月 現役警察官に学ぶ 青少年の問題行動の背景と対応

ターゲットをどこに絞るべきか考えた末、青少年を健全育成する為には、メンバー自身が知識を身につけスキルアップすることが大切だと考え、事業を行いました。

10月 公開例会 人を愛するころ 献血、骨髄バンク登録推進講演・映画上映

講師の先生の話に感動し、命の大切さが来場者にも伝わったと思います。青年会議所として骨髄バンクドナー登録の必要性を広めていき、登録者数を増やしていかなければならないと感じました。



7月

●知床半島の世界自然遺産への登録が決まる

8月

●第二次世界大戦(太平洋戦争)終戦60年

9月

●携帯音楽プレーヤーiPod miniの後継機種としてiPod nanoが発売

10月

●米ハーバード大学の中谷喜洋教授らの研究チームががん治療の革命的な進歩につながるタンパク質を発見

11月

●惑星探査機はやぶさが小惑星イトカワへの着陸と岩石の採取に成功

12月

●日本初のワンセグ対応携帯電話W33SAがauより発売

50年の軌跡

2005年～2014年 歴代理事長紹介

2006年 ～平成18年～

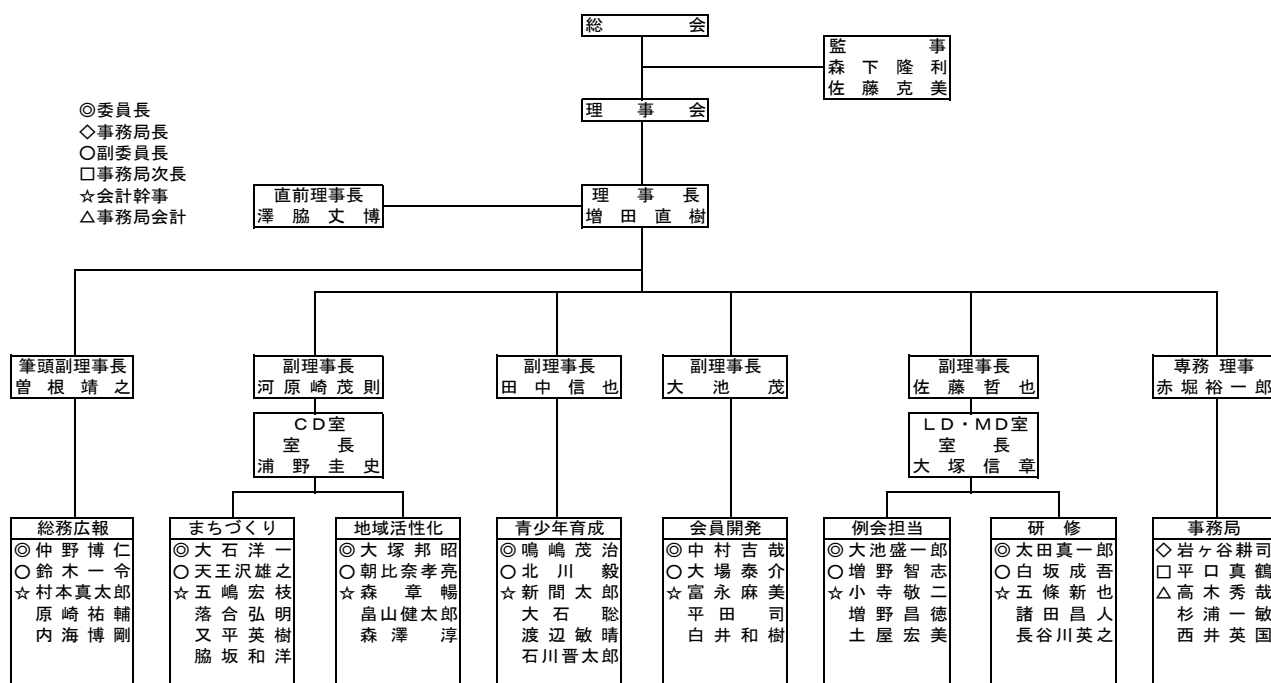
島田 JC スローガン
みんなで目指そう！
役立つJC 魅力あるJaycee

第41代理事長

増田 直樹



この年の組織図



この年の出向者

東海地区協議会

とうかい号 チームリーダー 澤脇 丈博
とうかい号支援委員会 委員 中村 吉哉
とうかいフォーラム委員会 委員 朝比奈 孝亮

東海地区静岡ブロック協議会

静岡ブロック協議会 副会長 平田 司
22LOM 応援委員会 委員 村本 真太郎
地域の力実践委員会 副委員長 大石 聡
地域の力実践委員会 委員 天王沢 雄之
ブロック会員大会支援委員会 委員 五嶋 宏枝
ブロック会員大会支援委員会 委員 平口 真鶴
アカデミー委員会 委員 渡辺 敏晴

アカデミー委員会 委員 森澤 淳

リーダー育成委員会 委員 大塚 信章
とうかい号支援委員会 委員 中村 吉哉

4LOMまちづくり会議

4LOMまちづくり会議 議長 河原崎 茂則
4LOMまちづくり会議 委員 浦野 圭史
4LOMまちづくり会議 委員 大石 洋一

2006

1月

●証券取引法違反容疑で
東京地検特捜部がライブドアに
強制捜査

2月

●稚内市の宗谷岬沖の日本領海で
カニ密漁の疑いでベリズ船籍を
追走したロシア警備艇が領海侵犯

3月

●ソフトバンクがボーダフォン
日本法人買収で親会社の
英ボーダフォングループと合意

4月

●耐震強度偽装事件で
警視庁などの合同捜査本部が
姉齒秀次元建築士ら7人を逮捕

5月

●インドネシアはジャワ島の
ジョグジャカルタ周辺を
震央とするマグニチュード6.3の
地震発生し、同国で5782人が
死亡

6月

●北朝鮮による日本人拉致被害者の
横田めぐみさんの元夫で韓国人拉
致被害者でもある金英男さんが、
北朝鮮で28年ぶりに家族と再会を
果たす

4月商売繁盛例会

1(00)億円への道! ? 「鋭い着眼点」と「奉仕の精神」

笠井高広先輩を講師にお迎えし、「対談形式」で行いましたが、事前の打ち合わせやリハーサル、そして何より例会本番で自身の経験、ノウハウを余すことなくご教授いただいた笠井先輩のおかげをもちまして、内容の濃い、充実した講演となりました。



6月指導力開発例会 優れた指導者への道!! 「聞き上手」「話し上手」

グループ毎に分かれてスピーチの実践を参加メンバー全員で行いました。またそのスピーチについてお互いに評価しあうという手法で上手な話し方、聞き方について実践を通して学びました

7月地域活性化例会

富士山静岡空港とまちづくり 未来に向けて

富士山静岡空港、新幹線新駅および市町村合併等、各話題についてプレゼンテーションをした後に全員の採決をとる、裁判を模した形式の例会となりました。



わんぱく合宿 自衛隊板妻駐屯地

「おはよう」「こんにちは」のたった一言の挨拶のもつ力に気づいてもらうことを今回の主な目的としてきました。コミュニケーションをとり、自分たちで楽しく遊べる様にその方法を考える力は子ども達が生来持っているものです。私達大人のできることはその力を発揮できる場を提供することなのだと感じました。

4LOMまちづくり会議

金澤恵美氏を講師としてお招きし、「地域通貨を通じた成功事例から今後のまちづくりの可能性を学ぶ」という内容でご講演いただきました。これからの4つのLOMでのまちづくり活動の参考になるものとなりました。



7月

●北朝鮮が、テポドン2号など7発の弾道ミサイルを日本海へ向け発射する(北朝鮮によるミサイル発射実験)

8月

●国際天文学連合が太陽系の惑星から冥王星を除外することを決定

9月

●自由民主党総裁選挙で安倍晋三が新総裁に選出

10月

●携帯電話の「MNP(番号持ち運び制)」がスタート

11月

●JR東海の名古屋エリアでICカード乗車券「TOICA」のサービスが開始

12月

●アメリカ航空宇宙局(NASA)がスペースシャトル「ディスカバリー号」の打ち上げに成功
4年ぶりの夜間打ち上げ

50年の軌跡

2005年～2014年 歴代理事長紹介

2007年 ～平成19年～

島田 JC スローガン

心

コ（個）・・・自己の確立

コ（公）・・・公益の追求

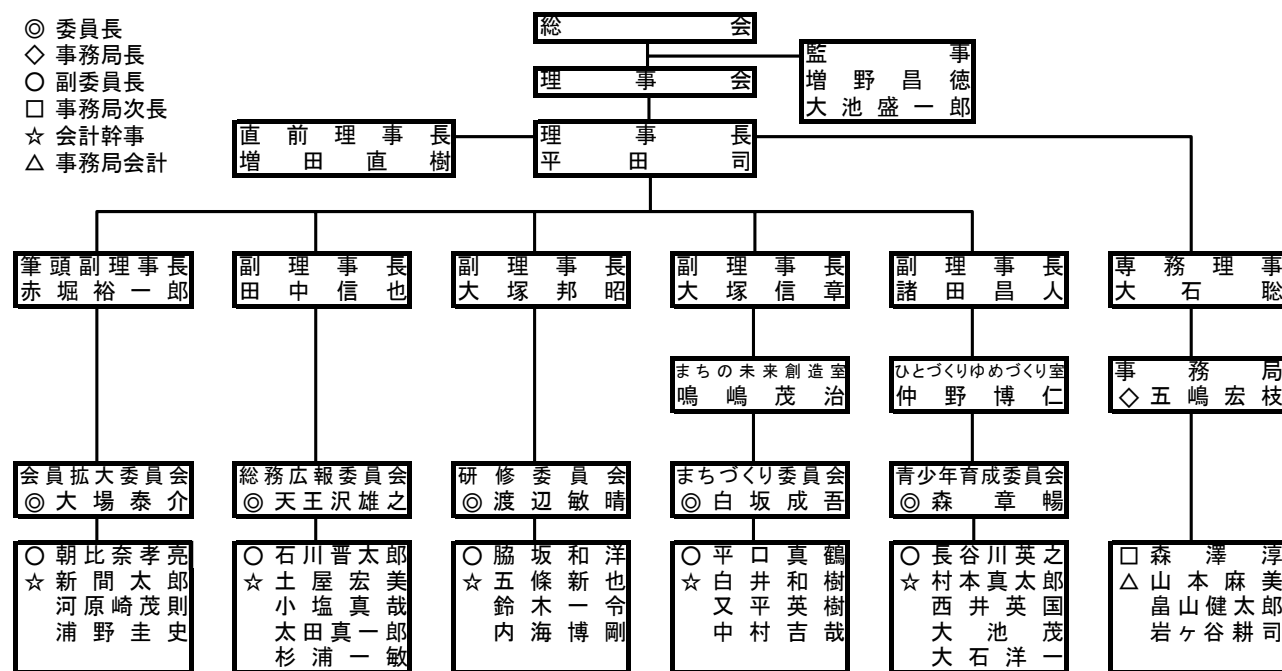
ロ（LOM）・・・LOMの絆

第42代理事長

平田 司



この年の組織図



この年の出向者

東海地区協議会
とうかい号支援委員会 委員 大石洋一
地域の力創造委員会 委員 朝比奈孝亮

東海地区静岡ブロック協議会
情報交流委員会 副委員長 太田真一郎
情報交流委員会 委員 小塩真哉
ブロック会員大会支援委員会 委員 長谷川英之
アカデミー委員会 委員長 中村吉哉
アカデミー委員会 副委員長 平口真鶴
アカデミー委員会 運営幹事 増野昌徳
アカデミー委員会 会計幹事 仲野博仁

組織連携推進委員会 委員 石川晋太郎
意味ある人づくり委員会 委員 新聞太郎
魅力あるしずおか創造委員会 委員 西井英国
とうかい号支援委員会 委員 大石洋一

4LOMまちづくり会議
4LOMまちづくり会議 委員 鳴嶋茂治
4LOMまちづくり会議 委員 仲野博仁

2007

1月

●宮崎県知事選挙で元タレントの東国原英夫（そのまんま東）が初当選

2月

●韓国統一省が北朝鮮から韓国に入国した脱北者の総数が1万人を超えたことを発表

3月

●能登半島の北西の沖を震源とするM6.9の能登半島地震発生
石川県の輪島市、七尾市、穴水町で震度6強を観測

4月

●NASAの人工衛星を使った観測により南極の氷河がカリフォルニア州の面積に匹敵するほど溶けていたことが判明

5月

●セブン&アイ・ホールディングス、東京都内のセブン・イレブン1500店舗に、新電子マネー「nanaco」導入

6月

●米大手証券ベアスターンズでサブプライムローン問題が顕在化

4月研修例会

本当に知的な人とは？「EQ」を鍛えて 魅力あるひとになろう!!

こころの知能指数と呼ばれる「EQ」という考え方の存在を知り、より豊かな人生を歩むための感情制御能力について学ぶ例会を行いました。心の問題を違う角度から見るきっかけを提供できた例会になりました。



6月まちづくり例会

一人一人が観光大使

この地域の空港や道路整備を主としたインフラ状況と地域が抱える不安を踏まえ、メンバーに小旅行の企画を発表してもらうことにより、この地域の宝を再認識し、他の地域に伝える意識を高めることができました。

7月研修例会

魂に響く吉田松陰の言葉

人間環境大学教授の川口雅昭氏を講師にお招きし、吉田松陰の言葉や魂を現代の教育に活かしてきた体験について熱のこもったご講演をいただきました。



青少年事業「チャレンジ富士登山」

子ども達に良い体験をさせてあげたいという想いから富士登山を考えました。この事業は単に登頂を目指すものではなく、その経験を通して子ども達の感受性を養い、心の成長の糧とすることを目的としました。真剣な眼差しで諦めず頂上を目指した子ども達が、未来を担う大人に育ってくれば幸いです。

11月 青少年育成例会

「親業」子供の考える力をのばす親子関係の作り方

講師に始澤三恵子氏をお招きし、8月に青少年育成事業「チャレンジ富士登山」に参加した児童の保護者を対象に「親業」についてのご講演をいただき、日常の対人関係にも活かせる実践的な方法を学びました。



7月

●第21回参議院議員通常選挙で民主党が大躍進し、参議院第一党に。一方、自民党・公明党の連立与党惨敗

8月

●米サブプライム問題で世界の経済・金融に混乱

9月

●大井川鐵道で動態保存されていた蒸気機関車C11形312号機が老朽化に伴いさよなら運転を実施。今後は同鐵道の他の蒸気機関車の部品供給用として動態保存される予定

10月

●郵政民営化に伴い日本郵政公社が解散。日本郵政株式会社を持株会社として郵便事業株式会社などが発足

11月

●チリでM7.7の大地震。アントフォガスタ地方を中心に大きな被害

12月

●社保庁、宙に浮いた約5000万円の年金記録のうち1975万件が名寄せ困難と発表

50年の軌跡

2005年～2014年 歴代理事長紹介

2008年 ～平成20年～

島田 JC スローガン

～君が微笑む

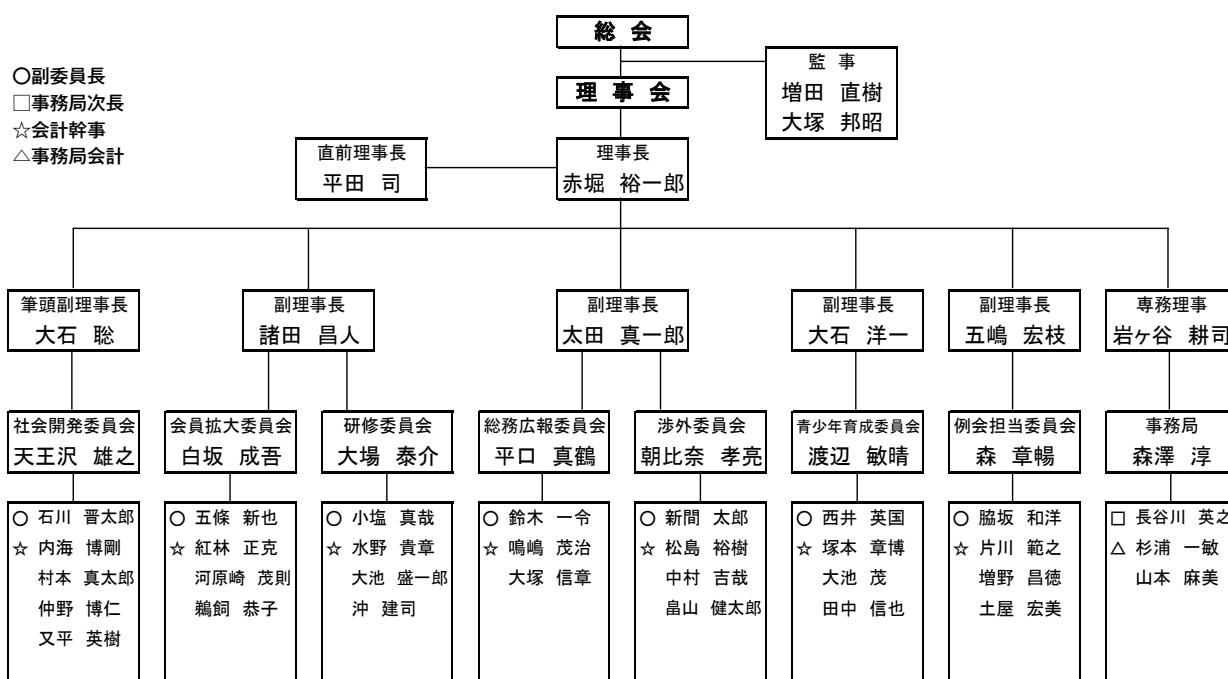
未来のために～

第43代理事長

赤堀裕一郎



この年の組織図



この年の出向者

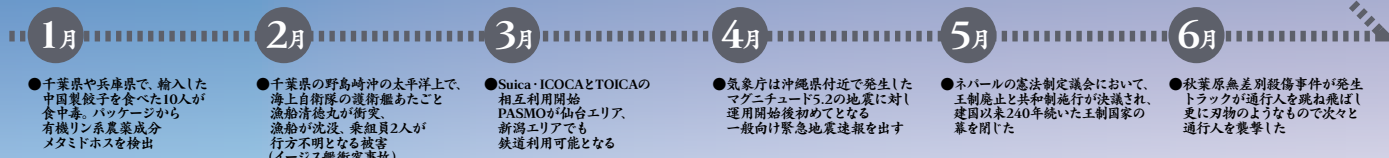
公益社団法人 日本青年会議所
全国会員大会運営会議 委員 中村 吉哉

東海地区協議会
東海フォーラム運営委員会 委員 松島 裕樹
とうかい号支援委員会 委員 長谷川 英之

東海地区静岡ブロック協議会
静岡ブロック協議会 監事 平田 司
静岡の活力発信委員会 委員 朝比奈 孝亮
ブロック会員大会運営委員会 委員 石川 晋太郎
アカデミー委員会 委員 紅林 正克
アカデミー委員会 委員 片川 範之
日本の活力推進委員会 委員 新間 太郎
とうかい号支援委員会 委員 長谷川 英之

4LOMまちづくり会議
4LOMまちづくり会議 委員 大石 聡
4LOMまちづくり会議 委員 天王沢 雄之

2008



4月指導力開発例会 リーダーとしての心構え 講師:横山茂明

二代目としての心構えを勉強したいという意見をもとに、過去に会社の事業を成功に導いた方々の事例や、失敗してしまった時の状況からリーダーとしての心構えを学び私達の指導力向上を図ることを目的に企画させていただきました。



6月社会開発例会 地域交流体験 紙飛行機教室

当日はただの紙飛行機教室では終わらせないように様々な工夫をし、参加者同士の交流やコミュニティーという言葉を全面に出さずに自然と交流が生まれる流れを作りました。結果、私たちが予想した以上に交流が生まれました。

7月人間力開発例会 精進料理に学ぶ感謝の心

人や物事に対する思いやりや感謝の気持ちが人間力の基礎となるのではないかと考え、寺院で行われる精進料理の教えから、それらを学ぶことを目的に企画しました。



青少年育成事業「ぼくらの夏休み」

浜名湖の弁天島を舞台にし、海での活動を主とした事業を行いました。実施場所として選んだ浜名湖には普段できない体験があり、自分たちの住む地域とは違う環境で暮らす人々との接触や潮の満ち引きやそこに住む生き物の観察などから得られる大自然とのふれあいが満ちあふれ、子ども達には我々が目的としたものを伝える事ができました。

9月和のころ例会

この例会は、日本の伝統文化・しきたりの中から「日本語」「著と和室の礼儀作法」「江戸のしぐさ」を3部構成で取り上げ、言葉と態度の両面から、心遣いと美意識をテーマに企画・運営しました。



7月

●日本がホスト国となる
第34回主要国首脳会議
北海道洞爺湖町で開催

8月

●第29回夏季オリンピック
北京大会が開催
日本は金メダル9個をはじめ
25個のメダルを獲得

9月

●自由民主党総裁選挙を挙行する
為の両院議員総会で、
麻生太郎幹事長が351票を獲得、
第23代自由民主党総裁に選出され、
直ちに総裁就任

10月

●ノーベル物理学賞に
南部陽一郎・小林誠・益川敏英
選出
化学賞に下村脩が選出

11月

●アメリカ合衆国大統領選挙が
施行され、バラク・オバマ(民主党)
候補がジョン・マケイン(共和党)
候補に圧勝し、第44代アメリカ合衆国
大統領に当選した

12月

●新宿コマ劇場閉館
『年忘れにっぽんの歌』生放送を
最後に52年の歴史に幕を閉じる
詰めかけた観客人数は約2000人

50年の軌跡

2005年～2014年 歴代理事長紹介

2009年 ～平成21年～

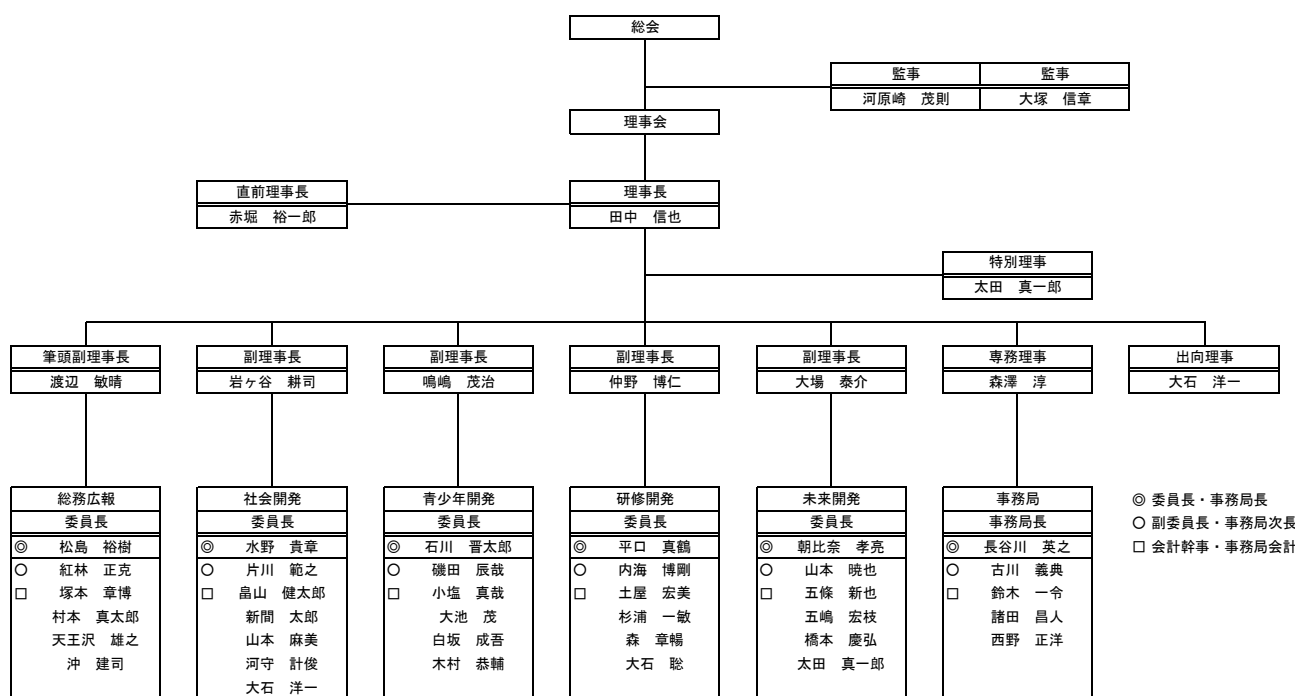
島田 JC スローガン
尊敬・信頼・感謝

第44代理事長

田中 信也



この年の組織図



この年の出向者

東海地区協議会

とうかい号生活委員会 部長 大石 洋一
とうかい号生活委員会 運営幹事 白坂 成吾
とうかい号歓送迎委員会 委員 五嶋 宏枝
とうかい号歓送迎委員会 委員 橋本 慶弘

東海地区静岡ブロック協議会

とうかい号支援委員会 副会長 大石 洋一
とうかい号支援委員会 運営幹事 白坂 成吾
とうかい号支援委員会 委員 五嶋 宏枝
とうかい号支援委員会 委員 橋本 慶弘
アカデミー委員会 委員 山本 暁也
アカデミー委員会 委員 木村 恭輔

ブロック会員大会運営委員会 委員 天王沢 雄之
つよいJAYCEE創造実践委員会 委員 大石 聡
つよい静岡創造実践委員会 委員 片川 範之
組織進化推進会議 委員 太田 真一郎

2009

1月

●鹿児島市の桜島が爆発的噴火を起し、集落の手前約500メートルに大きな1メートル超の噴石が飛散

2月

●映画『おくりびと』が日本映画初となる第81回アカデミー賞外国語映画賞受賞

3月

●1985年(昭和60年)の阪神タイガース優勝の騒ぎの際に道頓堀川に投げ込まれたケンタッキーフライドチキン道頓堀店のカーネル・サンダースの人形が24年ぶりに発見される

4月

●朝鮮民主主義人民共和国が日本・東北地方の太平洋上に向けて、ミサイル発射実験を実施
●世界保健機関 (WHO) が新型インフルエンザの発生を宣言

5月

●トヨタ自動車09年3月期に71年ぶりの営業赤字転落と発表

6月

●国内98番目の空港となる静岡空港(静岡県島田市、牧之原市)が開港

4月自由テーマ例会 大人のためのマナー講座

介護・看護の仕事に従事されている一般の方を招いて、社交ダンス講習を行いました。メンバーのほとんどが社交ダンス初挑戦であり、講師の指導通りにはうまく動けないようでしたが、一般の参加者と交流を図りながらの楽しい例会となりました。



5月公開例会 島田市市長選挙公開討論会

当日は約800名の一般来場者の方にご来場いただきました。その9割近くの方にアンケート回答をいただき、市民の市政に対する関心の高さを実感すると共に、アンケートの内容からも、この討論会が滞りなく開催できた喜びを実感しました。

青少年育成事業「未来へはばたけ」

大井川上流域を舞台とし、「自然・文化・伝統」をテーマとした2泊3日の野外キャンプ活動を行いました。カヌー教室、生け花教室、神楽見学などの普段の学校生活とは少し違ったプログラムを体験する事で、子ども達にとって新しい発見のある事業になりました。



8月第2例会 富士山静岡空港開港記念事業

親子航空教室は島田市、川根本町の応募当選者にJALのパイロット、キャビンアテンダントによる講演会を行いました。空港体験では「絵画コンテスト～あったらいいこんな飛行機～」の表彰者を対象に普段は立ち入る事のできないエプロン部やJAL業務室、消防車の見学を行いました。

10月地域発見例会

「島田だいすき検定」では様々な分野から一般的な地域要因を取り上げ検定を行いました。本質編として取り上げた地域医療問題は、難しい専門用語も多く受け入れ辛かったり理解しづらいことだったりと思います。しかし地域医療問題が、我々にとって避けて通れない大きな問題であることの痕跡は残せたと思います。



7月

●静岡県知事選挙で、川藤平太氏が初当選

8月

●裁判員制度による初の裁判が始まる(裁判員裁判)
●駿河湾を震源とする最大震度6弱、M6.5の地震が発生。この地震により死者1名、負傷者245名の人的被害が出た

9月

●衆院選で民主党圧勝。麻生内閣は首相官邸で臨時閣議を開いて総辞職。衆議院本会議においては、鳩山由紀夫氏民主党党首が衆議院・参議院本会議において第93代内閣総理大臣として首班指名された

10月

●アメリカ合衆国第44代大統領バラク・オバマ氏の「核なき世界」に向けた国際社会への働きかけを評価しノーベル平和賞を受賞

11月

●アメリカ合衆国第44代大統領バラク・オバマ氏が初来日。首脳会談で日米同盟深化へ合意。普天間基地問題は進展せず

12月

●ヨーロッパの長距離夜行列車「オリエン特急」の定期列車が廃止

50年の軌跡

2005年～2014年 歴代理事長紹介

2010年 ～平成22年～

島田 JC スローガン

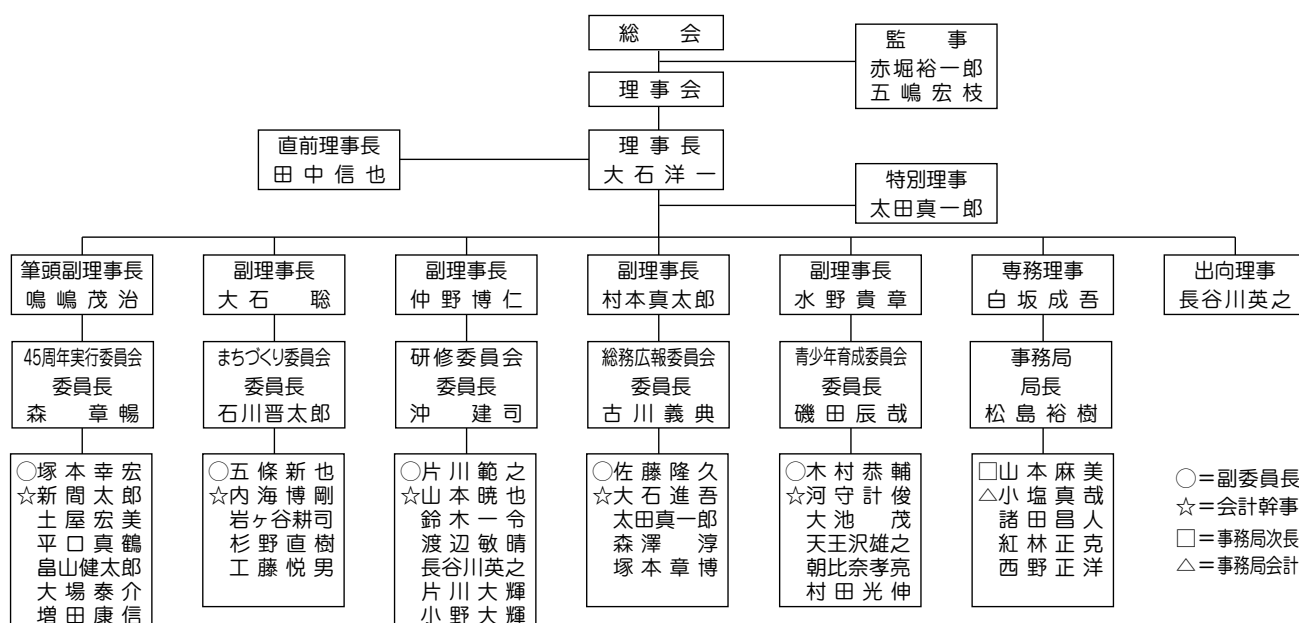
45周年の感謝を私たちの明日へ
想像・行動・責任

第45代理事長

大石 洋一



この年の組織図



この年の出向者

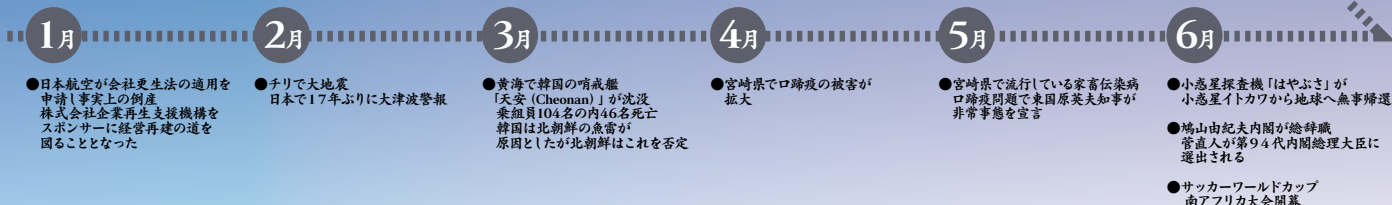
公益社団法人 日本青年会議所
セクレタリーグループ (吉村副会頭)
委員 朝比奈 孝亮

東海地区協議会
とうかい号歓送迎委員会 委員 大場 泰介

東海地区静岡ブロック協議会
アカデミー委員会 委員 大石 進吾
とうかい号支援委員会 委員 大場 泰介
ブロック会員大会運営委員会 委員 木村 恭輔
協働運動推進委員会 委員長 長谷川 英之
協働運動推進委員会 副委員長 杉野 直樹
協働運動推進委員会 会計幹事 岩ヶ谷 耕司

協働運動推進委員会 運営幹事 森澤 淳
連携推進運動実践委員会 委員 天王沢 雄之
組織進化確立委員会 委員 太田 真一郎

2010



4月意識向上例会

笑いの伝染 目指せ!! 幸せ伝道師

この例会では『笑いの伝染』に焦点を置き、島田市出身の落語家である三遊亭遊喜師匠を講師としてお招きしました。前半部では師匠独自の笑いの派生方法や笑いの伝染のさせ方を中心にお話頂き、後半部ではなぞ掛けを用いてメンバーがその応用の仕方を学ぶという形式で行いました。



創立45周年記念式典

島田みのる座にて特別会員、来賓をお招きして、島田青年会議所の45年間の歩みを振り返り、歴史を感じること、さらなる未来へ進む力を増すために記念式典を開催しました。われわれ活動地域の歴史を肌で感じてもらうために、会場全体の雰囲気にとだわり思い出深い式典を開催することができました。

青少年育成事業

「未来へはぐくめ大きな心」

島田市・川根本町の小学3年生～6年生を対象とし「挨拶」を中心に2泊3日の事業を行いました。静居寺での少し厳しい座禅や話法、本堂の寝泊り等、緊張感のある団体行動で協調性を学び、歩歩路での陶芸教室では親のありがたみ、感謝の気持ち、そして生き物の大切さを伝えました。



創立45周年記念事業

親子キャッチボールキャラバン

この地域を明るく活気あふれたまちにするには、大きな夢や目標を持って一步一步前に進み努力することが必要だと考えました。そこで未来そのものである子ども達にその努力を続ける力が夢の現実不可欠であることを学んでもらうべく、オリンピックでの活躍という功績を勝ち取った宇津木妙子氏とオリンピックメダリストをお呼びして親子キャッチボールキャラバンを開催しました。

地域活性化に貢献できるまちづくり事業 農業体験

「まずは市民の方々に地域イベントに参加して楽しんで頂き、参加者同士がコミュニケーションを築いていく中で地域への関心を高めて頂く」という趣旨の事業を展開しました。約80名の応募を頂き5月から10月までの約5ヶ月間に渡っての全6回、稲作・畑作といった農業を中心に事業を行いました。



7月

●第22回参院選が実施され民主党が惨敗、自民党が勝利し、与党が過半数に届かないためねじれ国会へ

8月

●アメリカ合衆国ワイオミング州ジャクソンホールにて国際経済シンポジウムが開催される

9月

●任期満了にともない民主党代表選挙が投票開票され、菅直人が小沢一郎に勝利し、再選を果たした

10月

●東京国際空港の国際線ターミナルが利用開始
東京モノレール羽田線に羽田空港国際線ビル駅、京急空港線に羽田空港国際線ターミナル駅が開業

11月

●日本が「ホスト国」となる第18回APEC首脳会議が神奈川県横浜市内で開催される

12月

●父島近海を震源地とした地震が発生し小笠原諸島に津波警報が、高知県などで津波注意報が出された
実際の津波の高さは最大22cmであった

50年の軌跡

2005年～2014年 歴代理事長紹介

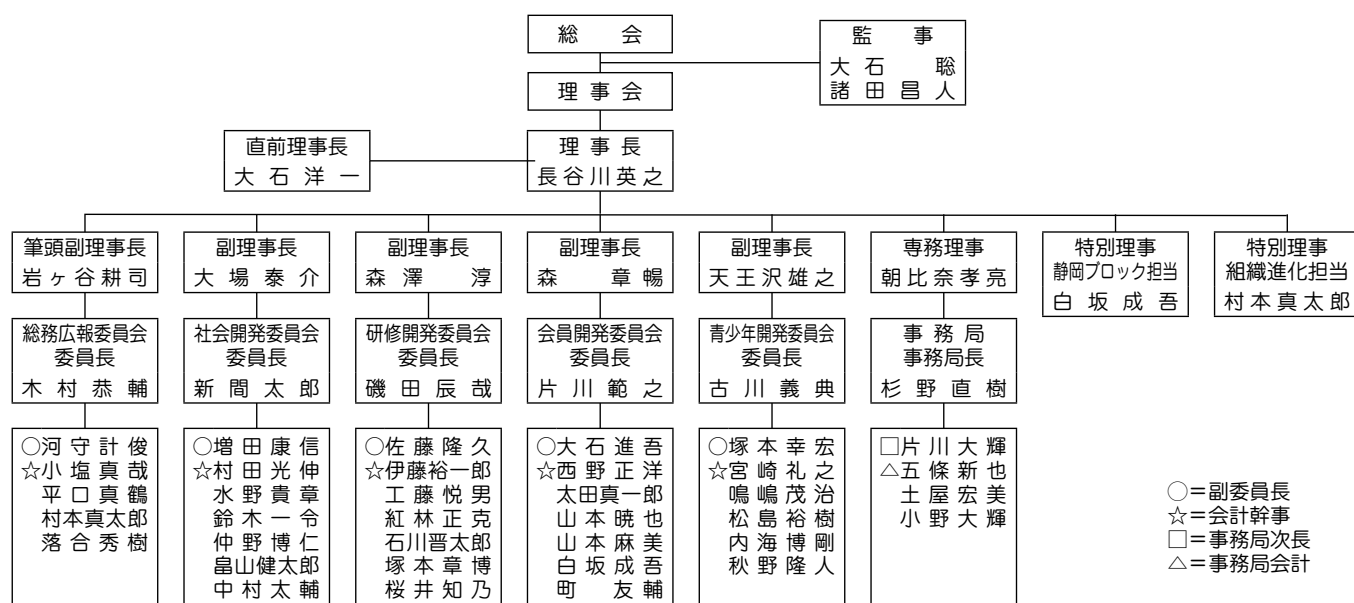
2011年 ～平成23年～

島田 JC スローガン
素志貫徹

第46代理事長
長谷川英之



この年の組織図



この年の出向者

東海地区協議会

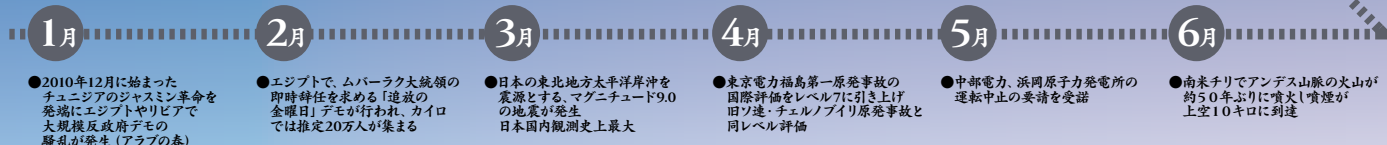
東海フォーラム委員会 委員 松島 裕樹
財政審査特別委員会 委員 太田 真一郎
とうかい号研修委員会 副委員長 伊藤 裕一郎
とうかい号生活委員会 委員 佐藤 隆久

東海地区静岡ブロック協議会

静岡ブロック協議会 筆頭副会長 大石 洋一
アカデミー委員会 委員 中村 太輔
アカデミー委員会 委員 秋野 隆人
とうかい号支援委員会 副委員長 伊藤 裕一郎
とうかい号支援委員会 委員 佐藤 隆久
ブロック会員大会実行委員会 副委員長 磯田 辰哉
ブロック会員大会実行委員会 委員 木村 恭輔

J C運動実践委員会 委員 石川 晋太郎
J C運動実践委員会 委員 水野 貴章
組織進化創造委員会 委員 村本 真太郎

2011



2月指導力開発例会

名將が語る「姿即心、心即姿」

講演では講師に熱く現代の青年に対してご講演頂きました。まずは自分自身を磨き研鑽すること、当たり前のことを当たり前に出ること等、自己の確立が出来るようにならなければと考えさせられました。



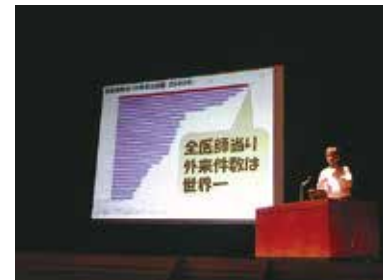
県議会議員選挙公開討論会

来場者の方々の感想からも、政治は不透明で縁遠いものだと感じていることがわかりました。日本の未来を素晴らしいものにしていく為には、一人ひとりが主体的に政治に参加できるような社会が必要と感じました。

7月まちづくり例会

みんなで考える地域医療シンポジウム みんなの力を医療の力に

当日は193名の方にご来場頂きました。地域医療という難しいテーマでしたが大勢の方に地域医療の現状を知って頂き、患者側の意識改善と医療従事者の方への感謝の気持ちを持つきっかけを創ることができました。



青少年開発事業 夏休みふれあい体験合宿

1泊2日のスケジュールで、特別養護老人ホームでの交流・車イス体験・盲目の体験、また熱気球体験・乗馬体験など、様々な体験を実施しました。また親子参加で実施したOMOIYARIセミナーでは参加者が予想以上に積極的に取り組んで頂いたおかげで、伝えたいことがしっかりと伝えられました。

10月人間力開発例会

(2012年度静岡ブロック協議会主管記念事業) ～未来を担う子どもたちに・今を担う大人たちに・ 今、伝えたい大切なメッセージ～

2012年度静岡ブロック主管記念事業としてローズアリーナにて水谷修氏の講演会を700名を超える参加者を招き行いました。約半年前から準備を進め島田市、川根本町といった行政機関や各種関係諸団体に協力を仰ぎ準備を進めましたが、全ての団体に快くご協力いただきました。



7月

- 地上アナログテレビ放送が停波し、地上デジタル放送に完全移行
- 2011 FIFA女子ワールドカップドイツ大会決勝戦で、日本女子代表が初優勝

8月

- 警官による市民射殺をめぐるロンドン北部のトゥナムで発生した暴動はロンドンの他の地域や地方都市にも飛び火、過去数十年で最悪の暴動となった

9月

- 全日空機がこの日の22時48分頃、静岡県沖を飛行中に急降下するトラブルが発生し、一時は背面飛行状態となった

10月

- 元Apple Inc. CEO スティーブ・ジョブズ 肺臓腫瘍の転移による呼吸停止により妻や親族に看取られながらパロアルトの自宅で死去 56歳没

11月

- 直径400mの308635番小惑星2005 YU55が地球から32万5000kmのところを通過 観測史上初めて直径が100mを超える小惑星が月の軌道の内側に入り込んだ

12月

- 朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)の最高指導者金正日(キム・ジョンイル) 総書記が17日死去した

50年の軌跡

2005年～2014年 歴代理事長紹介

2012年 ～平成24年～

島田 JC スローガン

絆

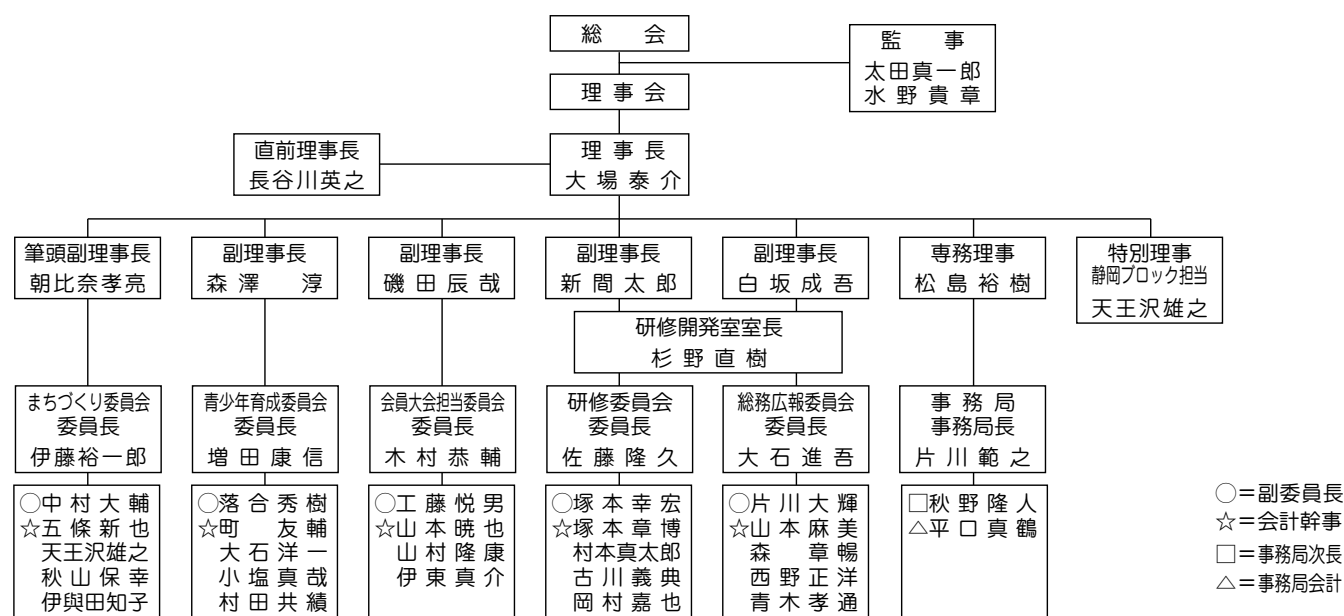
～団結し未来への一步を
踏み出そう～

第47代理事長

大場 泰介



この年の組織図



この年の出向者

東海地区協議会

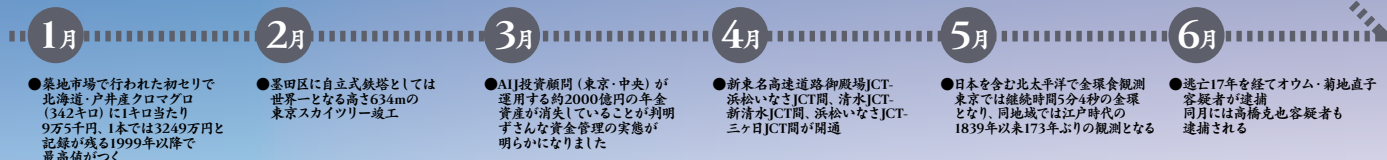
とうかい号 チームリーダー 長谷川 英之
とうかい号 委員 古川 義典
とうかい号 委員 中村 太輔
財政審査特別会議 副委員長 太田 真一郎

東海地区静岡ブロック協議会

静岡ブロック協議会 会長 大石 洋一
静岡ブロック協議会 運営事務 天王沢 雄之
静岡ブロック協議会 財政局長 太田 真一郎
静岡ブロック協議会 事務局長 白坂 成吾
ブロック会員大会実行委員会 委員長 磯田 辰哉
ブロック会員大会実行委員会 副委員長 伊藤 裕一郎
ブロック会員大会実行委員会 運営幹事 木村 恭輔
ブロック会員大会実行委員会 会計幹事 水野 貴章

アカデミー委員会 委員 町 友輔
アカデミー委員会 委員 山村 隆康
とうかい号支援委員会 委員 古川 義典
とうかい号支援委員会 委員 中村 太輔
連携推進実行委員会 委員 村本 真太郎
災害対策復興支援委員会 委員 森 章暢
災害対策復興支援委員会 委員 秋野 隆人
組織進化委員会 委員 杉野 直樹

2012



4月異業種交流会

入会3年未満のメンバーで構成するアカデミーという島田青年会議所では初めての組織で本例会を企画し、当日は多くの参加者をお迎えすることができました。今までのJCにはない斬新な新しい視点からの意見はこれからの島田青年会議所の組織力を底上げし、組織全体の力になると信じております。



6月経営力開発例会

この例会では岡村氏の講演を通じて岡村氏の経営方針の中でもっとも重きを置いている心を大切に考えていく経営方針をメンバーに知ってもらうことができました。ここでの新たな気づきを経営や社会生活のお役に立てていただけるのではないかと思います。

7月まちづくり例会

「祭りから学ぶまちづくり」をテーマに、JCにおけるまちづくりを考える例会を開催。講師と委員会により島田の祭り・伝統芸能の基礎知識と現状を学びました。
本例会を通じ、メンバーが祭りに対して興味を持ってもらい、まちづくりと祭りとの関連性を理解し、今後の事業の可能性を見出し、もらえる例会となりました。



青少年育成事業「きずな探検隊」

本年は寸又川河畔の雑木林の中にある池の谷ファミリーキャンプ場にて、青少年育成事業「きずな探検隊」を開催。37名の子ども達と2泊3日というハードなスケジュールの中、メンバー、ボランティアの協力のおかげで素晴らしい事業をやり遂げることができました。

9月ブロック大会例会

静岡ブロック協議会 ブロック大会を島田の地で開催しました。「島田絆祭り」は本来島田が持つ魅力を終結して作り上げ、我々の住み暮らす地域の底力を証明できました。
伝統祭りの競演、出身有名人のステージ出演、特産品にこだわったええだら市等、組み合わせを変えたり、場所を変えたりすることで新たな輝きを発することができました。



- | | | | | | |
|--|---|--|--|---|---|
| <p>7月</p> <ul style="list-style-type: none"> ●平成24年7月九州北部豪雨 816.5ミリ記録的な豪雨。平成24年7月九州北部豪雨と命名 | <p>8月</p> <ul style="list-style-type: none"> ●第30回夏季オリンピック・ロンドン大会はロンドン東部の五輪スタジアムで開会式を行い4年に1度のスポーツの祭典が開催した | <p>9月</p> <ul style="list-style-type: none"> ●香港活動家実問諸島上陸事件以降に中華人民共和国で実施されている反日デモ活動が最大規模のデモとなりデモ隊が暴徒化し大規模な破壊・略奪行為に発展した | <p>10月</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日本政府、実問諸島の魚釣島及び南小島、北小島を所有する地権者と20億5千万円で売買契約締結、国有化 | <p>11月</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大人気アニメの劇場版『エヴァンゲリオン新劇場版:Q』動員数が、公開4日で100万人を突破した 全国224スクリーンで公開された本作は土日2日間で興収11億3,100万4,600円を記録 | <p>12月</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自由民主党総裁・安倍晋三が内閣総理大臣に再就任 第2次安倍内閣 ●社団法人 島田青年会議所 一般社団法人の法人格へ移行 |
|--|---|--|--|---|---|

50年の軌跡

2005年～2014年 歴代理事長紹介

2013年 ～平成25年～

島田 JC スローガン

情熱達成

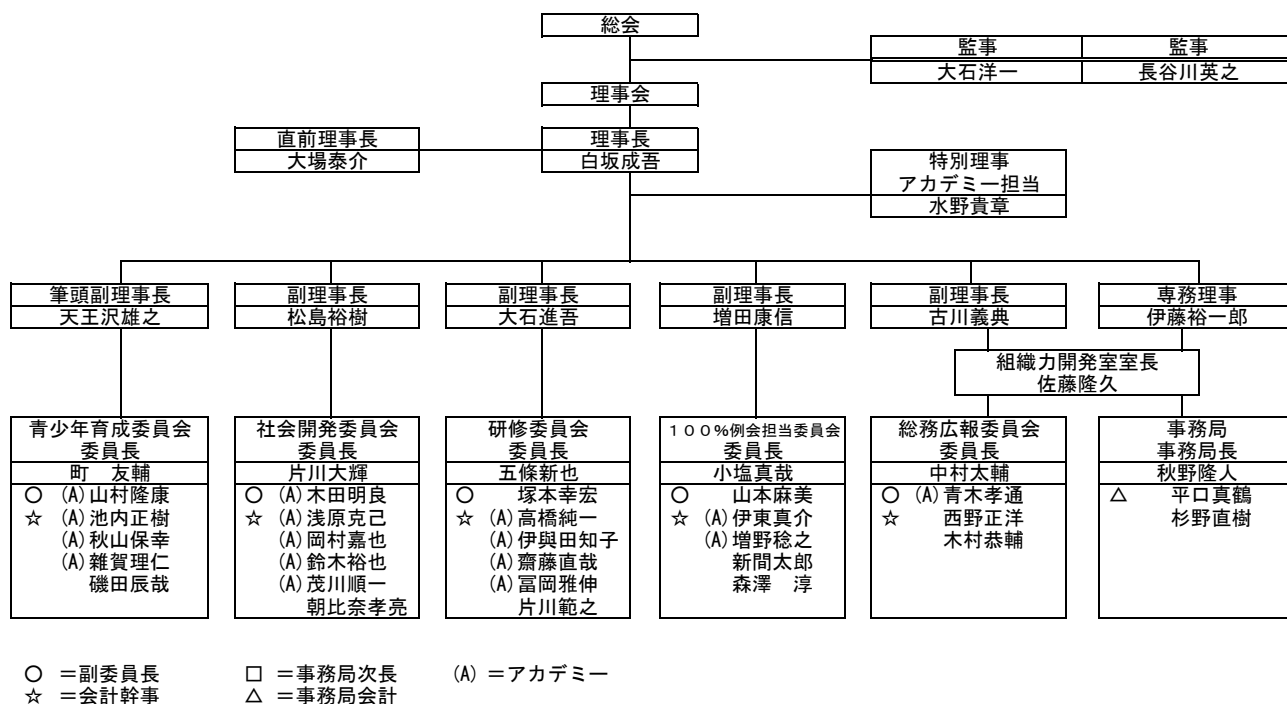
真の組織力で
新たなステージの扉をひらけ

第48代理事長

白坂 成吾



この年の組織図



この年の出向者

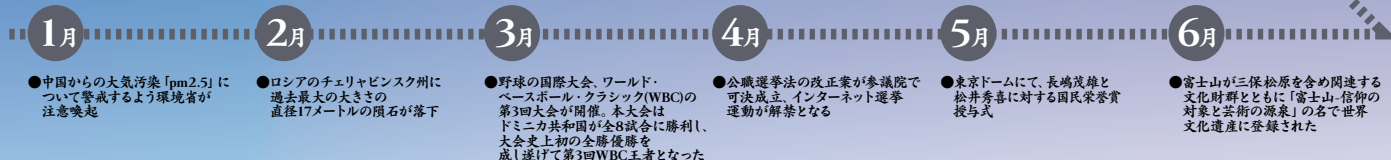
公益社団法人 日本青年会議所
JC運動発信会議 委員 朝比奈 孝亮
日本の未来選択委員会 委員 杉野 直樹

東海地区協議会
とうかい号 チームリーダー 大場 泰介
とうかい号国際交流委員会 委員 増野 稔之
とうかい号広報記録委員会 委員 池内 正樹
とうかい号研修委員会 委員 増田 康信

東海地区静岡ブロック協議会
静岡ブロック協議会 直前会長 大石 洋一
アカデミー委員会 委員 齋藤 直哉
アカデミー委員会 委員 高橋 純一
アカデミー委員会 委員 木田 明良
とうかい号支援委員会 委員 増野 稔之
とうかい号支援委員会 委員 池内 正樹
とうかい号支援委員会 委員 増田 康信

ブロック大会実行委員会 委員 山村 隆康
静岡の未来創造委員会 委員 伊東 真介
未来につながるネットワーク確立委員会
委員 木村 恭輔

2013



4月異業種交流会例会

入会3年未満で構成したアカデミーメンバーによる名刺交換会を開催しました。様々な方たちとの交流によりビジネスチャンスが生まれました。また、地域活性化という面においても本例会は新しい変化が生まれ、貢献できました。



島田市長選挙公開討論会

当日は約1200名という非常に多くの方が来場され、島田市民の市政に対する関心の高さを感じました。内容としても事前に実施した「島田市民意識調査アンケート」の結果を元に質問内容を構成することにより、市民が必要としている情報を発信できました。「ひとりでも多くの地域住民に選挙と市政への関心を持ってもらう」という目的は達成できたと感じています。

6月100%例会

この例会ではメンバー全員を集めたからこそ島田青年会議所会員として知っておいてほしいこと、「委員会～理事会～例会」の流れをテーマにしました。「例会」では招く立場と招かれる立場に分かれ、それぞれの立場で「例会に参加した全員」が何かを学び、気づくということをスポーツを通して体感していただきました。



青少年育成事業

トライ!～あきらめずにやり抜く気持ち～

航空自衛隊静浜基地での自衛隊体験、焼津青少年の家宿泊、ライフセービングなど、普段とは違った体験を通じ子ども達は仲間と協力し助け合いながら、様々なことに挑戦し、あきらめずにやり抜くことが出来ました。

10月指導力開発例会

ワークショップ「貿易ゲーム」を通じ、利益追求を学ぶ例会を開催しました。メンバーのほとんどが企業経営に携わっておりますので強い興味と積極的な参加を得る事ができ、白熱した内容となりました。



7月

●英国ウィリアム王子の妻キャサリン妃が男児を出産
名前は「ジョージ・アレクサンダー・ルーイ」
国内ではロイヤルベビー商戦として
限定アクセスや食器、
テディベアなど各百貨店が販売

8月

●亀田兄弟の3男和毅選手が
WBOバンタム級のタイトルマッチで
勝利して世界王者に
3兄弟が全員が世界王者で
ギネス認定を受ける

9月

●2020年のオリンピックの開催地が
1964年以来56年ぶり2回目の
「東京」に決定

10月

●伊勢神宮の内で、御神体を
旧殿から新殿へと遷す式年遷宮の
主要行事「遷御」が行われる
外宮遷御の翌日には、2005年から
続いている第62回式年遷宮の
関連行事がすべて終了した

11月

●週刊少年ジャンプで連載している
「ONE PIECE」の単行本の
累計発行部数が3億冊を突破

12月

●プロ野球楽天の田中将大投手(25)
がつくった連続記録がギネス世界
記録に認定
同一シーズン24連勝のほか、昨年
8月26日からの28連勝とポスト
シーズンでの2勝を加えた
「30連勝」の3つが認定された

50年の軌跡

2005年～2014年 歴代理事長紹介

2014年 ～平成26年～

島田JCスローガン

忠恕

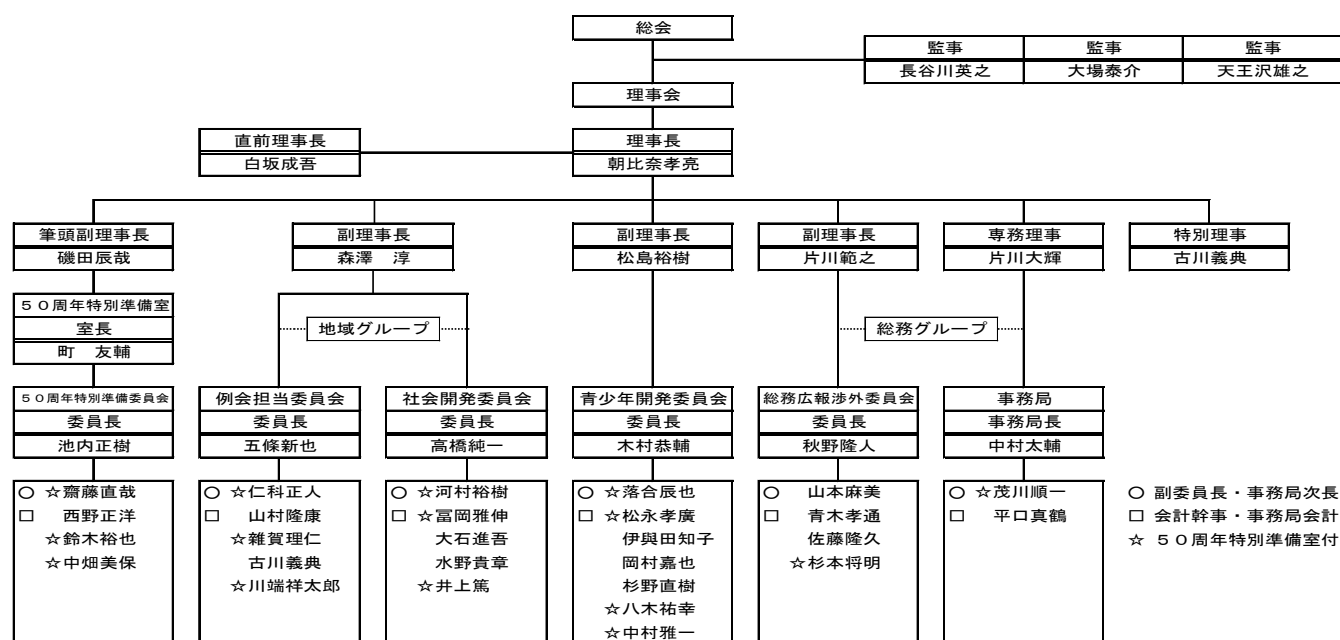
OMOIYARI を胸に刻み、今飛翔するとき

第49代理事長

朝比奈孝亮



この年の組織図



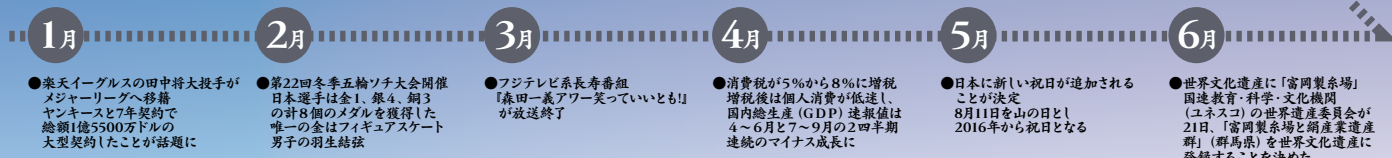
この年の出向者

公益社団法人 日本青年会議所
 拡大委員会 委員 大場 泰介
 JC運動発信会議 委員 齋藤 直哉
 日本の未来選択委員会 委員 町 友輔
 東海地区協議会
 とうかい号 部長 古川 義典
 とうかい号研修委員会 副委員長 佐藤 隆久
 とうかい号広報記録委員会 委員 河村 裕樹
 とうかい号企画委員会 委員 雑賀 理仁

東海地区静岡ブロック協議会
 静岡ブロック協議会 監査担当役員 大場 泰介
 静岡ブロック協議会 副会長 古川 義典
 静岡の未来創造委員会 副委員長 大石 進吾
 静岡の未来創造委員会 委員 仁科 正人
 アカデミー委員会 委員 八木 祐幸
 アカデミー委員会 委員 松永 孝廣
 アカデミー委員会 委員 鈴木 裕也

とうかい号支援委員会 会計幹事 佐藤 隆久
 とうかい号支援委員会 委員 河村 裕樹
 とうかい号支援委員会 委員 雑賀 理仁
 ブロック大会実行委員会 委員 水野 貴章
 ブロック大会実行委員会 委員 茂川 順一
 未来につながるネットワーク確立委員会
 委員 落合 辰也

2014



4月人間力開発例会

株式会社メンターリングアソシエイツ取締役の石山登啓氏を講師にお招き、「自身の立てた目標を達成すること」に焦点を当てた例会を開催。
メンターリングを通じてメンバー、ゲストの皆さんの今後のより良い活動の糧となった例会となりました。



6月例会「初めての贈り物 パパ、ママの島田カタカタ木工教室」

入会3年未満で構成したアカデミーメンバーによる例会を開催。「地域の活性化を図る」をテーマとし、島田市特産の手押し車カタカタの木工教室をメインに、市内外から200名を超える市民が参加。参加者と共に木と触れあい島田市の産業発展の歴史を学べる事業となりました。

7月まちづくり例会「島田発見市」

JCメンバーが「地域の宣伝マン・宣伝ウーマン」として地域の資産を再発見、利活用することで、自らがこのまちの魅力を内外に発信していく事業とし、我々の活動エリアの商店からご協力いただき島田発見市を開催。また、ちびっこサッカー大会や地元伝統芸能による太鼓の演奏など行いました。



8月青少年開発事業 「僕らの手で未来をつかめ」

本事業は「心の琴線に触れ、未来に対する夢や希望が生まれるための後押し」を目的として青少年育成事業を開催。富士山静岡空港の見学、藤枝MYFCの選手による夢教室、JAXA講演など、盛りだくさんの企画を詰め込み1泊2日にて開催しました。子ども達は本当に楽しそうに、そして積極的に体験してくれていました。

10月JCプログラム実践例会

日本青年会議所より三ツ井仁君をトレーナーとしてお招き、ボディランゲージを通じ、コミュニケーション能力の向上を図る例会開催しました。中部5JCの青年会議所メンバーも来訪いただき、セミナー終了後に実践の場として名刺交換会を開催しました。



- 7月** ●ベネッセコーポレーション個人情報流出事件。教育事業大手のベネッセホールディングスは9日、「進研ゼミ」などの顧客情報が大量流出した可能性があると発表。流出は最大約3500万件
- 8月** ●埼玉県でデング熱の国内感染を約70年ぶりに確認され国内流行が起きた
- 9月** ●27日午前11時52分、長野、岐阜両県境の御蔵山が噴火した。山頂付近にいた多くの登山者が噴火に巻き込まれ、57人が死亡、6人が行方不明
- 10月** ●青色LEDを開発した赤崎氏、天野氏、中村氏の3名がノーベル物理学賞を受賞
- 11月** ●国連教育・科学・文化機関(ユネスコ)は26日、無形文化遺産として「和紙、日本の手漉和紙技術」を登録した
- 12月** ●「和食」がユネスコの無形文化遺産に登録

50年の軌跡

2015年 ~平成27年~

島田JCスローガン

伝承

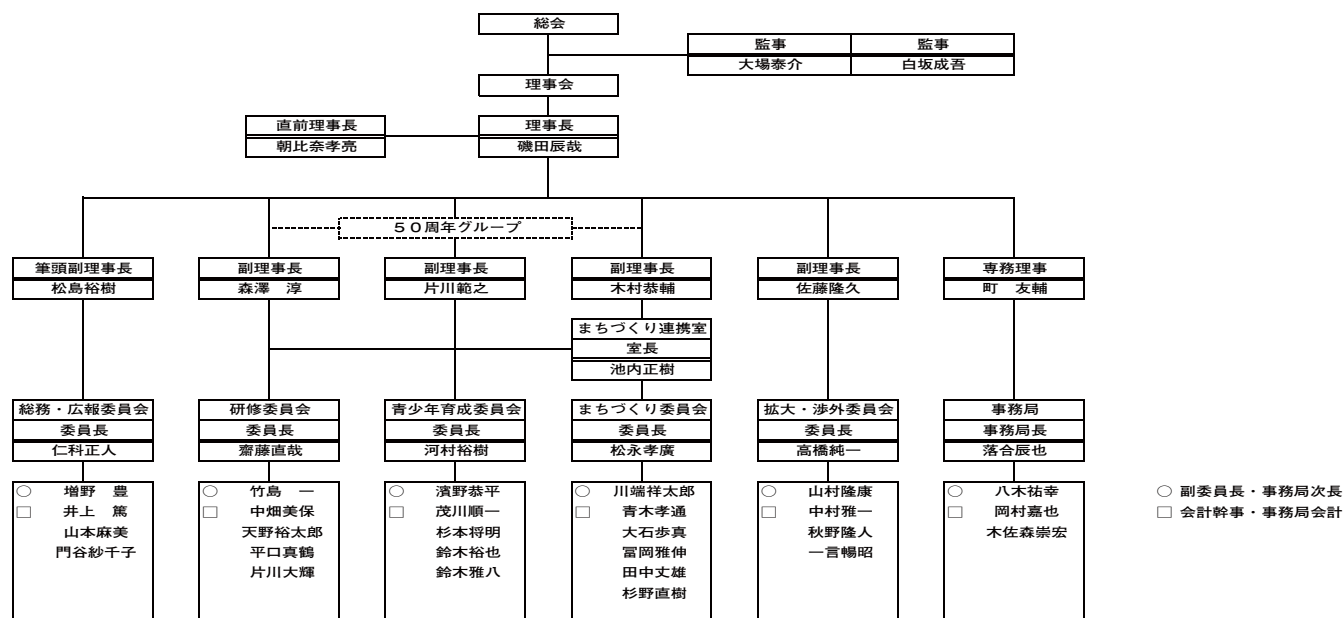
～古き良き時代を想い、新たな時代を築く～

第50代理事長

磯田 辰哉



この年の組織図



この年の出向者

公益社団法人 日本青年会議所
 渉外委員会 委員 大場 泰介
 国史会議 委員 朝比奈 孝亮
 財務運営会議 委員 竹島 一
 東海地区協議会

とうかい号 チームリーダー 白坂 成吾
 とうかい号 研修委員会 副委員長 落合 辰也
 とうかい号 国際交流委員会 副委員長 秋野 隆人

とうかい号 広報記録委員会 副委員長 池内 正樹
 東海フォーラム運営委員会 委員 片川 大輝
 東海地区静岡ブロック協議会
 アカデミー委員会 委員 増野 豊
 アカデミー委員会 委員 天野 裕太郎
 アカデミー委員会 委員 大石 歩真
 ひろげよう「とうかい号」の輪委員会 委員 落合 辰也
 ひろげよう「とうかい号」の輪委員会 委員 池内 正樹

ひろげよう「とうかい号」の輪委員会 委員 秋野 隆人
 ブロック大会実行委員会 委員 片川 範之
 ブロック大会実行委員会 委員 川端 祥太郎
 未来静岡創造委員会 委員 木佐森 崇宏
 静岡をつなぐネット輪一推進委員会 委員 仁科 正人
 事務局 委員 落合 辰也

2015

- 1月**
 - 阪神・淡路大震災から20年
 - 大相撲初場所白鵬が歴代最多優勝(33回)を果たす
- 2月**
 - 英国ウィリアム王子初来日
 - 三菱重工業と宇宙航空研究開発機構、H-IIAロケット27号機の打ち上げ成功
- 3月**
 - 大阪駅～札幌駅間の寝台特急列車「トワイライトエクスプレス」運行を終了
 - 北陸新幹線開業 これまでの東京～長野から新たに長野～金沢間が開通
- 5月**
 - 箱根山の火山性地震の増加。噴火警戒レベルが2に
 - 鹿児島県屋久島町の口永良部島新岳が噴火
- 8月**
 - 広島・長崎原爆投下の日から70年目「平和記念式典」が開催される
 - 安倍首相が戦後70年の首相談話を閣議決定
- 9月**
 - ラグビーワールドカップ2015がイングランドで開催
 - 敬老の日と秋分の日に挟まれる9月22日が国民の休日となる

2月 人間力開発例会

～株式会社フジドリームエアラインズに学ぶ
OMOTENASHIスキルアップセミナー～



人間力の構成要素の一つである社会・対人関係力の向上を目的とした例会として企画しました。講師にフジドリームエアラインズより4名の講師をお招きし、島田市地域交流センター歩歩路にて、ゲスト・一般参加者を交えてのホスピタリティセミナーを行いました。

3月指導力開発例会(中部5JC合同例会)

人財と組織を活かす指導力
～グローバル企業から学ぶリーダーシップ～



プラザおおりにて、中部5JC合同例会、島田JC主管で開催されました。講師にネスレ日本(株)代表取締役社長兼CEO高岡浩三氏をお招きし、人口の減少と少子高齢化社会での組織運営という切り口で、人の育成と組織の育成を学ぶ例会を行いました。

4月 会員拡大例会

～地域再生から学ぶ明るい未来開発例会～

島田市地域交流センター歩歩路にて、この地域を支える青年を一人でも多く増やす為の例会を行いました。各メンバーがゲストを同伴し、講師に上田博和先輩をお招きし、過去の経験や青年会議所のスケールメリット等をお話いただきました。



地域の魅力を再発見する為に、プラザおおりにて講師に(株)東急エージェンシーの木村知氏をお招きし、日本での地域の魅力のあり方・当地域での魅力の発見方法を学びました。その後実際にモデルツアーを構築し島田市観光課・観光協会に提案しました。



6月 経営力開発例会



島田市地域交流センター歩歩路にて、他社との差別化を図り高付加価値を手にするブランディングの手法を学ぶ例会を行いました。「奴と鬻」のキャラクターを使い、分析・マーケティング・プレゼンテーションの3部構成で一連の手法を学びました。



7月 自由テーマ例会

～島田川根ふるさとかるた～

「島田川根ふるさとかるた」を制作し、子ども達に島田川根地域の魅力を知ってもらうために、静居寺にてメンバー全員で地域の身近な文化や名所を題材に読み札を作成し、後日地元の高校生に絵札を描いていただきました。

青少年育成事業

～さあ挑戦だ!!まだJCアドベンチャーズ～

島田市・川根本町の小学4年生から6年生を対象に、道徳心・地域愛・夢の3つを意識した体験サマーキャンプを1泊2日で行いました。千頭周辺のトレッキング、接岨湖でのカヤック体験等を通し、挑戦することの大切さを伝えました。



入会3年未満のメンバーが大半を占める現状の中で、改めて青年会議所の存在意義を知る例会を行いました。島田市川根文化センター チャリム21にて、セミナーを用い、青年会議所発足から続く想い・背景等を学びました。



50年の軌跡

創立50周年記念式典・祝賀会

10月12日(月祝)島田市民総合施設プラザおおりにて創立50周年記念式典を多くの島田青年会議所のOBをはじめ、多くの皆様ご参集のもと執り行いました。祝賀会は、大井神社宮美殿にて島田青年会会議所の活動エリアの良いものをギュッと詰め込み来ていただいた皆様におもてなしの心でお出迎えしました。



歴代理事長紹介の風景
特別会員代表挨拶はシニアクラブ鈴木國近会長



式典会場にて現役会員集合写真



祝賀会にて50周年を祝う鏡開きの風景



祝賀会にて川越し人足の装いでお出迎えする現役会員



祝賀会の歓談風景



祝賀会終了後の現役会員集合写真

10月まちづくり例会 創立50周年記念事業「地讃地笑祭り」

10月18日(日) 島田中央公園にて10月まちづくり例会創立50周年記念事業「地讃地笑祭り」を開催しました。本事業は島田青年会議所の活動エリアの魅力を地域の内外に知っていただくことで、定住人口や交流人口の向上に繋がる例会となりました。

また、島田市と川根本町の社会福祉協議会と災害に関する調印式をはじめ、地域青年団体もご協力いただき、約5000名の来場者と共に大変な賑わいとなりました。



メインステージ風景



災害時応援協定調印式の様子



中央公園でおなじみのミニト레인
島田YEGさん協力のもと初のナイトト레인も開催



島田高校美術部とアカデミーメンバーが制作したご当地カルタ



参加者が装飾した竹灯篭



ASIAN KUNG-FU GENERATIONのボーカル
後藤正文氏によるソロライブを開催

現役会員

役員・監事



理事長
磯田辰哉



直前理事長
朝比奈孝亮



筆頭副理事長
松島裕樹



副理事長
森澤 淳



副理事長
片川範之



副理事長
木村恭輔



副理事長
佐藤隆久



専務理事
町 友輔



まちづくり連携室室長
池内正樹



監事
大場泰介



監事
白坂成吾

総務・広報委員会



委員長
仁科正人



副委員長
増野 豊



会計幹事
井上 篤



委員
山本麻美



委員
門谷紗千子

研修委員会 創立50周年記念式典・祝賀会担当委員会



委員長
齋藤直哉



副委員長
竹島 一



会計幹事
中畑美保



委員
天野裕太郎



委員
平口真鶴



委員
片川大輝



委員
塚本一成



委員
池ヶ谷哲平

青少年育成委員会



委員長
河村裕樹



副委員長
濱野恭平



会計幹事
茂川順一



委員
杉本将明



委員
鈴木裕也



委員
鈴木雅八



委員
山本雄志

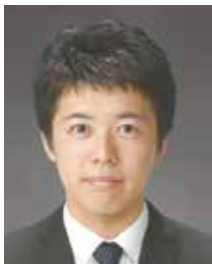


委員
池谷大地



委員
渡邊 潤

拡大・渉外委員会



委員長
高橋純一



副委員長
山村隆康



会計幹事
中村雅一



委員
秋野隆人



委員
一言暢昭



委員
爾見淳芳

まちづくり委員会



委員長
松永孝廣



副委員長
川端祥太郎



会計幹事
青木孝通



委員
大石歩真



委員
富岡雅伸



委員
田中丈雄

事務局



委員
杉野直樹



委員
岡本一紀



委員
藤田幸助



事務局長
落合辰也



事務局次長
木佐森崇宏



事務局会計
今井 徹



島田市長

一般社団法人 島田青年会議所
第50代理事長

川根本町長

染谷 絹代 × 磯田 辰哉 × 鈴木 敏夫

はじめに

磯田理事長：染谷市長、鈴木町長、本日はお忙しい中、一般社団法人島田青年会議所（以下、島田青年会議所）創立50周年の記念誌特別企画「島田市長×川根本町長×理事長対談」にご協力賜りまして誠にありがとうございます。

1966年5月（20日）の創立から数え、本年度、島田青年会議所は50周年を迎えさせていただきます。本紙特別頁は、島田市・川根本町のリーダーであるお二方から、我々の島田青年会議所の運動である、子供たちの教育やまちづくりなどを中心に意見交換、振り返りをさせていただければと存じます。今日までの青年の運動を知っていただき、島田青年会議所の可能性を改めて知っていただく共に、更なる理解を賜る事ができれば幸いです。

また、本紙特別頁により、現役JCメンバーや未来のJCメンバーに、島田市長

と川根本町長のお考えを知る素晴らしい機会になるかと存じます。この頁を読む事により、自身が選んだJCという選択に誇りを持ち、島田市・川根本町をはじめとする活動エリアでの更なる青年の運動の糧となるような記念誌を製作させていただければと存じます。お忙しい中かと存じますが、どうぞよろしくお願いいたします。

島田市・川根本町の昨今の取り巻く環境について

—それではまず島田市・川根本町の昨今の取り巻く環境についてお伺いさせていただきます。まずは染谷市長、島田市は本年度（5月5日）、市制10周年を迎えたわけですが、この10年の歩みをどう振り返っておられますか？

染谷市長：平成17年の旧島田市、旧金谷町との合併、更に平成20年の旧川根

町との合併、その間様々な出来事を経て、本年5月5日、島田市は記念すべき10歳の誕生日を迎えることができました。

この間に「富士山静岡空港」が開港、更には「新東名高速道路島田金谷IC」が供用開始し、島田市が県内有数の交通の要衝としてのその重要性が増すと共に、「人・モノ・情報」が行き交う交流拠点として、島田市が更に発展する大いなるチャンスと捉えています。

また、昨年オープンした「川根温泉ホテル」も大人気で、川根地区の地域産業の振興、雇用の創出及び定住化の促進の他、大井川流域圏における観光交流拠点として大きな役割を担うものとなっています。

また、空港開港記念として開催した「しまだ大井川マラソンinリパティ」は、今や全国的に高い評価を受けるイベントへと成長し、今年度も9400人近い申し込みがあったところです。

一方、この10年で状況が大きく変化

し、多種多様となった市民ニーズへの速やかな対応が求められていると共に、浜岡原発やリニア中央新幹線、更に大井川流域住民の最後の砦となる新病院建設への対応など、市民の安全・安心の確保を最優先に取り組むべき課題があることから、10年の節目を迎えるにあたって、喜びと同時に改めて気を引き締めたところであります。

一同じく島田市青年会議所も50周年というアニバーサリーイヤーを迎えたわけですが、本年度50周年を迎えるに当たりどんな想いで島田青年会議所の運動を行っておりますか？

磯田理事長：戦後70年、先の大戦が終結してわずか4年の1949年に東京でJCが立ち上げられました。この島田でも我々の先輩諸兄が島田を良くしたいという想いの元、1966年5月20日に「JCの若さで作ろう明るい未来」というスローガンのもと立ち上げていただきました。この50周年を迎えるにあたって、脈々と受け継がれてきた先輩諸兄の思いをしっかりと背負わなければならないと考えております。

本年度の島田青年会議所のスローガンは、“伝承～古き良き時代を想い、新たな時代を築く”と書かせていただいています。このスローガンを軸に“明るい豊かな社会の実現”に向けて活動しています。“明るい豊かな社会の実現”とは、恒久的な世界平和と“資本主義経済の正しい発展”という2本柱が設定されており、そこから島田青年会議所をはじめとする全国各地の青年会議所が、地域の活動に合わせ様々な運動を発信しています。

本年度、50周年を迎えるにあたり、脈々と受け継がれてきた先輩諸兄の想いを胸に抱き、愛する地域、家族、仲間達のため、しっかりと前を見つめ更なる高みを目指し、青年らしく堂々と臆することなくメンバー一丸となり進んでいく必要があると考えます。JCは、40歳までという限られた時間の中で活動しなければなりません。先輩諸兄がそう

だった様に、大きな責任を自覚し、未来のまちのための推進力となるべく、今日の犠牲を払うことを厭わず、常に進歩への挑戦を行い、より良き明日を目指して、我々の住むこのまちを夢と希望に満ち溢れたまちにしていこう気概をもって運動を行っております。

一磯田理事長ありがとうございます。続いて、鈴木町長にお伺いさせていただきます。

就任から17年にわたりご尽力され、川根本町も大きく変化をされてきたかと思えます。記憶に新しいのは、やはり2014年6月に正式登録承認された南アルプスユネスコエコパークだと思えます。ユネスコエコパークを通じて、自然環境への取り組み、観光への期待、学術研究や教育など様々な分野で次世代に期待が持てる取組みだと思えます。川根本町がもつ本来のポテンシャルがユネスコエコパークに認定され、川根本町がもつ素晴らしい環境や資源など明確になったわけですが、改めて川根本町についてお話をいただけますか？



鈴木町長：昭和52年、私が34歳で旧本川根町の町議会議員に当選してから40年近く経ちます。社会環境は大きく変わったと感じておりますが、「この町を良くしよう、町民の皆さんのために一生懸命やっついていこう」という私自身の気持ちは何ひとつ変わっていません。当時から自分が住む町、生まれた町に誇り

が持てるようなことを見つけるべきだと感じていました。近年過疎化・高齢化といわれておりますが、住んでいる人が自分の街は素晴らしい街だと誇りをもってさえいれば、人口の多い少ないということは関係ないと考えております。

もう一つ大切なことはこれまで長い間、歴史・伝統・文化を守ってきた先人の皆さんがいるということ。そのことに思いを馳せない限りは、発展はないと考えています。

では川根本町で誇れるものは何か、原生自然環境保全地域というものが川根本町の奥にあります。それがコアとなり、今回、新たにユネスコエコパークへ登録されました。この原生自然環境保全地域というものは全国に5カ所しかなく、また斧やのこぎりが入っていない地域があるのは本州ではこの地域が唯一の場所になります。ですから当然将来的にはここは世界自然遺産に登録されるべきだと発信しております。

今は関係市町村が一体となって今後どうしていくかを検討しています。関係市町村が連携し、大井川流域も一体となって行政を進めていく事が大事だと思っております。

ですからこれからの川根本町の基本的なスタンスは、ユネスコエコパークが中軸となって自然環境と共生していくということが主になります。

一磯田理事長、今のお話を伺っていかがでしょうか？

磯田理事長：ユネスコエコパークのお話を伺って、3県に跨っていろいろな市町と関わっていく事は大井川流域の地域発展につながっていくと思いますし、これからは我々島田青年会議所も我々の活動地域だけではなくいろいろな場所から発信し合い、切磋琢磨しながら発展していくべきだと思います。他の市町との連携から起こる企画が町おこしにも繋がっていくかもしれませんし、大きな可能性を持っていることだと思っています。今後は、今まで以上に手を取り合っ

頑張っていかなければならないと感じました。島田青年会議所としても、そういう意識を率先して持ち、少しでも地域貢献ができる人財となれるように活動していきます。



一地域の本当の魅力というものは住んでいる我々にしか解らないものかもしれません。中央行政だけではなく、地方と住民が協力し、発信していかなければならないというお話をいただきました。ありがとうございます。

子供たちの教育について

一私たち青年会議所は協議制をとっております。そして一年ごとに組織が変わるという、単年度制をとっています。何の目的のために活動を行うのか、基本の部分では変わりませんが、手法の部分は、その年ごとに変わります。さきほど、鈴木町長より、南アルプスエコパークのお話をいただきましたが、本年度、島田青年会議所も創立50周年記念事業を接叡湖にて小学4～6年生を対象に子供たちの道徳心などを育む合宿を行う予定であります。

磯田理事長、本年度の青少年事業のテーマのひとつに道徳心をテーマにあげられていますがどういった想いで道徳心の重要性を感じていらっしゃるのでしょうか？

磯田理事長：時代背景の変化に伴っ

て、子ども達を取り巻く環境も明らかに変わってきています。私の時代は悪いことをすれば近所のおじさんやおばさんが叱ってくれました。しかし現代は親が子供を叱ることも場合によっては虐待と捉えられてしまう。そんな環境で育つ子供は無意識に閉塞感にさいなまれていと感じます。やはり人と人との繋がりを知らずに育っているのではないのでしょうか。またその繋がりが無いがゆえに当たり前のことを教えてもらっていないのではないかと感じます。本来であればあって当然の「思いやりの心」「感謝の心」「物を大切にすること」等の「道徳心」は、時代が進み暮らしが豊かになるほど薄れているのではないのでしょうか。子供たちをもっとのびのびした環境に置ければ、もっと広い心・広がった発想を持ってもらえる。その心と発想を大人まで持っていく事ができれば、きっとこの地域をよくしてくれる人財になってくれると思いますし、そうなってほしいと願っています。私たち島田青年会議所は当たり前のことは当たり前のこととして子供たちに伝え、我々も、もう一度「日本人の心」を考え、真摯に学ぶと同時に事業を通じて実践し、次世代へと継承していかなくてはならないと考えます。そして「道徳心」「郷土愛」と「将来への夢」を持った青少年を一人でも多く育て、我々の住暮らし地域の発展を共に考える人財を創りたいと考えます。

一今の磯田理事長のお話は、島田市教育方針からも非常に共通する部分が多いと感じました。島田市教育方針では、現在の子どもたちの置かれている環境は、物に支配される消費主流の生活であり、人間性が弱くなり無機質化が進行した機械文明社会である。その上で、基本方針の根幹に「心を育てる」ことを位置づけています。

やはり染谷市長の目からも、教育の基盤にはこころの教育（道徳心）が重要視されているという事でしょうか？

染谷市長：島田の教育は「個に焦点を当てた教育」と「豊かな心を育む」の2

本の柱があります。基礎学力を土台として、その上に豊かな心を築くことが大事です。「事を為すは人にあり」このまちを元気にするにも未来を創るにも教育への投資は大事なことです。現在も市の職員を育て、地域に人材を育てることに取り組んでいます。すぐには目には見えないことですが、今どうしてもやらなければいけないことが人づくりだと思っています。理事長がおっしゃったように「思いやりの心」「感謝の心」「物を大切にすること」を育てるために教育の現場では様々なことを行っています。近年は全国的に、成功体験だけを与えてほめて育てる方針が広まっています。しかしその結果「耐える心」「試練を乗り越える精神力」を育てるという面で、果たして十分であったか疑問を持っています。やはり教育には厳しさも必要です。時にはきちっとしたしつけも必要ですし、代々親から伝えられてきたこと、地域に伝えられてきたことを教えることも必要です。そういう意味では子供と一緒に親も成長していかなければいけません。島田青年会議所の「道徳心」を育てるという方針は、島田市の教育の根幹と相重なるものだと感じながらお話を伺っていました。

一染谷市長ありがとうございます。教育に関して鈴木町長いかがでしょうか？

鈴木町長：川根本町は島田市と少し環境が違います。若い方が川根本町の住むにあたって障害になるのが教育の提供です。小学校・中学校・高校はすべて連携して対応していますが、町民からは小規模校の課題をよく指摘されます。しかし今ある小学校4校を統合しても小規模校は小規模校です。そこで現在は小規模校の利点を生かして生徒ひとり一人に目が行き届く教育が行われています。確かにその分お金はかかりますが、本来将来の宝である人を一人育てるためにはお金がかかるものです。お金をかけてでも人財を育てるべきだという方針で進んでいます。また、注目されている教育として、大井

川の水源がどうなっているかという教育、どんな努力をしているかという教育があります。下流の子供たちを含めて大人たちにも水源のことを理解していただくことも将来的に大事だと思っています。その為には上流と下流の連携が必要となっています。

もう一つは、染谷市長・磯田理事長がおっしゃったのと同じく親の教育です。教育環境が良くないといわれる親も多いですが、人口が少ないが故に各所にすぐに話が通せるという点では、子供の教育環境としては良い事です。地域ぐるみで子供を育てられるという事です。今現在それを実践しているところです。

それと、川根高校にはカヌー部があります。その部活に入るために高校に入ってくる生徒もいます。そういった地域に根ざした特色のある教育を行うことで、学力だけではなく自分の学校に誇りを持てるようになります。そういった環境を行政でも整備して対応する必要があります。地域・学校・行政が一緒になって子供の教育の為に活動していく事が必要です。

一小規模学区だからこそこできる政策を進めているということですね。磯田理事長、今のお二人のお話を伺って改めていかがでしょうか？

磯田理事長：昔にくらべて地域のことに関心を持つ人が少なくなっていると感じます。そういったことも踏まえて我々も活動していかなければいけません。改めて、子どもたちも含めた人と人との繋がり、絆を感じられる社会の実現に繋がりたいです。そしてこの混迷する社会だからこそ、子どもたちには強く、逞しく、“生きぬく力”を持ってもらいたいと思います。

まちづくりについて

一さきほど教育について磯田理事長より、絆、繋がりなどのお話をいただきました。私たちの地域へのまちづくり活動も、JCだからできる“絆や繋がり”を軸とした、まちづくり事業を開催する事も

あったかだと思います。まちづくりのプロである行政とは少し違う部分もあるかと思いますが、大きな意味で「我々の活動地域のまちが良くなって欲しい」というまちへの想いは変わらないと思います。磯田理事長、まちづくりに関する考えや、これまでのまちづくり事業などを併せ、お聞かせください。

磯田理事長：絆というキーワードがありました。昨今、核家族化が進むなか、隣同士に住む者が互いの顔はおろか声も聞いたことが無いというのが当たり前となってきたように見受けられます。自分や家族以外、関係ないことは一切しない、下手に顔をせせば面倒である。このような考え方が、地域に広がりコミュニティの弱体化につながっていると感じています。

JCのまちづくりは、いくつかのアプローチがありますが、キーワードにあげられるのは市民意識の変革の実現というものがあげられると思います。一つ目は、こどもたちの教育に関連するところの「ひとづくり」、二つ目に地域コミュニティの活性化、三つ目に歴史・文化の継承・最後に地域振興があげられます。

これまでの島田青年会議所のまちづくり事業は、発足当時の交通安全の協力奉仕からはじまり、街路灯設置討論会、市民と考える大井川の流域の将来についての勉強会、島田大橋架橋推進運動として人間架橋、島田髷祭の推進やバラのまちづくり運動などを行ってきました。

この島田市・川根本町には様々な歴史・伝統・文化があると考えています。文化財になってなくても歴史があるものもたくさんあります。そういったものを地域住民みんなが把握できれば地域の新たな魅力も感じるでしょうし、この地域を離れたいとは思わないでしょう。そんなことを事業や催しを通して伝えていけたらと思いますし、発信し続けることによって何かの形となって残っていくのだと思います。それが明るい豊かな社会に繋がっていくのだと考えています。

地域の本当の魅力はそこに住んでいる人たちが一番よく知っています。その魅

力を当たり前のものだと放っておくのではなく、外に伝えていく事によって、そのまちに人が集まると考えます。

—染谷市長が考えるまちづくりとは、いかがでしょうか？



染谷市長：地域の魅力は住む人にしかわからない、まさにその通りで、その魅力をわがまちの誇りとして住民一人ひとりが語れるようになれば、まちは必ず元気になります。ではその仕掛けをどう作るか。

島田市では本年「しまだ市民遺産」というものを認定しようと思っています。文化財ではないけど地域との関わりの深いものや長い間愛されているもの、そういったものを島田市の宝に認定し、それを市民の誇りに繋げていければと考えています。島田市内には、身近過ぎて気が付かない宝がたくさんあります。それを市外の方からもご意見をいただき評価してもらいます。島田市に元々ある宝に目を向け自分のまちに誇りを持てたら。地域を愛する気持ちに気が付いて何らかの行動を起こすことはとても大事だと思いますし、そういった意味では島田青年会議所の皆さんの今後の活躍には大きな期待をしています。

—鈴木町長が考えるまちづくりとは、いかがでしょうか？

鈴木町長：一番大事なものは、住んでいる

人が誇りを持てるまちづくりです。それとまちの応援団がどれだけいるか。支援や手伝いをしてくれる他のまちや団体をいかに作るかだと感じています。

その中で自分のまちが素晴らしいと思っている人がどのくらいいるかが重要になります。川根本町でもまちに誇りを持つ町民の数は、とすると半分くらいかもしれません。そのくらいの意識の中では、まちづくりは難しいということがあります。ですから行政としてはまちのいいところを知らせる必要があります。大井川鐵道のアパート式も日本唯一のものとして、町民とサポーターにも知ってもらいたいものの一つです。

もう一つは、役場の職員に規律・礼節・時間厳守の徹底と町民と一体となれということを言っています。たとえば伝統芸能が続けられないところが増えている中で、役所の職員がそこに出向き手伝いながら町民と一体となって地域の為に活動していく事を実践しているところ です。

— 今のお二人のお話を伺って「住んでいる人たちの誇り」「対外的な発信」という共通点がありました。また「大井川流域としてのまちづくり」という共通の課題があげられました。磯田理事長は今のお話を伺い、いかがでしょうか。

磯田理事長：規律・礼節・時間厳守は大事だと考えます。当たり前なのが当たり前のようにできない時代になっている中で、うまく子供たちに伝えていく事もまちづくりなのだと思います。発信という点についても、やはり誇りを持つことで自ずと発信したくなるものです。鈴木町長のおっしゃったまちのサポーター制度というものもまちのPRに繋がっていくのだらうと思いました。我々団体に出来ることはまだまだあるのだと感じました。

鈴木町長：もう一つ大事なものは、人を認めるという姿勢です。川根本町ではまちにいる素晴らしい経験を持った方を認定しようと考えています。

— 市民の声を聞く体制を作ることによって、よりリアリティーの高いまちづくりに繋がっていくのだと理解させていただきました。

今後の市町の展望について

— 今後の島田市や川根本町の展望について広く、染谷市長と鈴木町長にお話しいただきたいと思います。染谷市長からお願いします。

染谷市長：課題をならべるのは簡単ですが、課題があるからこそ、やりがいがあると思っています。だからこそ今生きている我々がやれることがたくさんあるわけです。地域のおもしろいことを見つけていく。例えば市の職員が仕事だから仕方なくやるのか、おもしろいと思って地域の創生に携わるのかですごく大きな差が出てくると思っています。地域の元気を創るのは人です。それはやり始めてすぐに成果が出るものではありません。しかし今やらなければこの先もずっとやれないでしょう。そういった意味では島田青年会議所はこの先もずっとこのまちの中心であり続ける存在ですから、行政と連携して地域の元気を創っていったきたいと思っています。

また島田市は地域資源に恵まれたまちです。その魅力を踏まえて、逆転の発想やとんでもない提案をする人間が現れるかどうか勝負どころだと思っています。時代は常に変動しています。その中で行政は青年会議所さんをはじめとした民間の皆さんと連携して時代に合った取り組みをしていく必要があります。その為に議論をすることで新しいものが生み出されていくと思っています。今日のキーワードでもある大井川流域の連携という点ですが、昔から大井川流域は一体でした。その流域の一体感を様々な事業の中でどう生かしていくか考えながら、川根本町さんと組んで新たなことをしていきたいと思っています。

す。大井川流域が持つ恵まれた水資源・気候・優れた交通結節点等の資源を最大限生かす為には効果的な連携・連動、新たな魅力の創出が大事になってきます。そしてその資源を組み合わせた新産業の創出や観光プランの開発など、地方創生の動きに合わせて取り組んでいきます。

— 鈴木町長いかがでしょうか？

鈴木町長：大井川流域の総合計画はほぼ終わったと考えています。今後大井川流域開発をどのように進めていくかという課題には、行政と地方自治体がどう関わるかという議論が必ず出てきますし、過疎化が進んでいけば開発が進んでも管理すらできないということもあります。

また現在、主な産業の林業と茶業が厳しい状況の中で、なかなか特効薬が見つかりません。しかし、大井川鐵道のトーマス機関車のような誰も思いつかなかった発想をすれば新しい産業に繋がるはずで。島田青年会議所をはじめとした異業種の青年が集まり交流することで、是非いろいろな新しい商品や事業を創っていったきたいです。そしてそれがまちづくりの急速な展開に繋がっていくのではないかと思います。

— 磯田理事長は今のお二人のお話を伺っていかがでしょうか。

磯田理事長：染谷市長がおっしゃっていましたが、課題があれば必ずその反対がある、課題があるほどやりがいがある、まさにその通りだと思います。島田市で言いますと、シャッター街の問題がありますが、一度シャッター街の方たちと話す機会も持つべきだろうと感じました。

また、職員の意識の持ちようで大きな力を発揮できるというお話も、市町の良くなった状態を想像しながら、やりたいという気持ちでまちづくりに繋げていきたいと思いました。

そして、異業種の交流の場というお話に

ついては、我々青年会議所はまさに異業種の集まりです。青年らしい柔軟な発想を生かし、市町との交流の場に更に参加させていただきたいと思えます。

ここから10年20年、市も町も良くなっていくことを想像して活動していきたいと思えます。

次代の島田青年会議所に期待する事

一長時間に渡り、ありがとうございました。最後に、本年度の50周年の島田青年会議所が次代に踏み出す為、そしてこれから、入会してくる未来のJCメンバー達へ、これから行政として島田青年会議所に期待する事、叱咤激励などをいただければと存じますがいかがでしょうか？

鈴木町長：やはり発想が豊かなのは若い世代です。その若い世代にもっと上の世代が応援団としてつくことで物事が上手く進むと思います。年配者のいうことをそのまま聞くのではなく、自分たち若い世代の柔軟な発想が世界を変えんだというくらいのつもりで、世代間でも協力してやっていく事が大切です。そういう意味で島田青年会議所さんには大いに頑張ってもらいたいです。

一染谷市長いかがでしょうか？

染谷市長：島田青年会議所さんの人財育成能力ってすごいなと感心させていただきました。ここに入って切磋琢磨しながら個々が成長することで、地域にかけがえのない人材が生まれるのだと思う。それが島田青年会議所さんの50年の歴史だと感じました。鈴木町長から世界を変える若者の発想というお話がありましたが、発想だけではなく感性が豊かなのも若い世代です。新たなまちを創るためには皆さんのその発想や感性がどうしても必要です。今後、お互いに雑談をする機会をもっともっと持ちたいと感じました。

それがお互いの信頼を生み、そこから思わぬヒントが生まれるのではないかと期待しています。これからも島田青年会議所をはじめ、また他の団体とも連携してこのまちを良くしていきたいと思えます。島田青年会議所の今後50年の更なる発展をお祈りいたします。

一鈴木町長、染谷市長から激励のお言葉をいただきました。磯田理事長、島田青年会議所代表して最後に一言よろしく願います。

磯田理事長：本日はありがとうございました。我々がまちの為に活動していくにあたり、市町のことをもっとよく知っていかなければいけないと感じました。知っているつもりでも行政の中のほんの一部しか知らないのだと思います。そんな中で行政についても、市民についてもしっかりと勉強していかなければいけないと感じました。また、豊かな発想と感性という点でも、もっともっと働かせていかなければいけないと思えますし、普段事業等で子ども達と触れ合う中で、子ども達の育成をしながら、その中からいただく発想もあると思えます。我々の発想が世界を変えないまでも、この島田、静岡県、そして日本を変えていきたいという意気込みで進んで

いきたいです。市や町との会談も出来るだけ多く行なっていきたいと思えますし、もし声をかけさせていただいたときには是非よろしく願います。

新たな50年の一歩がこれから始まります。我々団体は単年度制をとってはおりますが、まちづくりに関しては中長期ビジョンが必要ではないかと感じていました。これからも連携を密に取らせていただきながらがんばっていきたくております。本日は本当にお忙しい中ありがとうございました。

2015年7月2日(木)
大井神社 宮美殿 たちばなの間にて
コーディネーター 齋藤直哉





2015年度まちづくり委員会 委員長 松永孝廣 君
2012年度まちづくり委員会 委員長 伊藤裕一郎 先輩
2008年度社会開発委員会 委員長 天王沢雄之 先輩
2011年度社会開発委員会 委員長 新間太郎 先輩
2013年度社会開発委員会 委員長 片川大輝 君

2009年度社会開発委員会 委員長 水野貴章 先輩
2006年度まちづくり委員会 委員長 大石洋一 先輩
2006年度地域活性化委員長 委員長 大塚邦昭 先輩
2005年度広域まちづくり委員会 委員長 大池盛一郎 先輩
2007年度まちづくり委員会 委員長 白坂成吾 君
2010年度まちづくり委員会 委員長 石川晋太郎 先輩

先輩方が発信した まちづくり事業

一本年度、我々一般社団法人島田青年会議所（以下、島田青年会議所）は創立50周年を迎えさせていただきます。そこで、記念誌の特別企画頁にて歴代（直近10年）のまちづくり委員長をお招きし、歴代委員長サミットを企画させていただきました。本紙特別頁は、現役JCメンバーや未来のJCメンバーに、先輩方のお考えを知る素晴らしい機会になると存じます。この頁を読む事により、自身が選んだJCという選択に誇りを持ち、島田市・川根本町をはじめとする活動エリアでの更なる青年の運動の糧となるような記念誌を製作させていただければと存じます。お忙しい中かと存じますが、どうぞよろしくお願いいたします。

一2005年に島田市と金谷町が新設合併し新製の島田市が発足、その

後2008年には榛原郡川根町を編入しました。川根本町においても2005年に、中川根町と本川根町が合併し新たな町として発足しました。交通インフラにおいては、2009年に富士山静岡空港が開港し、2012年には新東名高速道路が開通しました。川根本町の素晴らしい自然は、2014年にユネスコエコパークに認定されました。この10年、我々の住み暮らす地域は、大きな変革の期間となりました。そこで、直近10年の歴代まちづくり委員長に、この10年、どのような想いで事業を発信してきたか順にお伺いさせていただきたいと思っています。まずは、2005年度は大池先輩がまちづくり委員会委員長でした。合併直後でしたが具体的な事業の内容はどのようなものだったのでしょうか？

大池盛一郎先輩：当時を振り返ると、とても懐かしい感じがします。合併した事もあり「広域まちづくり」をテー

マに活動していました。「広域」を視野に入れながらのまちづくりという理事長の想いから、この委員会名になったとは思いますが。地域活性化事業及び投棄ゴミ解決法事業を企画・運営し、まちづくり島田、家庭倫理の会、島田環境ひろばをはじめ、様々な団体とのネットワークを構築し、投棄ゴミ問題の解決法を検討する事業を行いました。家庭倫理の会とは以前からクリーン作戦で関わりはありましたが、この事業のために何度も話し合い、結びつきは強くなったと思います。

やるのはJCしかない

一大池先輩ありがとうございます。2006年ですが、この年は、まちづくり委員会と地域活性化委員会がありました。まず、大石洋一先輩のまちづくり委員会についてお聞かせください。



大石洋一先輩：我々活動地域の中で活躍されているNPO団体や市民団体の方をお招きし、今まで無かった繋がりを持てるような事業を実施しました。自分はJCばかりやっていて、どこの団体がどんな活動をしているのか知らなかったの、色々と調べていくうちに、色々な団体が様々なジャンルでまちづくりをしているのだと知りました。当時、理事長からいただいていた担いは「合併地域が一体感を持てるような事業の企画・運営」でした。それを自分なりに解釈して実施したのがこの事業でした。まちづくりをしている団体が、どこか一つでも繋がるのが出来たらどれだけ島田が変わっていくのだろうという想いがありました。NPO団体や市民団体が、「みなさん集まって下さい」というのでは集まらない。じゃあ、市が集めたら「VS市町」の構図が出来てしまうので話が纏まらない。だったら纏めるのはJCしかない！そんな想いをもって事業を企画立案しました。

ひたすらに勉強した一年間

一合併直後ということで広域に繋がっていくという最初の段階でそういった意味では素晴らしいきっかけになったのだと思います。続いて大塚先輩は、地域活性化委員長を歴任されました。

大塚邦昭先輩：私の担当した委員会は

少し特殊な委員会でした。当時、市町村合併が佳境の中、「住民意識調査」の実施、報告会を行いました。当然、何の事業をやろうという悩みはなく、ひたすら勉強した1年間でした。ひとつアンケート（住民意識調査）をして、ちょっと変わった事というか嬉しかった事がありまして、アンケートは島田市だけではなく藤枝市や榛原と色々な所に配布してあって結果を静岡新聞に掲載したところ「島田市はどこと合併したらよいのでしょうか？」の質問に関して当時の岡部町の住民から「岡部町は静岡市と合併するのだから余分なアンケートはいらない」と怒って電話がかかってきました。島田JCがやった事業に対して岡部町の方が見ていてくれていると実感できて嬉しかったです。そういう意味でも広域を感じさせてくれた事業でした。その他に、静岡空港・新幹線新駅・市町村合併の各題材に関してプレゼンし、その後、裁判形式で採決とるといった事業も行いました。

一大石先輩・大塚先輩ありがとうございます。2007年ですが、この年は、この地域の財産を適材適所に活かした事業の企画・運営という事業をおこないました。白坂君お願いします。

白坂成吾君：この年は6月に、空港を含む交通インフラの状況と、この地域の抱えている不安要素を考える例会を開催させていただきました。様々な手段の中から「観光を活かしたまちづくり」をメンバーに進言させていただき、委員会で作成した資料を使って小旅行を企画発表してもらいました。この例会を通じ、この地域の宝を再認識し、他の地域に伝える意識を高めてもらう事により「観光を活かしたまちづくり」の一步をメンバーで踏み出す事ができました。

一2008年は、川根町が島田市に編入した年になります。当時、社会開発委員長の天王沢先輩は「地域活性化事業の企画・運営」の事業を行ったかと

思います。翌年が静岡空港開港ということで、空港開港を絡めた紙飛行機作りを通じ、地域の方々との交流ということをメインにと考えての事業だったと思います。当時を振り返りいかがでしょうか？



人と人の絆を 紙ヒコーキに乗せて

天王沢雄之先輩：当時、まちづくり系の事業に関わることが多く、今までの事業を僕たちと同じ年代の方々と行いたいという理事長の思いもあったので、同年代に呼びかけをしてどのくらいの人数が集まるか、自分たちの事業にどれだけ賛同してくれるのかに焦点をしばってこの事業に臨みました。ご飯を用意して道具や材料を用意すれば（ばらまきをやってみたら）人は集まるといった結論だったのですが、実際にこちらの思いが伝わっているかということとはまた別でした。一過性なものでJCが行う試みとしては弱かったかなと感じます。

ただ、この経験があったから「絆祭り」とか、そういう方向に対し色々と考え方は変わったかなと感じます。JCが地元でやっていくには、地道な作業・地道な活動をしていくのが、一番後世に残ると思います。ゴミ拾いだったり、私の代で無くなりましたが4LOMまちづくり会議だったりをとにかく行っ

ていって地域に発信する。地域美化活動を地道に行う団体といったほうが後世に残るかなと感じました。この事業は1発花火的な事業で、花火を飛ばすこともできなかった。検証をするには良かった事業だとは思いますが、自分の中の「今後のJC活動」に対して考えが変わった事業でもあります。

ー2009年は水野先輩がまちづくりの委員長でした。この年富士山静岡空港が開港しました。10月に地域発見例会ということで「島田だいすき検定」を実施しました。



水野貴章先輩：「ご当地検定」がこの当時ブームになっていて、自分たちが住んでいる地域を本当に理解できているのかということも含めて昔からの地域性や方言や歴史など面白い部分も含めて検定という形でやらせていただきました。その後、何年かHPで「島田大好き検定」が出来るようになっていました。例会で実際JCメンバーが検定をした時は、知っている様で知らないこともあり、面白く検定が出来たと記憶しています。しかし、メンバー以外の住民の方たちに、それが知らしめられたかという、もしかしたら一部だったのかもしれませんが、クイズ的な要素もあったり、先程言ったように知らない部分もあったりして楽しんでやってもらえたかなと思います。また、

私が委員長を務めた年は、島田市長選挙公開討論会と衆議院議員選挙公開討論会も行いました。当日は、一般来場者約800人の人が来場いただき、その9割近くの方にアンケート回答をいただきました。また、地元のケーブルTV会社のご協力により、この討論会を完全ノーカット放送していただきました。都合により来場できなかった市民の方にも、各候補予定者の考え方や振る舞い方を知っていただけたことも大変有意義でした。

ー2010年は石川先輩が5月から10月までの長い期間で「稲作・畑作を通じてのまちづくり」という事業だったと思います。

石川晋太郎先輩：グローバル社会も発達し、日本も外国人の数も多くなってきていて、それだからとは言わないけれども犯罪も凶悪化してきました。また、この地域柄いつ災害が起きてもおかしくない状況の中で地域のコミュニケーションがだんだん希薄になっていると感じ企画しました。当時、大石聡先輩が担当副理事長で、天王沢委員長の紙飛行機の時に「こういう事業良いよね」「コミュニケーション的な事業が良いよね」と話したことがあって、コミュニケーションを軸にした事業を実施しました。事業では、5月から10月、約5ヶ月間に渡って、稲作・畑作といった農業を中心に事業を行いました。全6回に及ぶ事業となりましたが、回数を重ねただけのことはあったと思います。子どもというのも1つのテーマになっていて、先程も良いましたが、社会が変わってくる中でオンタイムにいる子供たちが、対極にある農業や地域のコミュニケーションの中でまた違った感性を身につけてもらえるのではないかと考えました。同じ地域・同じ小学校でこういった事業はありますが、島田市内の色々な地域から集まって事業を行うことは珍しいと思います。子供たちにとっても親たちにとってもとても良い機会だったと感じます。



ー2011年は新聞先輩がまちづくりの委員長を務められました。地域発展に寄与するまちづくり事業の企画・運営「7月まちづくり例会」と言うことで地域医療をテーマとしたシンポジウム開催とあります。今現在も島田市民病院を建て替える等、地域医療問題はありますが、このシンポジウムで話題にされた内容はどんなものでしたか？



新聞太郎先輩：当日は多くの方に、ご来場いただきました。当時、このままでは、我々の地域も医師不足になるという懸念から、「みんなで考える地域医療シンポジウム」を開催いたしました。来場者の方々に地域医療の現状を知っていただき、患者側の意識改善と医療従事者の方へ感謝の気持ちを持つきっかけを創ることが

出来たと思います。報道等で見聞きしている情報と実際に地域医療に携わっている人たちの生の声を聞くのでは全く違うと思うので、皆さんに地域医療の問題を考える例会になったと思います。

本当はゆるキャラをやりたいかった

—2012年のまちづくりの委員長は、伊藤先輩が担当されました。この年はブロック大会の主管の年で、それに関わり合いのある例会が開催されました。「祭りから学ぶまちづくり」をテーマとした例会を開催し、9月の会員大会例会の企画・運営につなげていくと行ったと思うのですが、とても苦労されたと思うのですが、どうだったのでしょうか？



伊藤裕一郎先輩：最初の段階では「ゆるキャラ」をやりたいかったのですが、様々な事情で軌道修正し、「絆祭り」に繋がりのある事業を企画・運営させていただきました。正直、準備や運営に割く時間が凄くて、何をやっているかが終わってからようやく分かったような状況でした。絆祭りでは、当時の市長曰く「茶まつりは川を越えてやったことが無い」後から聞くと結構面白いことを実際はやってたと。でも、個人的に反省をすると、次の世代に何か伝えられたかなと言う所で、終わっ

たら全てが終わりじゃなく、何か繋げるものを残したかった事が心残りではあります。

—2013年は片川大輝君の社会開発委員会委員長を努めました。地域住民に対し社会の関心を喚起するための事業の企画・運営ということで2006年の大塚先輩以来の「島田市民意識調査アンケート」を実施しました。当時を振り返りいかがでしょうか？



片川大輝君：前年度の伊藤先輩の「絆祭り」で、JCの注目度がUPしている中で、大塚先輩のアンケートを参考にさせていただき、市長選を前に市民アンケートを実施しました。島田市民がどういった方向に関心が向いているのかなどを調べ、アンケート結果を島田市長選挙の公開討論会と絡めて実施しました。アンケートも大塚先輩が行ったものよりも内容的なものは簡単で「今関心のある問題は？」、「今後の島田市にとって特に重要だと思う項目は？」、「島田市を良くするためにあなたはどんなことをしたいですか？」、「市民自らどう動きたいと思っているか？」、「島田市の不便・不憫を感じていることは？」とか。これも公開討論会が頭にあった上での質問の内容ではあったのですが、それをアンケートでとって集計した結果を「先駆」という形で島田市内へ新聞折り込みで配布しました。この取り組みで島田青年会議

所の活動を市民に発信すると同時に市長選挙の公開討論会のPRという意味で実施させていただきました。

—2014年は「7月まちづくり例会」と言うことで島田発見市を実施しました。サンワフィールドさんで地域の出店者や伝統芸能の演者さんや藤枝MYFCの方々にご協力いただき開催したわけですが、本日委員長が公務の為欠席のため当時委員だった水野先輩にどんな事業だったか伺いたいと思います。

水野貴章先輩：JCメンバー一人ひとりが「地域の宣伝マン・宣伝ウーマン」となって市町をPRする事業ということで開催しました。最初、風呂敷を大きく広げたものですからフットサルのイベントにワールドカップ位の名前をつけようとしていました。まちづくりでやるからには、静岡空港を利活用し日本全国もしくは海外からもフットサルの集客をしてみようというところから始まりました。委員会等を重ね、現実と希望との中で段々事業が纏まっていき、最終的にはフットサルをやるだけではなく、カタカタづくりをしたり、赤石太鼓さんに来ていただいたり、20店程の出店ブースの方々に参加していただきました。フットサルをしに来ている子供達や親御さんだけではなく、地域の方々にも来てもらうように実施しました。ただ、会場が奥まった場所だったのでフットサル参加者以外のお客様を、どれだけ取り込めたかは解らない。それほど数ではなかったように思います。ただ、来てもらった方々には有意義な時間となったと認識しております。今日は欠席しておりますが高橋委員長がルクレMYFCの女子選手とプレーが出来るということで集客を募った所もあったのでそういった部分でも有意義だったと思います。この事業通じてだけという訳ではありませんが、出店ブースの方達とも色々な繋がりが出来たと思います。これから先にJCの事業でそう言った方達とも交流が深められたかと思っています。

JC という立場での まちづくり事業の役割

—この10年の、まちづくり事業を振り返っていただきました。少しずつですが、当時の想いが蘇ってきたように感じます。振り返ってみていかがでしょうか？

天王沢雄之先輩：以前は、JCはJCだけで発案して考察して終わらせていた様な気がするのですが、時代が進むにつれ段々とJCだけでなく他の団体とコラボレーションして活動していくといった流れになってきたように思います。

—当時は、空港はまだ出来てない、合併も完全ではないという時期で手探りだった時期から、現在は整備が進んでいる交通インフラなどを利活用し、我々の活動地域の魅力をどのように発信していこうか？という活動が目立ってきた感じがします。先程、天王沢先輩からもありましたが、この10年でまちづくりに対するJCの役割と言うものが変わってきたと思います。それまではJC単独で活動していたものが、色々な団体や地域の方々と関わり、変化してきたと思います。

大石洋一先輩：天王沢君が言った様にJCとしての関わり方が変わって

きたという話を考えると、まちづくり事業に関しては時代背景を考慮し、考えていく必要があると感じました。例えば景気が良い時のまちづくりはどのようなまちづくりになるのか？逆に景気が悪い時のまちづくりはどういうまちづくりか？単独でやっていた所から単独でない、コラボレーションが流行になってきましたよと言う時に、「何でそれが流行になったのか？」を考えなくてはならない。人間の心理として、もし仮に単独で効果が出ていたならコラボはしないはず。「JCだけで効果が出ましたよ」「すごいまちづくり成功したよね」だったら単独でやり続けると思います。効果が出てないから「コラボしたら何か変わるかもしれない」と言う話が出てきたからだだと思います。そもそも最終的にまちづくりの答えは出ていないのかもしれない。出ていないからこそ、あの手この手で色々なことをやっているのだと思います。

島田 JC としての VISION が必要

大石洋一先輩：JCのまちづくりとして、何かをしないといけない。JCを企業に置き換えた時に、その年その年で考えるのではなくて、何ヶ年計画をたてて利益を出すことを目的とするのが企業だと思う。周年に

は同じように何ヶ年計画がつきもの。大きな方向性を持って、効果をこの位出していこうという道筋をたてないとまず難しい。全国的にまちづくり事業はほぼ失敗して成功している所は本当に少ない。継続事業をしろと言う話ではなくて、ただただ方向性を定める必要がある。島田JCではここ10年ではこれを目指していますという事だけはブレずに、目的を達成するためにこういう案をつくりました・例えば稲作やりますよ・紙飛行機やりますよ・アンケートやりますよ・それらを含めて「これは目的を達成するためにやっているのです」というものが最低限ないと厳しいと思います。



石川晋太郎先輩：隣の藤枝市をみると最初「スイーツタウン」とか「スイーツのまち」といってまちづくりを始めて「何言っているの？」とか思ったのですが、あれからかなり時間がたったら「スイーツ＝藤枝」と言うイメージはつきましたよね。ブランディング的にも成功した例ではないかと思います。現在も産業強化法とかいう認定都市に静岡市や藤枝市も入っている。最近では、起業家支援を推進し始めていて、これもやり続けていくと、あそこは「起業のまちだ」というイメージが付くのではないかと思います。うまい方法かなと。これも国の補助金で出来る事なので自分のまちの力はそ



れほどいらない。言い続けていく事が大事なのかなと思います。



大池誠一郎先輩：私は、島田JCとして方向性がその時その時で多少の違いがあっても目指している方向は、何となく決まっているのかなと感じます。ただ、単年度制があることで難しいかなという気もします。今色々な話を聞いていると、この年でやった事業を何年後かにやっていて繋がりがあるといえはあるのだと思う。でもやはり、それもブチブチと途切れていることが印象にある。何かもったいないかなと感じます。難しいかもしれないけれど継続事業をしても良いのかもしれない。

一現在も、長いスパンで事業をしているJCも多くあります。また、市民団体で、演劇を行ったり、お祭りやJAZZの音楽祭をやったりというのも実際にありますよね。

大池盛一郎先輩：市民でやるのにも限りがあるのでそこに島田JCが関わることで実現することがあるのかもしれない。

一大塚先輩は、藤枝に住まわれていますが、外から見てこの地域はどう見えていますか？

大塚邦昭先輩：勢いと言う点で言ったらやはり、藤枝市は全然違います。ただ、

藤枝の発展と言うのはナショナルブランド。いわゆる「チェーン店」のおかげの部分もあるので、「藤枝に住んでいます！！」という実感はあまりないかもしれません。全国のどこにでもある地方都市といった感じも一部します。

地域性を活かしたまちづくり

一「島田といたら〇〇」と言ったように特化したものがあつた方が良いでしょうか？

大塚邦昭先輩：場所的なことを言っても島田市が藤枝市になりましようっていうのは不可能。藤枝市に住んでいて、静岡市に働きに行っている人もかなり多いと思います。島田市が藤枝市と同じ土俵で競争しようというのも無理な話ですし、違う方向を目指した方が良いでしょう。それから先ほどの継続の話ですが、私が現役の時からも、はっきりと「継続事業をしないとまちづくりはできない」と言っておりました。その逆でJCの良いところは単年度制で、且つ卒業があるという点。どんどん卒業していき新しいメンバーが多少OBの顔色を見ながらも新しい事業ができる他の団体には無い良い制度だと思います。「継続事業をやらなきゃ駄目だ！！」とは思ったり、その一方で革新的な事業もやってみたいと思ったりと答えが出ない感じです。

白坂成吾君：住民に意見聞くという観点では、大塚先輩の実施したアンケートの中に割と訴え、ヒントが出ているのに、メンバーは忙しさに感じて全員がしっかり見ていない様に思えます。自分が理事長でアンケートをやった時でも大塚先輩のアンケートを参考にさせていただいたのですが、その中に結構訴えや答えがあつた。それをメンバーに言うのですがなかなか浸透しない。あれを見ると本当に求められているものが露骨にあつたりします。市民が求めるものを実行するのが我々島田

JCではないとは思いますが、みんなでも市民が求めているものを再確認するには良いのかなと思います。単年度制に関しては、善し悪しもあり。ただもうちょっと自発性が足りないように感じます。自分も叩かれた方なのでメンバー全体に元気がないのかなと思ったりします。



単年度制の中での継続事業とは

松永孝廣君：私は市外出身で、8年ほど前に越してきて事業をしています。静岡市は、今年徳川400年祭なのですが、私もお神輿の関係で携わっていますが、実は10年前から企画は進行していました。その他にもカンヌと提携都市で夏になれば映画祭を開催したり、それぞれかなり長いスパンで企画・運営されています。単年だと限界があるし、出来ることが限られてしまう。ただJCに所属して思うのが、理事長の意見を踏襲して自分なりにそれに応えるものを出す、といった単年度制でしか出来ないものもあると思います。一長一短ではあるけれどもJCの良さを出すのなら単年度で新しいものをどんどんと出していく事が良いと思います。また、過去の議事録等をたくさん読んでそこからひっぱって来ることもできる。それが実は今の現役メンバーに足りない部分。今この段階になって感じています。それから島田のポテン

シャルといえば、やはり豊かな自然があって交通の便がよい田舎ということ。「田舎」いう事を全面に出すべきだと思います。発展だけを求めると「都市へ行った方が良いでしょう」という話になってしまう。自分の心の健康のためや、子供たちを健康な場所で育てたいと田舎に移住する方が増えていますし、それもまちづくりのひとつだと思います。

伊藤裕一郎先輩：単年度かどうかと言う事に関しては自分も思っていた所で。良さもあると改めて感じたのですが、ただマンパワーをみても事業が多すぎるのではないかと。逆に事業を絞って厚みを増したものを実施する形はとれないのかなと思いました。

白坂成吾君：成功モデルをそのまま真似てしまいますが、施設の入場数ランキングが、ディズニーリゾート・U.S.J・刈谷S.Aの順番です。我々の地域にも新東名が通っていて金谷に広大な土地がある。実現するかしないは別で、J.C.が率先して何かをしかけてモデルを作っていくべきだと思います。空港も新東名もそうですが、あるものに対して自信をもって推していくことを求められているのかなと感じます。空港誘致のキャラバンではないですが、他の団体が「何でそこまでやるの?」と思うくらいに活動するのがJ.C.だと思います。もしこれが実現出来たとしたら刈谷を抜いて、ディズニーリゾート・U.S.J・金谷S.Aになるかもしれませんし。

引き出せるのは地域と住み暮らす人々の底知れぬ力

大石洋一先輩：今だからこそJ.C.の行う「まちづくり」と行政の行う「まちづくり」との違いが大ききあると感じています。先ほど企業誘致の話が出ましたが、企業誘致とかインフラ整備とかをJ.C.でやれと言っても

無理な話しです。逆に市も県も国も手を出せない所は何だと考えると「人の力」だと思う。例えば「活気のあまるまちにする」とか「人の力が元気だよ」とかっていうのは逆に市とか県とか国とかで成功したと言う事を聞いたことが無い。J.C.が出来る部分、J.C.しか出来ない部分はそこでは無いかなと思う。それに対して色々なアクションを起こしていくのがJ.C.の目指す所かなと思います。



白坂成吾君：プラス、行政とか今の時代背景だとかを密に情報を取っていかなくてはならない。必要であれば県庁や市役所に行って「どんな方向性で行くのですか?」と聞きに行っても良いし、市長や議員を呼んで「これからどうなるのか」説明をしてもらっても良い。そこで効果のあるやり方をリアルな所で突いていかないと出来ない。確かに夢を追う団体ではあるけれども、まちづくりは夢の話ではなく現実の話だと思う。いかに現実をどう掴むか、もっとえぐっていく所だと思います。

青年会議所は硬派な団体

一J.C.における「まちづくり」において、人と人との繋がり的重要性については、振り返りの時にお話しがありました。天王沢先輩いかがでしょうか?

天王沢雄之先輩：自分達の出したお金を自分達で計画をして自分達の考えで管理していける団体なので、その硬派な部分を発信する必要があります。自分達の考えを発信していくと言った意味では継続云々というよりも本質的なものを一本通す必要はあると考えます。「青年会議所はこうである」という事を「5年、10年」のスパン、後の「100年」のスパンで通していく。100年続けるという意気込みにもなるので、そう言うものがまちづくりには必要ではないか。今10年間で振り返っただけでも様々な形があったように思います。アプローチの仕方は様々(単年度)で構わないけれども、一つの道筋だけはやっぱり50年から100年に向けて「このまちづくりっていうものをJ.C.は考えていくのだよ」と言う事を現役の皆さんには考えてもらう必要があると思います。「初倉祭り」って年々バージョンアップしていると思うのですが、あれって経験がずっと積み重なっていているから大きくなってきている。大祭もそうでしょうし、その他のもしっかりで。脈々と受け継がれてきたブランドデザインを、まちづくりに関してもう一度これから先のデザインを作りあげなくてはならない。先程言っていたようにJ.C.は人を動かせるので自分達はもっと一生懸命に勉強して、色々な規制の事も勉強してから、アプローチが出来る団体、市や県に物申せる団体にプライドを持って成長していくべきだと思う。だから一過性の花火を上げることも大事だけれども地道に勉強して、地道に発信してという中でどういう方向性を持ってやって行くかは単年度ではやはり出来ない。まちづくりに関しては長期的なものの見方をしなくてはたぶん成功しないと思います。あとは、まちづくりの委員長になると悩まされてきたのは理事長の想いだと思います。まちづくりには正解が無いのでどうしたいのかが分からない。理事長だって分かって無いと思いま

す。でも皆「活気があるまちって良いよね」と言っているの、たぶん皆の共通意識はそこだと思います。目に見えないものだから目に見える形に皆が体現してきただけであって、だけどそれを現役のメンバーは目に見える形で責任を持って発信して、約束をして後世に繋げて、それを市や県に繋げられるようにする。そういう団体になっていくべきだと思います。他はたぶんどきないし無責任。責任を持って出来るのが違いだと思います。地域との繋がりでだけでは無く、自分達はどうあるべきかという事をもっと考えるべき、もっと勉強すべきだと思います。

地域住民はJCを見ている

一理事長経験者の大石先輩、白坂君いかがでしょうか？

白坂成吾君：まだ熱が冷めてないのですが、今年度とうかい号に乗船させていただきました。そんな中で、忘れていたものを思い出させてもらったのが、一般の乗船者がJCをどう見ているのかでした。僕らは自分のお金で、時間を費やして、家族に支えてもらいながらもこんなにやっているのという気持ちが長くJCをやっているとどこかで出てしまっている。一般の乗船者も僕たちが思っているよりも意識が高い人もいるし、レベルが高い人とか色々な人達がいて、結論から言うと一般の方達はJCにもっと高いレベルを求めているのだと感じました。メンバーは市民からJCの認知度が低いと思っていますが、一般の方はJCの事をよく見えています。本当に相手が引く程に本気になって「何でこんなにやっているのだろう」と思われたいと評価されないレベルに50年、60年やっていると、なってきたのだと改めて感じました。

大石洋一先輩：まず、理事長の時というのは方策をばんやりとしか掲げられません。それを具体化するのが委員長



であるし。正直、上に行けば行くほど本当の一手が指せないのではないかと、そして指す能力が無いのではないかとも思いました。そして、まちづくりは本当に甘くないと思いました。我々の何かの一手で、市町がすごく活気づいたとは、こちらからは言えません。地区に行けば行くほど余計ばんやりしていて、具体的に何をすれば、岐阜県は何をすれば、三重県は何をすれば活気が出るのでしょうかという話をした所で難しい。自分がブロック会長の時もトップだからこそ本当にシンプルで単純な言葉を使って挨拶をした記憶がすごくあります。上に行けばいく程どんどん大まかになってしまう仕組みなのかもしれません。

答えがないからこそ必要な一本の柱

一物事を大局的に見ていく中では、どのように一本筋を通す必要があるのでしょうか？

大石洋一先輩：5年10年という時系列の目標を決めると言うのは長くなればなるほどシンプルなものではなくてはならない。具体的だったら動けなくなってしまう。例えば、理事長、ブロック会長、地区会長があるけれども下にいる人が多ければ多い程物事をシンプルにしないといけないと発信をする時にどんどん枝葉が分かれた先で

伝言ゲームのように誤解が生まれてしまう。だから上に行けばいく程、長くなればなるほどその目標はものすごくシンプルにしていけないとずれが生じてきてしまうと思います。

一約2時間という長丁場でしたが貴重なお話を聞かせていただきまして、誠にありがとうございます。先輩方から色々なお話を聞いているとこれも繋がっているこれも、これも・・・と感じました。「まちづくり」は答えが無いもので、答えがないからこそ一定の期間の中で一本の筋を通す必要があると感じました。そして、単年度制だからこそ、我々の活動地域の事をしっかり勉強し発信していく必要がある事をお伺いさせていただきました。

答えの無いまちづくり事業を、それでも青年らしく追いつける事がまちづくりであり、連綿と続いている島田青年会議所の歴史なのだと感じました。最後になりますが、この特別頁がこれからの島田JCの、まちづくり事業の糧となる事をご祈念申し上げ、サミットを締めさせていただきます。本日は、誠にありがとうございました。

まちづくりサミット
2015年6月9日(火)
地域交流センター 歩歩路
第六会議室にて開催
コーディネーター 平口真鶴

青少年委員長サミット ～創立50周年特別企画3～



2015年度青少年育成委員会
委員長 河村裕樹 君

2013年度青少年育成委員会
委員長 町友輔 君

2009年度青少年育成委員会
委員長 石川晋太郎 先輩

2011年度青少年育成委員会
委員長 古川義典 先輩

2012年度青少年育成委員会
委員長 増田康信 先輩

2007年度青少年育成委員会
委員長 森章暢 先輩

2005年度青少年育成委員会
委員長 中村吉哉 先輩

2010年度青少年育成委員会
委員長 磯田辰哉 君

2006年度青少年育成委員会
委員長 鳴嶋茂治 先輩

2008年度青少年育成委員会
委員長 渡辺敬晴 先輩

はじめに

磯田辰哉君：本日はお忙しい中、歴代（直近10年）の青少年委員長をお招きし、青少年委員長サミットを開催させていただきます。本記念誌、特別企画頁にて、歴代の青少年委員長の意見や、経験を聞く事で、今後の青少年育成事業がより良い物になっていくと思います。青少年の委員長は、ご存じの通り自身が大変な部分もありますが、結果が良かったなと思える委員会のひとつだと思います。子供たちが将来、我々が住み暮らす地域を担ってくれるのだなと思ひながら事業を計画した経験もあると思います。そう言ったことも含め、お話いただければ幸いです。

先輩方が発信した 青少年育成事業

一まず、2005年の**中村先輩**の青少年事業ですが、久野脇の親水公園に

で行われました。事業はわんぱく合宿の企画・運営と自然環境保全・再生と地域に根ざす循環型社会に関する事業だったと思います。

中村吉哉先輩：第20回目のわんぱく合宿で、当時青年会議所の中の流れで20回をもって「わんぱく合宿」の名称を打ち切るという前提で話が進んでいました。一連の事業の流れで、川口での事前合宿、久野脇での2泊3日の本合宿、静岡空港予定地への記念植樹の合計3回開催をしました。理事長の想いで自然にあるものを使ってなるべくやりたいという事と、竹林の荒廃が当時から言われていた事もあり、竹を使ったコップや竹箸を事前合宿で作らせて、本合宿の食事などで使用しました。

一開催時期は6月から始まったのでしょうか？ 時期的なことを考えるとタイトだったのでは？

中村吉哉先輩：本合宿1ヶ月前の7月に事前合宿、8月に久野脇親水公園で2泊3日の本合宿、さらに9月に静岡空港で自然にかえすという事で記念植樹事業を実施しました。当時リサイクルとカリユースとかが叫ばれていて、植物を使ったのでそれを植えて返そうということで3回開催をしました。ボランティアは前年からの引き継ぎがほとんどでボランティアの募集に関してはそれほど困りませんでした。事業が3回あるという事で児童が集まりにくかったのを覚えています。

それから、もう一つの事業が“現役の警察官による講演会”でした。その事業が10月で9月の植樹の事業と時期がかぶってしまい大変でした。青少年事業という事で、バリバリの現役警察官の生活安全課長を招いて非行についての講演会を開催しました。



—2006年は初理事で青少年委員長を鳴嶋先輩が務めました。この年は自衛隊板妻駐屯地での開催で、私もとても印象深い青少年でした。

自由のためにあるルールを教えたい

鳴嶋茂治先輩：児童を集めるのに参加をお願いするという行為に労力を費やすばかりで、違和感を覚えた事を覚えていました。

当時は川根・川根本町など地元の山や川へ行き合宿というのが始まった頃でした。島田や焼津・藤枝など自治体での夏合宿やサマーキャンプがあり、そこへ子供たちが流れて行きました。コストパフォーマンスの部分でも自治体は参加費がかなり安く、島田JCの参加費と同額で7泊くらいのものもありました。そこで、今までと同じ事をしない方向で始まったのがこの年のわんぱく合宿でした。

前年の中村先輩の時から、わんぱく合宿を見直す風潮があった。わんぱく合宿の中にある「わんぱく憲章」の見直しをするかどうかの検討もやらせてもらいました。自衛隊での開催のきっかけは、僕らの何年か前にJCメンバーが例会で自衛隊へ行って好評だったのが一つです。その頃、子供たちが荒れているとまでは言わないけれど、それに近い現状でした。子供たちに礼儀作法や自由のためにはルールがあると教

える必要性を感じ、規律正しい自衛隊での開催を企画しました。まだ、自衛隊での例会経験のあるメンバーもあり、自衛隊での開催に漕ぎ着けました。わんぱく憲章の見直しの検討ですが、結果的には憲章自体は間違っていないという結論に達し、細かな解釈はその都度行いましょうという事になりました。子供達がより自分の思い通りに、どんな時でも幸せを感じられる様な力をもつ子供達を育てていきたい。そのための体験を与える方法を考えて行きましょう。ただ、基本的な部分は憲章に書いてあります。といった所に落ち着きました。

—2007年の青少年委員長は森先輩が務めました。忘れもしない「チャレンジ富士登山」を開催しました。

新たな青少年事業のチャレンジ

森章暢先輩：まず理事長から、「新たな青少年事業を考えてくれ」と言われ実施した事業が「チャレンジ富士登山」でした。自分が仕事の都合で参加できないのが嫌で、合宿ではなく1日で完結できるような企画を考えていました。当時は、子供たちはいつも早く寝るように言われてばかりなので、逆に夜通しで行える事業などをしたかったのですが、安全上の問題で断念し、なかなか自分の企画が通らなかった事を覚えています。最終的に行き着いた答えが「チャレンジ富士登山」でした。1日で完結して、これ以上のものは無いという想いを室長と副理事長に伝え、議案を通してもらった事を覚えています。

—本番も含み、何回富士山へ登りましたか？

森章暢先輩：本番含み3回、山小屋へお礼で2回登っています。議案の提出等が冬場だったので話し合いのために山小屋の方の自宅に2回程訪問しました。

—メンバーの参加人数が31名と多い方だと思ったのですが？

森章暢先輩：自分がずっとわんぱく合宿に出ていてメンバーがあまり参加しないのを経験し、メンバーを全員連れてどこかに行きたいという想いがありました。



鳴嶋茂治先輩：理事会で揉めた記憶があります。そもそも山に登って子供が体調を崩したら一人に一人付かなければならないので全員参加だと。そうしたら意外に子供でなくて大人がヘロヘロだったりした思い出があります。

中村吉哉先輩：熱海でブロックのアカデミー委員会があって、そのまま「チャレンジ富士登山」に参加したら死にそうなくらい大変だった記憶があります。

森章暢先輩：ここ何年か参加が無かった看護師のボランティアも、島田市の看護学校にボランティアを募ったのもこの年からでした。結果3名の方が参加してくれました。

—2008年の青少年事業は渡辺先輩の担当でした。2006年も青少年の委員を経験され2度目の理事で青少年の委員長を努めました。渡辺先輩が浜松出身という事で、弁天島周りで「ばくらの夏休み」と題した事業を開催しました。

青少年委員長サミット ～創立50周年特別企画3～



渡辺敏晴先輩：ここまでの青少年事業で「わんぱく憲章」の枠から外れははじめました。そして、自衛隊行きました、富士山行きました、次はどんな事業なのか？この年は、そういった先輩方の事業もあり、新たなアイデアを問われるプレッシャーを感じた事を覚えています。色々考えていく中で、「自分が知っている所で勝負したい」というのと、大井川流域のキャンプは、我々の住暮らす地域の子供たちは、普段からそういう環境にいるから、違う環境に行って新しい体験をしてもらいたいと考えました。事業は、「可能性」、「ふれあい」、「自然からの声」のテーマを掲げました。例えば、海は山や河川流域などから出る生活の負の部分が全て流れて出ていきます。それが環境にどう影響を与えているのか、そんなことも感じてもらえたらと思いテーマを設けました。

—2009年は石川先輩の担当で、改めて大井川流域での開催となりました。合宿も1泊2日から2泊3日になりました。

せっかく JC なんだから

石川晋太郎先輩：最初1泊2日で考えていたら、2泊3日にして欲しいと理事長から要望があり変更しました。2006年に自衛隊板妻駐屯地富、2007年はチャレンジ富士登

山、2008年天島夏合宿だったので、出向に行ったときに他LOMのメンバーに大井川の自然がこんなにあるのに、なぜ大井川流域で開催しないのか？と言われて「そういえばそうだ」という事で、大井川流域に開催しようという想いになりました。それと当時、自分がやけに「グローバル」にこだわっていました。子供たちが大人になる頃には、グローバル社会になっているから、逆に日本の良さを知って欲しいという想いから、「自然」、「文化」、「伝統」というテーマを掲げました。プログラムは大人が味わっても何か得られる程のレベルのものをせっかくJCなのだから集めたいと思い企画しました。プログラム1つ1つが講習会という内容の2泊3日の事業でした。自然ということでカヌー教室を実施して夏休み感を味わってもらいながら勉強をしていただきたと考えました。

—この年から参加者の決定を先着順から抽選形式に変更になったのはどうしてですか？

森章暢先輩：2007年の事業の募集について、クレームが出たのが原因だと思います。募集の資料を、教育委員会を通じて依頼し、一斉に配布してくれる予定だったのですが、2日ほどタイムラグが出てしまい、配布されたその日に応募したのに漏れてしまったというクレームでした。このような経緯があって抽選の方が公正であろうと、丸く収まるであろうと言う事で抽選方式に変更になりました。

—2010年は、磯田理事長が「未来へはぐくめ大きな心」と題し、静居寺・山の家・歩歩路において2泊3日で開催されました。

磯田辰哉君：2泊3日で開催して1泊目と2泊目で会場を変えたという所が新しい試みでした。1泊目は、挨拶が出来ない、道徳心が少ないという観

点から、自身の職業上の場所でも静居寺さんをお借りしました。ここ数年では一番少ない応募人数でがっかりしました。最初は30名の参加を目標としていましたが結果応募人数が20名、実際は19名の参加となりました。ボランティアも高校生をいれて実施してみました。多少の問題がありましたが、真面目な高校生もいたので助かった部分がありました。

—昔はよく子供会などでお寺に行って1泊2日でお寺の生活を体験などがありましたが、子供たちには新鮮だったのでは？

磯田辰哉君：募集ポスターにも「少し怖くもあり～」というフレーズを入れた方が興味を誘うかなと思ったのですが逆効果になってしまったのかもしれない。1日目は厳しめのプログラムで、2日目は子供らしさを大切にして、3日目はなかなかJCでは難しかったのですがナイフを使ったプログラムを実施しました。

—その後、10月に参加者の子供たちと保護者を招いて、子供たちのスピーチ発表、講師の方に法話をしていただきました。

親の子供に対する大切さ

磯田辰哉君：子供たちの健やかな育成にある根本的な問題として、「親自身が教育」という理屈をもっていたので、保護者に対し、子供が頑張っていた姿を見ていただくという観点で、10月に場を設けました。その時も、静居寺さんをお借りし、お坊さんを講師にお呼びして「親の子供に対する大切さ」などを法話して伝えていただきました。

—保護者や子供達からの反応はどうでしたか？

磯田辰哉君：青少年の本事業の方は、「帰ってからすぐは良くなるのだけ

ど」と言う声はありました。10月にこういった事業を実施し、子供達からは「あの時の気持ちを思い出しました」という反応があったのを耳にしました。自分としては満足した事業が出来たと思いました。

体験に特化させる必要性

一2011年は、古川先輩が川根町のチャリム21とラプリーホースガーデンと金谷などで事業を実施されました。この時は「OMO I Y A R I」をテーマとして、社会福祉協議会の方を呼びして開催されました。



古川義典先輩：金谷に集合し、SLで川根のチャリム21へ向かいました。そこで目の見えないという事はこういった感覚か、車いすに乗っているとどれだけ動きづらいかなどを子供たちに体験してもらいました。その後、天候が物凄く荒れて大変でした。夕方のバーベキューを雨対策で橋の下での実施を考えていましたが、予想をはるかに超えるどしゃ降り、空いていたチャリム21の調理室で急遽実施しました。今回はなかなか体験できる天候では無く残念でした。突発的な事が多くて、気球もギリギリまで業者さんと打ち合わせを重ねました。天候回復待ちで朝早く雨が止んで、「今だっ」というタイミングで寝ている子供たちを起して

実施した事を覚えています。

一2012年は増田先輩が初理事で青少年担当委員長でした。池の谷ファミリーキャンプ場で「きずな探検隊」と題し開催されました。

島田 JC 青少年事業の差別化

増田康信先輩：どうしても大井川流域で開催したくて何箇所かキャンプ場を見学して回りました。当日は、ドラム缶風呂や石釜でピザを焼きました。後は糸電話。子供たちにあまり普段出来ない事を体験させたい想いがありました。以前は、川で泳がせてれば良いか、といった感じでしたが、最近ではどこでもやっています。「どこか」や「何か」を特化させることで、島田JCの青少年事業が差別化できる努力が必要だと思いました。



一2013年は町専務が「トライ！～あきらめずにやり抜く気持～」と題して開催されました。

考える時間の大切さ

町友輔君：前年度、私も増田委員長のもと、担当委員として関わらせていただきました。自分が委員長になり、何をやろうか、どこでやろうかと考えていたら、理事長から自衛隊で学んでほしいという想いをいただきました。澤脇先輩を通して静浜基地にお願いし、実施をしました。自衛隊では、自分が

ラグビーをやっていた経験から「集団行動の大切さ」を子供たちに学んでほしいと思い規律訓練をしていただきました。集団行動の中で自分がどう行動をするべきかを感じてもらい、厳しい訓練の中でも楽しさを見出す力を養ってもらいました。自衛隊の方も厳しく指導してもらいありがたかったです。カヌー教室でも、「集団行動の大切さ」を子供たちに学んでほしいと思い、10人乗りのカヌーを使いました。それから、「にゃんこ先生のバルーン教室」ですが、講師に日付を一日遅く伝えてしまいました。しかし、無理を言って来ていただき、講師を待つ間、子供たちに今日の活動を振り返ってもらう反省会のような時間を設けたのが子供の為になったと思います。それが終わった後、にゃんこ先生が来てくれて楽しく講演をしていただき1日を終えたという思い出があります。

一2014年ですが、当時委員長の木村恭輔君が公務にて不在の為、当時筆頭副理事長の磯田辰哉君にお話を伺いたと思います。

本当の意味での青少年

磯田辰哉君：理工科大学から大学生20名程がボランティアで来てくれて、自分達の専門分野からひとつ事業をしてほしいという事で、花火・炎色反応実験をしてもらいました。その事業自体はとても良かったのですが、大学生にボランティアという意識が低く、遊びに来ている感じでした。その夜に木村委員長がボランティアとミーティングをして、その翌日からはガラッと変わり、大学生にとっても良い勉強になったと思います。我々も、ある意味では青少年育成事業の根本とする事の勉強にもなりました。また、ここ10年を振り返っても初めて県からの補助金をいただいた事業でした。翌日がMYFCの方を招いての夢教室。仕事をしながらサッカー選手もしているという

青少年委員長サミット ～創立50周年特別企画3～

方々のお話を聞き、その後JAXAから講師を招いての講演会を開催しました。これが意外に保護者の反響が良く、参加者募集に効果を生みました。

一歴代委員長の皆様から当時の事業について伺いました。ありがとうございます。2005年、2006年の参加者の中には、すでに成人を迎えた子供達もあり、時の流れの速さに驚かされます。この10年の間に家庭環境や社会環境が変わり、昔から言われている核家族の問題、メディアの発達によって実際に体験せずに知識だけの子供達が増える中で、青少年事業や地域での行事等で自分の子供時代とここ最近の子供たちの違いは感じますか？

渡辺敏晴先輩：遊び方というか、今は遊ぶ材料が全て用意され揃っている。甘やかされている感じがします。例えば暇でそこに棒があってそれを使って遊ぶという感じではない。テレビゲームもそうだけど、そこに揃っていて、どれで遊ぶかという感じがします。



石川晋太郎先輩：本来、教育の中心には家庭があって、その補助的役割が学校であり地域なのに、こんな田舎でもそれが逆転している様に感じます。

一教育を全て学校に任せるという親も

実際にいるみたいです。逆に学校も親に凄く気を遣っていると感じます。本日、お集まりの皆さんは、様々な年代のお子様をお持ちですが、学校に関して、そんな対応はありましたか？

教育現場での異常

磯田辰哉君：少なくとも小学校は親に対してそう言った感じ。例えば、小学3年生の息子が体育着を忘れてしまった時に、小学校から「この格好で体育をやらせて良いですか」と電話が来た。やらせて下さいというか、親としては忘れ物をした子供が悪いから正座させて下さいと答えました。ちょっとした事でもいちいち小学校から何かをするにあたり電話が来ます。自分の中では異常な事にしか思えません。高学年になればそうではないけれど、低学年くらいの子供だと遊びに行くにも、遊ぶところまで親が送って行く姿も見受けられます。

鳴嶋茂治先輩：まとめ役というか、ガキ大将的な子供もいない。子供が纏まってないものもある。

磯田辰哉君：たて割りがうまくいっていない気がします。昔は登校班のリーダーが、みんなの1日の予定を決めていた。6年生くらいが今日はここでサッカーをしようとかありましたが、今は全くないですよ。

一遊ぶ場所がない。あっても公園によってはサッカー禁止とか自由に遊べなくなっている現状もありますよね。

鳴嶋茂治先輩：昔は交通量も少なく子供達だけで遊んでいても割と危なくなかった。坂道を自転車ですり降りていた。世の中自体が、子供が外で遊びづらくなってきている環境に変わってきているのかもしれない。実際は子供の根本的なものは変わっていないように感じます。

磯田辰哉君：あとはマスメディア、SNS等の情報を受けた親が過敏に反応をしすぎて、それをそのまま子供に教えてしまっている。誰かが何か言いだしたらそれに便乗して「じゃあ、やめた方が良いよ」とかがはじまってしまう。



町友輔君：親が手を掛け過ぎなのだと思う。何でもやってあげるから子供が何も出来なくなってしまう。色々な環境があっても一概には言えませんがほったらかしが出来ない親が多く感じます。

森章暢先輩：昔はお金持ちの誘拐などが怖くて子供は親がかくまった。今は誰でも誘拐の対象者になりうるし、逆に親の虐待がバレるのが怖くて隠している事もある。

一親子が集まる場所、例えばイベントをして子供が集まればそこら中走り回って自由に遊んでいる。楽しそうに遊んでいるのを見るとそういう場を与えるのも必要かと思います。

磯田辰哉君：しかし、その反面で親が面倒臭くてゲームを与えちゃうって所もあるも事実でしょうけど。

根本には核家族化の問題

鳴嶋茂治先輩：やっぱりそこが核家族化の問題点かもしれない。昔は稼

ぎが少ないから同じ家に祖父母も両親もいるのが当たり前。そうでなかったら暮らしていけなかった。

石川晋太郎先輩：今は下手に祖父母がいると何でも買い与えてしまったりする。

渡辺敏晴先輩：たまに会うと余計にそうですね。一緒に住んでいればそこは違ってくると思います。昔は家庭と教育のバランスが良かったのだと思う。

—そんな環境の中、これから島田青年会議所が青少年育成という観点で何ができるか？何を重んじて事業を進めていくか？親にも学校にも出来ないことをやって行かない岐路にきていると思います。歴代委員長の中にも「もっとこれが出来た、したかった」地域のコミュニティでは出来なくても、JCには出来るのではないか、これから現役メンバーに向けてお願いします。



鳴嶋茂治先輩：方法は何でも良いと思います。富士山でも自衛隊でも色々な体験はさせてあげられる。今は選択肢が多くて恵まれた良い時代かもしれませんが。子供たちにとっては、色々な情報があり、様々な体験できる時代だとは思いますが。だからこそ、「これは何のためにあるのか」、「誰がどういう思いでこれを作っているのか」という事を、子供たちが受け取る時間を大切に

しないとメディアと一緒に流れて行ってしまう。やっていること全てに意味がある事を考えさせなくてはならないと思います。現役メンバーは、忙しくてもその部分を忘れないでいただきたい。そういう所が本当に大切な部分で、理事会を通す事が大切ではない。そこを大切にしていかなないと事業自体が流れてしまいもったいないと思っています。

真剣に向き合えば 必ず伝わる

鳴嶋茂治先輩：大切な時間というのは、突発的で偶然の産物の町君の反省会の時間が良い例だと思います。この時期の青少年の事業にはよく参加していたが、渡辺君の事業の時が一番大変でした。終わってからボロボロなくらい体力的にきつかった。覚えているのは、渡辺委員長が事業の中で子供達に、暑いし、歩くし、汗をかくから温泉に入れてあげようと思配してくれていましたが、20分くらい歩いてお風呂まで向かう道中で、子供たちがうるさいほど文句を言っていた。自分も暑いし疲れていてイライラしていましたが、とにかく入浴はさせました。子供達がお風呂から上がった後、「なんで渡辺委員長がお風呂に入れるように手配してくれたかわかるか？」「君達が疲れているだろうから1日の疲れを取るために、ここへ来てお願いしてくれた。それに対して君達は文句を言うのか。」と子供達を座らせてお説教をしました。

—その時の子供達の反応はどうでしたか？

鳴嶋茂治先輩：静かに話を聞いていました。やっぱり大人が真剣に怒ると子供は静かに聞きます。それで「帰ったら必ずお礼を言えよ。」と伝えると、しっかりお礼を言っていました。こうやって考えるとやっぱり説明って大切だなと感じました。



一つひとつの プログラムが事業

磯田辰哉君：今の話を聞いて、理事会ではどんな事業も、それぞれに意味があるから想いを伝えるべきだと感じました。今のお風呂を一つの事業とするならば、理事会でも想いを伝えるべきなのかなと思う。その事業の意味を理解してもらうのに時間を費やすことが出来るのがJCだと感じています。

鳴嶋茂治先輩：委員長だけではなくメンバーにも想いを伝えないとダメ。委員長ひとりだけ分かっているでは仕方ない。メンバーとその想いを共有し、子供達に伝えられるようになる必要がある。事業の中に組み込むことも大切だけど、気持ちの部分で委員長とメンバーがそこまでの考えを共有することが大事。

中高生に向けた青少年

磯田辰哉君：あわよくば青少年でもある中高生に手を伸ばしたいと思っているがやはり断念してしまう。そこはどうにか出来ないかと・・・。

森章暢先輩：高校生はある意味では、もう完成されてしまっている。中学生なら、ボランティアと呼んだ事もあった。小学生の時に参加していて中学生になってからボランティアとして参加してくれた。

青少年委員長サミット ～創立50周年特別企画3～

磯田辰哉君：小学生の間は厳しくても大人がどうにか抑えられるけど、中学生になるとはじけてしまう。その前にどうにかしたいという理由から、中学生を対象にしたかったのだけど実現しなかった。しかし、よくよく考えたら新卒の先生達は自分達よりも年下だし出来ない事はないと最近は思います。

渡辺敏晴先輩：J Cの青少年事業ほど子供の数に対して看ている大人の数が同数って事業は他にない。ボランティアも入れると子供1人に対して大人1.5人くらいではない？

森章暢先輩：それもここ最近の事。その昔は委員会メンバーだけしかいなかったし、ボランティアがいても各班に1人か2人くらいだった。ここ10年くらいでメンバーが参加してくれるようになった。

磯田辰哉君：この資料のメンバー数も最終的に来たメンバーの数だから一概には言えないけれど。途中の時点では委員会メンバーだけの時もあったり、人数が足りない事もあったりした。

危険を知るという事も学び

渡辺敏晴先輩：とはいえここまで大人の数が多事業ってそんなにないと思う。商売でやっている所だったら絶対に成り立たない。

一子供にとってこういう状況はどうなのでしょうか？

渡辺敏晴先輩：目が届く分、子供達にある程度の事をやらせることが出来る。理事会で「これもあれもダメ」でなく、もう少し柔軟な考えでも良いと思う。あまりに危険性を意識しすぎると何もできなくなってしまう。大人の目があるからこそ、もう少し自由にやらせても良いのかなと思う。

さっきも刃物の話も出たけれどそれくらいは良いのではないかなと思います。

森章暢先輩：最後に刃物を使わずかどうかは、理事メンバーの覚悟だけだと思います。

石川晋太郎先輩：私の年度でカヌーの時間に高校生のボランティアが子供を連れて奥の方まで行ったのは良いけど戻ってこれなくなった事がありました。

中村吉哉先輩：自分が委員長をしていた時は、結婚もしてなくて子供もいない時でした。わんぱく合宿も20回目と言う事もある刃物を使いました。とにかく怪我はさせてはいけないと周りから言われ、最初は保護者対策に追われました。逆に親になると「軽い怪我くらい良いじゃん」と言える親が参加させているキャンプの方が良いと思うようになりました。保育園などで役員を経験して感じたのは、学校の先生も保育士さんもリスクを負いたくないということ。保育園のお泊まり保育も「リスクを負いたくない」とはっきり言われ、なくなりました。学校や保育園はそういう方向で進んでいるから、J Cには多少のリスクは覚悟して事業をして欲しい。委員長もその位の心構えを持って欲しいと思います。

今だから理解できる 青少年事業

一ありがとうございます。J Cとしての青少年の今後のあるべき姿が見えてきた様に思います。少し変わりますが、鳴嶋先輩の事業報告の中で「自分のシナリオ通りに子供達を動かそうと思っていたのがおこがましい、考えが浅はかだった」とあるのが興味深かったです。

鳴嶋茂治先輩：言い方は悪いけど子供

はほぼ動物だと思っていました。こっちがどんどん教えて体験させるだけでしっかりしてくると思っていた。でも子供達は結構しっかりと考えていてやることに対して一生懸命取り組み、ほっといても協力して勝手にやることは出来る。そこからもう一歩踏み込んで考えさせたりそれをフォローしたりするのは大人次第だと思います。より濃い事業、体験をさせる事が出来なかった自分を、まだ浅かったと感じています。



改めて考えるわんぱく憲章

一わんぱく憲章が出来てちょうど30年です。改めて、わんぱく憲章を説明すると、団結心・友情・やる気・向上心・探究心・好奇心・リーダーシップ・達成感・子供達から学ぶ事ありますが、渡辺先輩いかがでしょうか？

渡辺敏晴先輩：わんぱく憲章は何となくゆとり教育と重なる所がある様に思えます。子供の自由な力を信じて、極力手は出さず、何も言わずにただ場を与えてやらせる。という事で理解しています。

鳴嶋茂治先輩：一言で言うなら「子供の力を信じて」がベストかな。

渡辺敏晴先輩：そういう意味では自

分達が子供に伝えたいメッセージがあるならば、わんぱく憲章に則ってやると伝わらない。そういう意味で私の時はやりやすかった。

一方法は何であれ、子供達に考える時間を与えて自分達が伝えたいメッセージを受け取ってもらえる事業をするならば、ない方がやりやすいということですか？

渡辺敏晴先輩：何か目的や狙いがある事業をやるのであれば、わんぱく憲章に則ってやると子供任せで縛りがなくなってしまう。子供に何を学びとって貰うかも曖昧になってしまう。狙いがしっかりあるのならわんぱく憲章は個人的にはない方が良いと思います。

鳴嶋茂治先輩：ただ、こういう風に団体で事業をやっているという意味を考えると主軸となる何かが欲しい。何でも良いと言っている、何を軸にして事業を組立てるかが必要。憲章的なものは考えを何処からスタートさせるかの軸になるからあれが無くて良いって訳ではないのも確かだと思います。

中長期ビジョンの必要性

石川晋太郎先輩：まちづくり事業の時にも出ましたが、単年度制であるけれども中長期的なビジョンをもって活動した方が、効果があるのではないかと思います。

磯田辰哉君：青少年育成においてもそれは同じ事が言える。理念みたいなものが必要と考えています。

鳴嶋茂治先輩：私的にはあっても良いのではと思うけれど、わんぱく憲章にこう書いてあるからこうしなさいと言うのは間違っていると思う。時代も変化すれば捉え方も変わってくると思います。

磯田辰哉君：J Cは単年度制だから理事長によって色々と考え方が違ってくる。だからこそ、軸となるものは欲しい。そこを考えて一番あてはまるものは綱領とかなのかなと思います。

渡辺敏晴先輩：青少年事業だけに理念があるとダブルスタンダードみたいな事になってしまう可能性もありますが。

鳴嶋茂治先輩：もしかしたら、綱領や理念から派生した「青少年事業はこうあるべき」をつくっても良いのではないかと。

磯田辰哉君：たまたまかもしれないけど、ほとんどが初理事で青少年事業の委員長を経験している。

渡辺敏晴先輩：任命されてから2ヶ月ぐらいで事業を作るとなると大変だし期間的にもキツイ。

磯田辰哉君：初理事の時は特に先程のような理念があればやりやすいのかもしれない。

中村吉哉先輩：入会して1年経つか経たないくらいで初理事に任命されて資料作れと言われても、見たこともないしどうやって作っていいのかも解らない、どうしていいか全く分からなかった。

鳴嶋茂治先輩：初理事だからって許されないのがJ Cなのかもしれませんね。

一まだまだ話は尽きませんが、お時間になりましたのでここで終了とさせていただきます。

本日は、我々一般社団法人島田青年会議所 創立50周年の記念誌特別企画頁「歴代委員長サミット」にご協力いただきありがとうございました。結論が出たもの、課題が浮彫りになったものなど、多くのお話を伺うことができました。冒頭には、歴代委員長より当時を振り返ってのお話し、そしてこの10年の子供たちを取り巻く教育環境について、そして今後の島田J Cについてのあり方などをお話しいただきました。この頁を読む事により、メンバー自身が選んだJ Cという選択に誇りを持ち、島田市・川根本町をはじめとする活動エリアでの更なる青年の運動の糧となり、更なる青少年育成に力を発揮できるような記念誌を製作させていただければと存じます。お忙しい中、ありがとうございました。

青少年委員長サミット
2015年6月18日(木)
地域交流センター 歩歩路
第六会議室にて開催
コーディネーター 平口真鶴



特別会員

1970	松浦 勝巳 森下 利雄		伊藤 一成 鈴木 徹		石川 信明 牧野 克己	1995	松下 清 北川 正澄
1971	柳川 秀 柴田 保雄		平松 吉祝 大塚 聰		加藤 友吉 岡村 良一		山田 主税 落合 直人
1972	加藤 太郎 町 錠一		塚本 伸一 萩原 寛一郎		大鐘 祥太郎 竹島 総一郎		曾根 一利 谷口 輝雄
	吉原 正 川崎 泰司	1987	濱村 耿夫 大石 秩秀		杉本 範夫 増井 鋼次		松本 明弘 牧野 高彦
1974	穴水 洋 大石 明司		大石 和好 桜井 憲三郎	1991	佐藤 晴男 河村 隆夫		柳川 洋一郎 八木 敏文
	山田 金夫 大塚 忠		河村 元 増田 峰男		山本 雅史 中澤 泰廣	1996	小澤 達 落合 睦美
1975	柴田 正弘 太田 圭一郎		大島 至了 櫻井 誠		岡田 和広 町 達郎		福世 容也 木村 英文
1976	塚本 昭一 沖 眞太郎	1988	池田 雅彦 水野 豊		大石 忠史 河原崎 学		北河 豊孝 高橋 渡
	松永 今朝二 奥川 修司		藤田 篤 三宅 和明	1992	杉山 芳巳 藁科 高夫		栗田 貞夫 三宅 馨
1977	櫻井 新策 石川 博		和田 静雄 石原 敏郎		太田 博康 平口 義之		横田 川庄一 村松 庄太郎
	井上 勝彦 宮村 昌利		石川 勇太郎 清水 誠		大池 功 鈴木 昭司	1997	飯田 忠史 河村 茂詞
	山城 貞夫 駒形 昌利		天野 卓次 浅野 蒸治	1993	鷺坂 純生 塚本 敦		町 泰治 浦田 重弘
1978	北川 浩三 1980 床原 史郎		増田 孝二 大池 好正		伊藤 泰宏 長井 雅仁		小川 恵治 渡辺 義郎
1981	柴田 弘一 渋谷 忍		増尾 三郎 村田 恵司		神戸 己代治 太田 政昭		加藤 清 五藤 泰弘
1982	鈴木 聰 八木 和夫	1989	富岡 知生 大川 剛史		永井 英雄 柴田 一範		松浦 富雄 水野 兼行
	孕石 善朗 大澤 勲夫		木村 英雄 白井 一昭		尾坂 昇 大塚 光宏	1998	服部 信宏 長谷川 広亘
1983	中山 俊八 塚本 好汪		池田 益朗 竹内 正明	1994	園田 穰 安原 孝由		田中 幸裕 濱田 行二
1984	白坂 良勝 長谷川 圭司		宮坂 明 深見 章之助		池ヶ谷 真澄 山本 隆重		八木 孝之 鈴木 教之
1985	河合 紘一 藁科 晴氏		川端 祥治郎 秋山 晴美		池田 嗣夫 太田 芳伸	1999	牧野 京夫 遊川 伊知郎
	小塩 勝久 野中 辰美		一言 充男 鈴木 國近		高橋 吉徳 鈴木 正彦		大関 諭 板野 悟
1986	杉本 伸夫	1990	横山 和由		渡辺 義介		多治見 則之

2000	山田季世史	2005	小杉 利浩	2011	石川晋太郎	物故者
	牧田 充夫		飛野久美子		村田 光伸	
	中林 功德		笠井 高広		大石 聡	1993 天野喜三郎
	成岡 浩志		高田 雄一		鳴嶋 茂治	1994 大石勝之亮
	齋藤 光哲		小林 律昭		岩ヶ谷耕司	1996 天野 恵右
	仲田 博之		松野 雅樹		鈴木 一令	鈴木 浩也
	暮林 堅樹		安藤 功		宮崎 礼之	1997 吉田 省三
	飛野 暁彦		脇坂 政秀		土屋 宏美	1998 塚本 将博
	中野 博美		竹内 忍		河守 計俊	1999 立林 健一
	萩下 学		大石 靖之		仲野 博仁	藪崎 龍馬
2001	佐藤 透	2006	雨夜 光広	2012	諸田 昌人	2001 松下 信吾
	加藤 太二		山岸 一弥		桜井 知乃	落合 一清
	星野 匡伸		市川 充宏		塚本 章博	2002 松下富美雄
	篠宮 洋		土屋 行男		工藤 悦男	富永 正博
	太田 晴也		藁科 太祐		太田真一郎	2005 村田佐久二
	酒井 昌浩		曾根 靖之		村本真太郎	2006 酒井 中利
	駒形 文隆		原崎 祐輔		山本 暁也	石神 勝
	小澤 正人		高木 秀哉	2013	森 章暢	浦野 圭史
	岡村 修	2008	佐藤 哲也		村田 共績	2009 坂原哲次郎
	大塚 正浩		佐藤 克美		落合 秀樹	2011 大石 千八
2002	増野 賀久		増野 智志		塚本 幸宏	2012 太田 修平
	曾根 豊久		北川 毅		伊藤裕一郎	佐藤 潔
	植田 春克		小寺 敬二		増田 康信	2013 宮村 静
	三村 秀雄		森下 隆利		伊東 真介	2014 佐藤 和則
	秋山 貴紀		澤脇 丈博		増野 稔之	河崎 秋司
	村岡 真生		増田 直樹		秋山 保幸	穴水 洋
	菅沼 一茂	2009	大塚 邦昭	2014	大石 洋一	
	森下 真琴		大池盛一郎		新聞 太郎	
	駒形 康寿		中村 吉哉		木田 明良	
2003	井上 吉勝		増野 昌徳		浅原 克己	
	塚本 聡		脇坂 和洋		天王沢雄之	
	中村 敬彦		平田 司		五條 新也	
	櫻井 敬久		橋本 慶弘		長谷川英之	
	谷坂 浩之		大塚 信章		水野 貴章	
	池田 豊		河原崎茂則		古川 義典	
2004	宇佐美正規		赤堀裕一郎		西野 正洋	
	鈴木 数人		渡邊 敏晴		大石 進吾	
	寺尾 昇人		五嶋 宏枝		中村 太輔	
	河原崎 聖		大池 茂		伊與田知子	
	山岸 一巳		田中 信也		雜賀 理仁	
	落合 由隆		沖 建司			



あ と が き

創立50周年の佳節を迎えるに当たり、先輩諸兄がこれまで積み上げてきた誇り高き島田青年会議所の歴史に触れることができました。そこには常に地域への熱い想いが満ち溢れ、その活動にご理解ご協力をいただいた多くの皆様の支えがあった事を改めて知る機会となりました。私たちは、この歴史の重みを受け止め、長きに亘り受け継いできたその想いを更に熱く持ち続け、明るい未来へと活動を発展させていかななくてはなりません。

本記念誌が、島田青年会議所の歴史を後世に伝え記すものとし、当会の今後の活動の支えとなり、延いては地域の力となれば幸いです。

結びに、本誌にご祝辞を賜りました皆様、誇り高き島田青年会議所の歴史を紡いできていただいた先輩諸兄の皆様、そしてすべての皆様に心からの感謝を申し上げ、編集後記と代えさせていただきます。誠にありがとうございました。

一般社団法人島田青年会議所
創立50周年記念式典・祝賀会実行委員会



一般社団法人 島田青年会議所
50周年記念誌
Junior Chamber International Shimada

発行日：2015年10月 / 発行：一般社団法人島田青年会議所
427-0056 静岡県島田市大津通1965番地 サンライズ島田3-B号
TEL 0547-35-6359 FAX 0547-37-7855
E-mail simadajc@vc.tnc.ne.jp
U R L <http://www.shimadajc.or.jp/>

